例　　言

1．本書は宅地分譲に伴う「高関・堰村遺跡」第２次調査（市遺跡調査番号498）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、ケイアイスター不動産株式会社の費用負担によって実施された。記して感謝の意を申し上げます。

3．本調査及び整理作業は高崎市教育委員会文化財保護課の指導のもと、技研測量設計株式会社が実施した。

4．発掘調査および整理作業の体制は下記のとおりである。

遺跡所在地	群馬県高崎市高関町字堰村94－１、他
監理指導	田口一郎・瀧澤　匡（高崎市教育委員会）
調査担当	瀬田哲夫（技研測量設計株式会社）
調査員	宇佐美義春　佐野良平（技研測量設計株式会社）
調査補助員	丸山和浩　坂田裕之（技研測量設計株式会社）
発掘調査期間	平成23年２月７日～３月14日
整理作業期間	平成23年３月15日～６月30日
調査面積	938.39㎡
発掘調査参加者	飯塚三郎　石川輝子　植松郁雄　岡庭秋男　岡野　茂　黒田雄司　清水萬年　新地幸浩　鈴木美咲　中野光雄　中村昌博　那波克人　松下正雄　松本徳雄　間庭啓治　三原一重　村山重男
整理作業参加者	宇佐美義春　大川明子　佐野良平　坂田裕之　（技研測量設計株式会社）　須藤香織　瀧澤佳子　田部井美砂子　福島禄子

5．本書の編集は前田和昭（技研測量設計株式会社）が行い、執筆は第１章を田口が、他を瀬田が行った。

6．出土遺物の基礎整理・分類作業は竪穴住居跡を中村岳彦（技研測量設計株式会社）、縄文時代の遺物を宇佐美、他を瀬田が担当した。

7．発掘調査で出土した遺物および、図面等の資料は、一括して高崎市教育委員会で保管されている。

8．発掘調査および報告書の作成にあたり、下記の機関に有益な御指導、御協力を賜った。記して謝意を表します。（敬称略）
山下工業株式会社

凡　　例

1．全体図および遺構平面図に示した方位は北に座標北を表し、座標については世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を使用している。本文および図中では下三桁を表記している。

2．挿図に国土地理院発行1/25,000『高崎』『前橋』、高崎市発行１/2,500都市計画図を使用した。

3．土層および遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に拠る。

4．遺構表示の記号は、竪穴住居跡：SI、掘立柱建物：SB、ピット：PT、土坑：SK、溝：SD、性格不明遺構：SXとした。

5．掲載図面の縮尺は、全体図は１/300、遺構個別の平面図及び断面図は１/60、カマドは１/30を基本とし、それ以外のものについては右下にスケールを示した。

6．遺物実測図及び拓影図の縮尺は、１/３を基本として大型の土器については１/４とし、それ以外のものについては右下にスケールを示した。

7．本文および表中の計測値については〔　〕は現存値を、（　）は復元値を表す。

8．遺物写真図版は、１/４に近づけるように撮影を行い、それ以外のものについては右下に（　）で示した。

9．遺物実測図、遺構図のトーン表現は以下の通りである。

須恵器　　石器磨面　　硬化範囲　　灰範囲　　焼土範囲

10．主な火山灰降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-A（浅間Ａ軽石：1783）、As-B（浅間Ｂ軽石：1108）、As-C（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半）
Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）

目　　次

例言・凡例
目次
Ⅰ．調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ．調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅲ．遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・2
　1．地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・2
　2．歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅳ．基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Ⅴ．検出された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・6
　1．調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・6
　2．遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・6
　（1）竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・6
　（2）ピット・掘立柱建物・・・・・・・・10
　（3）土坑・・・・・・・・・・・・・・・・13
　（4）溝・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　（5）性格不明遺構・・・・・・・・・・・16
　（6）遺構外出土遺物・・・・・・・・・・16
Ⅵ．発掘調査の成果と課題・・・・・・・・・・・・41
報告書抄録

挿図目次

第1図　遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第2図　周辺遺跡図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第3図　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第4図　調査区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第5図　SI01・02・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第6図　SI03・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第7図　SI04・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第8図　SI05・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第9図　SI06・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第10図　SI07・08（1）・・・・・・・・・・・・・・・・20
第11図　SI07・08（2）・・・・・・・・・・・・・・・・21
第12図　SI09・10・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第13図　SI11・12・13・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第14図　SI14・15（1）・・・・・・・・・・・・・・・・23
第15図　SI14・15（2）・・・・・・・・・・・・・・・・24
第16図　SB・PT分布図・・・・・・・・・・・・・・・・25
第17図　PT（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第18図　PT（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第19図　PT（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第20図　PT（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第21図　SB01・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第22図　SB02・03・04・・・・・・・・・・・・・・・・28
第23図　SB05・06・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第24図　SB07・08・SK32・・・・・・・・・・・・・・・30
第25図　SK・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第26図　SD01～05・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第27図　SD06～12・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第28図　SD13・14、SX・・・・・・・・・・・・・・・・34
第29図　出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・・・・・35
第30図　出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・・・・・36
第31図　出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・・・・・37
第32図　出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・・・・・38
第33図　遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・41
第34図　調査成果と高関屋敷・・・・・・・・・・・・・42

表　目　次

第1表　PT計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第2表　SK計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第3表　出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・39

写真図版目次

PL 1　調査区全景（上が北）

PL 2　SI01全景　SI02全景　SI03全景　SI03掘り方全景
　　SI04全景　SI04竈全景　SI05全景　SI05竈全景

PL 3　SI06全景　SI06竈全景　SI07全景　SI07竈全景
　　SI08竈全景　SI09全景　SI10全景　SI11～13全景

PL 4　SI14全景　SI14掘り方全景　SI15全景
　　SI15掘り方全景　SD01全景　SK32全景　SD09全景
　　SD13全景

PL 5　SD02全景　SD03全景　SD04・05全景　SD06全景
　　SD07全景　SD08全景　SD10全景　SD11全景
　　SD12全景　SD14全景　SX01全景　SX02全景
　　SX03全景　SK23全景　SK27全景

PL 6　SK04全景　SK05全景　SK10全景　SK11全景
　　SK12全景　SK13全景　SK15全景　SK17全景
　　SK19全景　SK24全景　SK28全景　SK29全景
　　SK30全景　SK31全景　SK33全景

PL 7　出土遺物

PL 8　出土遺物

Ⅰ．調査に至る経緯

平成22年10月、ケイアイスター不動産株式会社より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地分譲予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地が都市計画道路に伴い調査された高関堰村遺跡に隣接し、古墳～中世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年11月2日付けで、事業者より文化財保護法第93条の届出と試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は平成22年11月29日に工事予定地の試掘調査を実施し、部分的な攪乱はあるもののほぼ全域で古墳～中近世の遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、文化財保護法第93条の規定による回答で、道路建設予定地の記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、技研測量設計株式会社に委託して実施することとなり、平成23年2月1日付けで高崎市長・事業者・技研測量設計の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成23年2月1日付けで事業者と技研測量設計の二者で発掘調査委託契約が締結された。

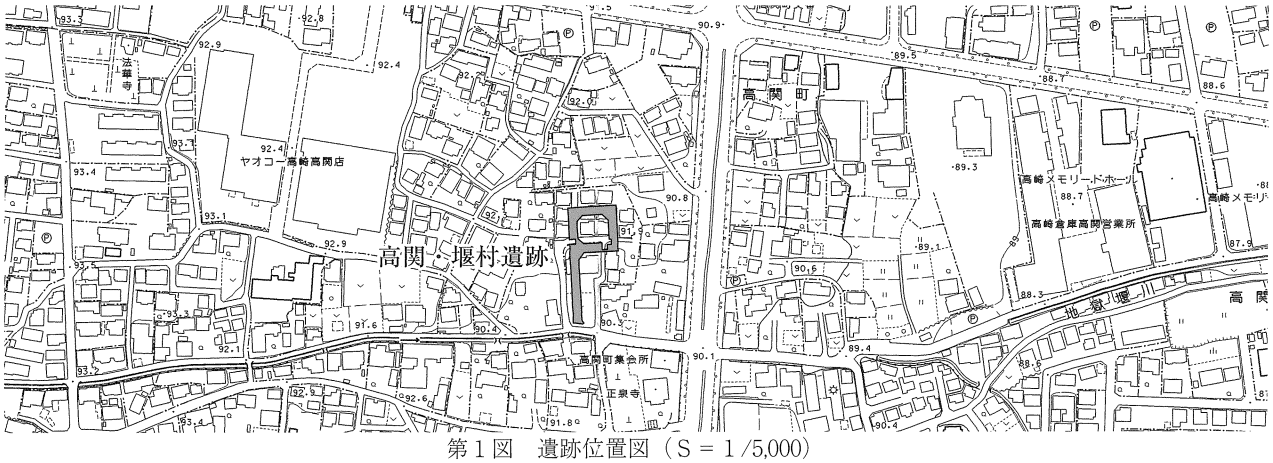
Ⅱ．調査の方法と経過

今回の発掘調査は試掘調査の結果から、現状保存が不可能な宅地分譲に伴う道路部分（幅6ｍ）を該当箇所として行い、調査面積は938.39㎡である。座標は世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を使用している。

発掘調査は平成23年2月7日より開始した。表土掘削には0.45㎥バックフォーを使用し、試掘調査の結果を参考に、高崎市教育委員会立会いのもと実施した。重機による掘削作業と並行して、人力による掘り下げを行い、遺構確認作業を進めた。検出した個別遺構は順次掘り下げ、精査、写真撮影、遺物取り上げ、測量を行った。遺構調査は、重複関係確認の上で、遺構単位で行い、遺構廃絶時から構築時に至る各段階を見極めながらの作業に努めた。全体の土層観察用のベルトは4分割ないし2分割とし、竈は「十」字の分割を原則とし、必要に応じて「キ」字の分割とした。3月9日にはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、その後、基本層序のトレンチ調査等を実施した。3月10日に高崎市教育委員会による終了確認が行われ、3月14日に現地調査は終了した。

検出遺構の図化については電子平板を用いて平面図の測量・編集、断面図は現地で撮影した画像から、座標を保持したオルソーフォトに変換して編集を行った。断面図は、一部、手実測で行い、縮尺は1/20、竈は1/10を原則とした。写真記録は35㎜モノクロフィルム、35㎜リバーサルフィルム、及びデジタルカメラの3機種を併用して撮影した。

報告書作成作業は、現地調査終了後に開始した。出土遺物に関しては洗浄、注記、接合・復元、実測・トレース、写真撮影、デジタル組版を、遺構図に関しては、修正、デジタルトレース、デジタル組版と作業を進め、その後、原稿執筆、校正のかたわら納品準備を行い、6月30日までに全ての作業を終了した。



第1図　遺跡位置図（S＝1/5,000）

Ⅲ．遺跡の位置と環境

１．地理的環境

高崎市は関東平野の北西端部に位置する。西に浅間山、北に榛名山、北東に赤城山等の山々を背にし、市内には浅間隠山、鼻曲山を水源とする烏川が碓氷川・鏑川・井野川等の支流を集めながら、北西より南東方向に流れ、玉村町・伊勢崎市域で利根川と合流する。赤城・榛名両山の間を流れる利根川は前橋泥流を基盤とする前橋台地を、榛名山を水源とする中小河川は南東斜面に相馬ケ原扇状地をそれぞれ形成し、碓氷川・烏川・井野川流域は河川の浸食により、小規模な低地と微高地が入り組んだ地形が形成されている。

本遺跡は高関堰村に所在する。市街地から東へ約１kmの距離にあり、前橋台地西部の井野川泥流により形成された標高 91 ～ 92 ｍの微高地に位置する。北東約２kmには井野川、南西約２kmには烏川が流れ、烏川を水源とする灌漑用水である長野堰は大橋町で一貫堀川に、高関町で倉賀野堰・矢中堰・地獄堰に分流し、それぞれ井野川や烏川に注ぎ込んでいる。本遺跡の南約４ｍには地獄堰が、約 450 ｍには矢中堰が東流している。

２．歴史的環境

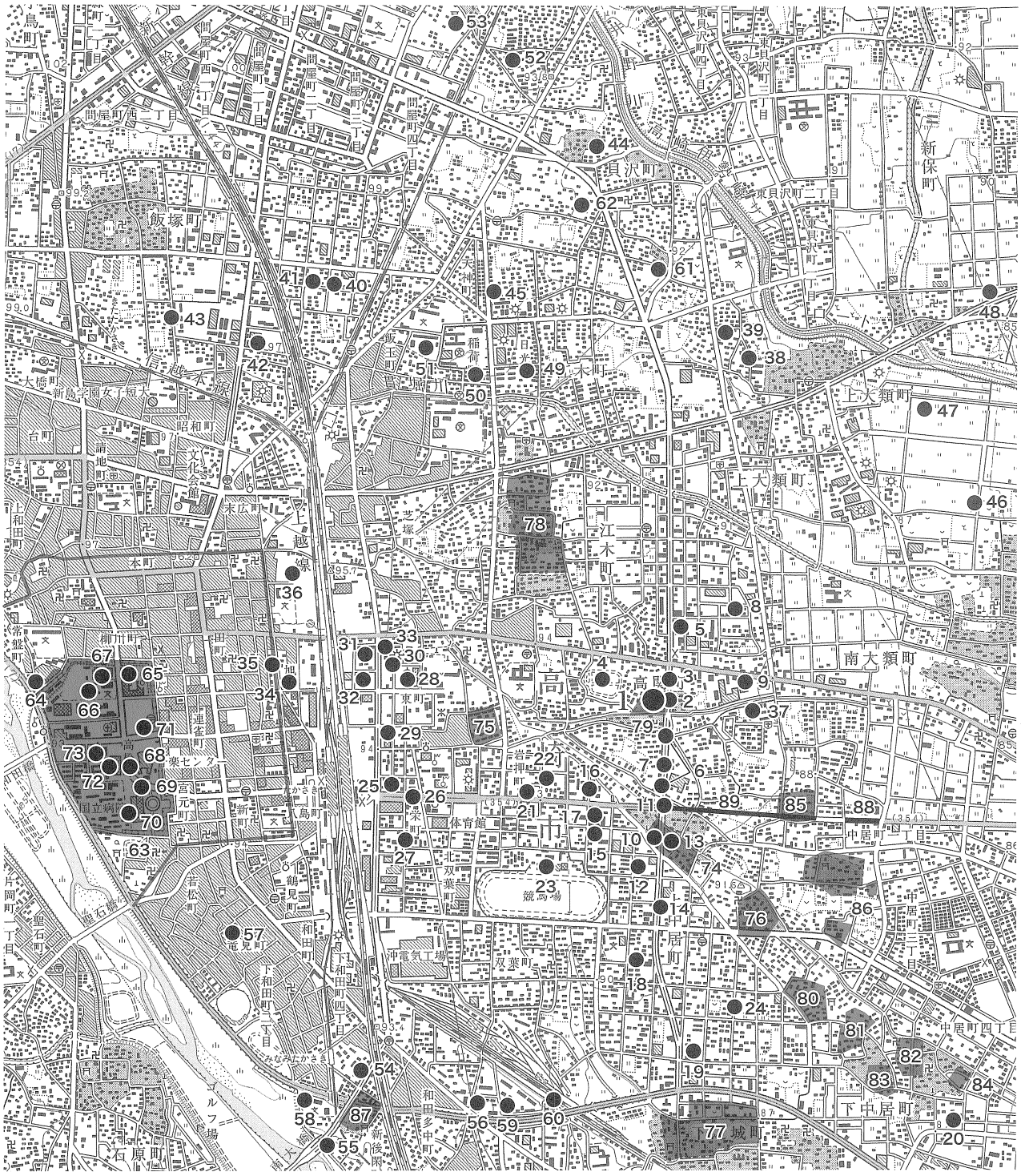
本遺跡の周辺では、市街地区の再開発に伴い遺跡調査は増加しているものの、旧石器時代の遺跡はこれまでに確認されていない。縄文時代の遺跡に関しては、前橋台地上の当地域ではあまり知られておらず、烏川南西部に位置する観音山丘陵や河川の段丘上に分布している。周辺では高関高根遺跡（４）、高関村前遺跡（６）、高関東沖・村前遺跡（３）、城南小学校校庭遺跡（58）、下中居条里遺跡（20）等が挙げられるが、遺構としては下中居条里遺跡で中期後半の竪穴住居跡１軒、土坑５基が確認されたのみで、他は中期～後期の土器、石器が出土する程度であり、断片的な資料である。

弥生時代の遺跡は、烏川左岸段丘上に土器型式の指標遺跡として著名な竜見町遺跡（57）や高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡（69）、城南小学校校庭遺跡が、烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地には高崎競馬場遺跡（23）、高関村前遺跡、高関堰村遺跡（２）、高関高根遺跡、高関東沖・村前遺跡等が所在する。これらの多くは中期～後期の遺物包蔵地、もしくは住居跡、環濠等を検出した集落遺跡であり、生産遺跡は確認されていない。

古墳時代では、集落遺跡は前時代と同様に、烏川左岸段丘上や烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地に多く立地しており、高崎城Ⅲ・Ⅳ遺跡（68）、高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡、高関高根遺跡、高関東沖・村前遺跡、高関村前遺跡、上中居辻薬師Ⅱ遺跡（11）、双葉町Ⅰ遺跡（60）、新後閑寺廻遺跡（55）、新後閑遺跡（54）等が挙げられる。生産遺跡としては東町Ⅲ遺跡（30）において As-C に覆われた水田跡と、Hr-FA・Hr-FP を含む洪水層に覆われた水田跡が、高関東沖・村前遺跡では後期の畠跡が確認されている。上中居辻薬師Ⅱ遺跡、中居町一丁目遺跡（88）、中居町遺跡群（89）では方形周溝墓が確認されている。古墳は５世紀後半築造と推定される越後塚古墳（24）、５世紀後半～６世紀前半築造とされる聖天山古墳（61）、６世紀後半の井野川中流域における中核をなす首長墓と考えられている五霊神社古墳（62）、浜尻天王山古墳（53）等が周辺に所在する。

奈良・平安時代になると、律令制に伴い条里地割に基づく大規模な耕地開発が行われた。本遺跡周辺においても高関北沖遺跡（５）、上中居平塚Ⅱ遺跡（16）、高関塚田遺跡（８）、岡久保遺跡（37）等数多くの遺跡で As-B に覆われた水田跡が確認されている。集落も近辺の微高地に営まれ、高崎城Ⅲ・Ⅳ遺跡、高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡、高崎城Ⅶ遺跡（70）、高関村前遺跡、高関高根遺跡、新後閑寺廻遺跡、新後閑遺跡等で当該期の住居跡等が確認されている。

中世になると微高地上には城館・環濠屋敷が築かれる。高崎市域の武士としては寺尾・山名・倉賀野・綿貫・嶋名・和田・長野の各氏が挙げられる。本遺跡周辺は和田氏の領域に含まれ、和田氏に関係する一族の屋敷が地獄堰、矢中堰に沿うように分布する。本調査地点は角田氏の屋敷である高関屋敷（79）に位置している。「高崎近郷村々百姓由緒書」によると角田氏は和田氏の一族で天正十八年（1590）、小田原落城による和田氏の没落に伴い、角田主水が高



1．**高関・堰村遺跡（本調査地点）**　2．高関堰村遺跡　3．高関東沖・村前遺跡　4．高関高根遺跡　5．高関北沖遺跡　6．高関村前遺跡　7．高関村前Ⅱ遺跡　8．高関塚田遺跡　9．高関東沖Ⅱ遺跡　10．上中居辻薬師遺跡　11．上中居辻薬師Ⅱ遺跡　12．上中居西屋敷遺跡　13．上中居西屋敷Ⅱ遺跡　14．上中居西屋敷Ⅲ遺跡　15．上中居平塚Ⅰ遺跡　16．上中居平塚Ⅱ遺跡　17．上中居平塚Ⅲ遺跡　18．上中居荒神Ⅰ遺跡　19．上中居島薬師遺跡　20．下中居条里遺跡　21．岩押町Ⅰ遺跡　22．岩押町Ⅱ遺跡　23．高崎競馬場遺跡　24．越後塚古墳　25．栄町Ⅰ遺跡　26．栄町Ⅱ遺跡　27．栄町Ⅲ遺跡　28．東町Ⅰ遺跡　29．東町Ⅱ遺跡　30．東町Ⅲ遺跡　31．東町Ⅳ遺跡　32．東町Ⅴ遺跡　33．東町Ⅵ遺跡　34．旭町Ⅰ遺跡　35．真町Ⅰ遺跡　36．江木諏訪西遺跡　37．岡久保遺跡　38．上大類北宅地遺跡　39．上大類薬師遺跡　40．飯塚大苗代遺跡　41．飯塚十二前遺跡　42．飯塚東金井Ⅰ・Ⅱ遺跡　43．飯塚西金井遺跡　44．貝沢Ⅰ遺跡　45．貝沢天神遺跡　46．宿大類村西遺跡　47．天田・川押遺跡　48．新保八坂遺跡　49．日光町Ⅰ・Ⅱ遺跡　50．稲荷町Ⅱ遺跡　51．飯玉Ⅰ・Ⅱ遺跡　52．浜尻宅地後遺跡　53．浜尻天王山古墳　54．新後閑遺跡　55．新後閑寺廻遺跡　56．和田多中遺跡　57．竜見町遺跡　58．城南小学校校庭遺跡　59．上佐野樋越遺跡　60．双葉町Ⅰ遺跡　61．聖天山古墳　62．五霊神社古墳　63．高崎城遺跡　64．高松町遺跡　65．高松第1駐車場遺跡　66．高崎城Ⅰ遺跡　67．高崎城Ⅱ遺跡　68．高崎城Ⅲ・Ⅳ遺跡　69．高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡　70．高崎城Ⅶ　71．高崎城Ⅷ　72．高崎城Ⅸ　73．高崎城Ⅹ　74．反町城　75．岡田屋敷　76．新堀砦　77．和田下之城　78．江木環濠遺構　79．高関屋敷　80．下中居新井屋敷　81．高尾屋敷　82．下中居佐藤屋敷　83．下中居福田屋敷　84．道場屋敷　85．丸茂屋敷　86．宇名室環濠遺構　87．新後閑屋敷　88．中居町一丁目遺跡　89．中居町遺跡群

第2図　周辺遺跡図（1/25,000）

関へ移ったとされる。高関高根遺跡では大型区画溝や土坑・井戸が、高関堰村遺跡、高関村前遺跡、高関村前Ⅱ遺跡（7）では環濠屋敷跡が、上中居辻薬師遺跡（10）、上中居辻薬師Ⅱ遺跡では「反町屋敷」といわれる中世居館跡が確認されている。尚、灌漑水路である長野堰水系は、中世末期に長野氏がその基礎を整備したという伝承がある。

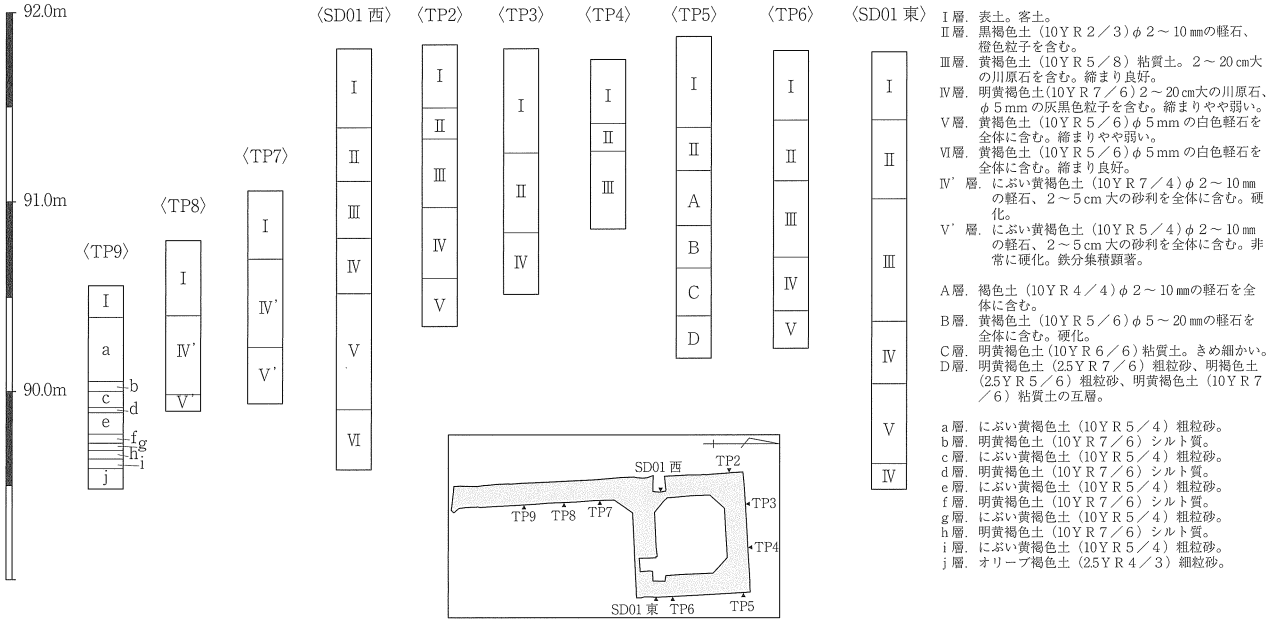
近世になると慶長三年（1598）、井伊直政が箕輪城から高崎城へと拠点を移したことにより城下町が形成される。現在のＪＲ高崎駅西口周辺を中心に町屋や社寺が建ち並び、また、中山道と三国街道が走る交通の要衝でもあり宿場町としても繁栄する。周辺では高関堰村遺跡で掘立柱建物等が、上中居辻薬師遺跡、上中居辻薬師Ⅱ遺跡では中世から継続する居館の一部が調査されている。

Ⅳ．基本層序

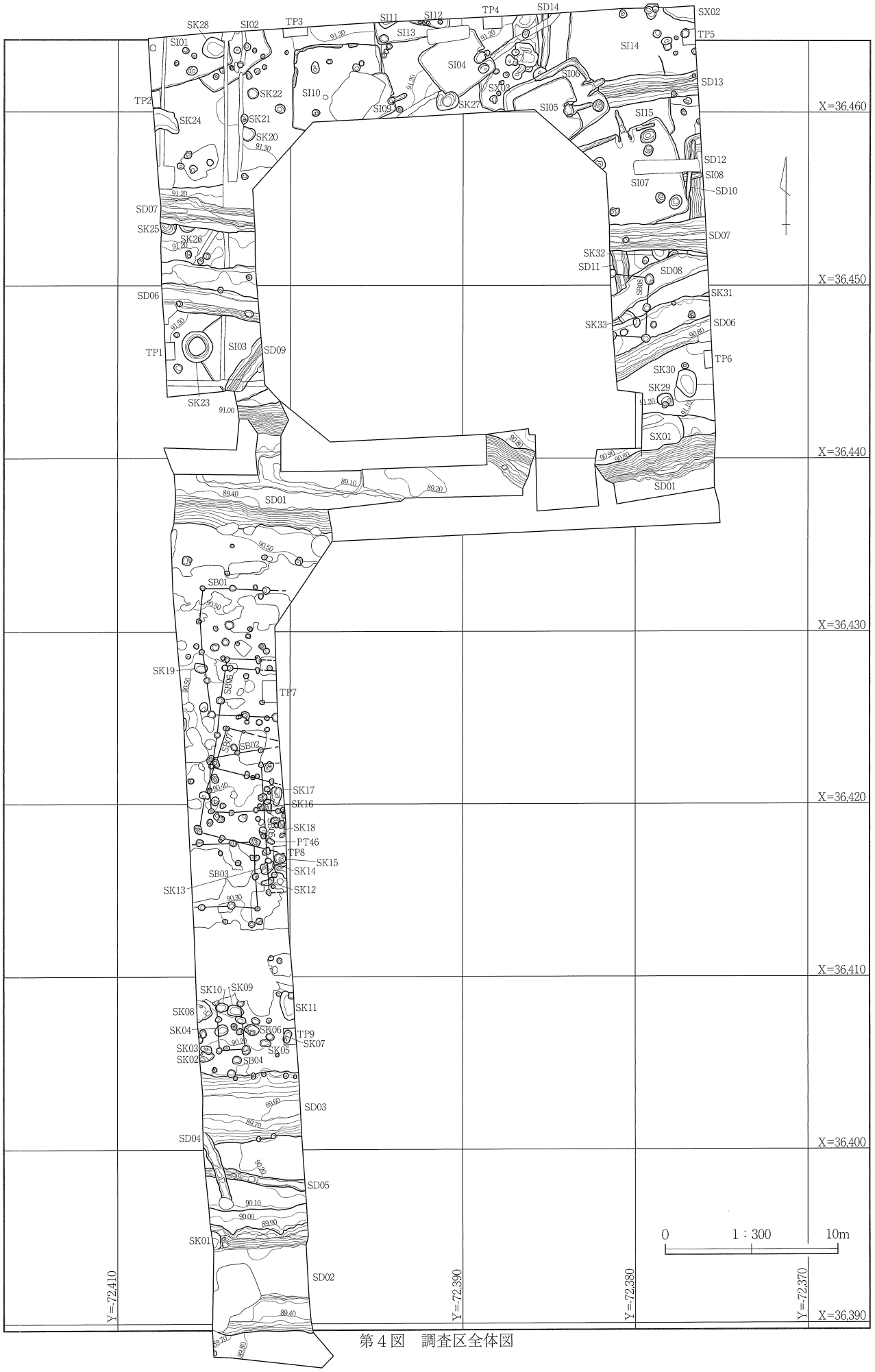
本調査地の現況は北から南へ傾斜する地形であり、調査地中央部のやや北寄りには、東西方向に走行する堀状の落ち込みが存在している。現地表の標高はこの堀状の落ち込みを境に、北部が91.8ｍ前後、南部は北端が91.1ｍ、南端が90.1ｍを測る。現地表下30～50㎝は現代の造成客土、表土層（Ⅰ層）で、以下、φ２～10㎜の軽石、橙色粒子を含む黒褐色土（Ⅱ層）、２～20㎝大の川原石を含み、締まり良好な黄褐色粘質土（Ⅲ層）、２～20㎝大の川原石、φ５mmの灰黒色粒子を含み、締まりのやや弱い明黄褐色土（Ⅳ層）、φ５mmの白色軽石を全体に含み、締まりのやや弱い黄褐色土（Ⅴ層）、φ５mmの白色軽石を全体に含み、締まりの良好な黄褐色土（Ⅵ層）が堆積している。

Ⅰ層からⅡ層の間には、As-B混土や暗褐色土も確認されているが、断片的である。Ⅱ層はAs-C混土で、部分的に縄文時代中期～古墳時代前期の遺物を包含している。Ⅲ層はＴＰ３ではφ２～20㎜の軽石を含み、また、ＴＰ４周辺では粗粒砂となり、土質に変化が認められる。井野川泥流（高崎泥流）層に相当すると考えられる。南部ではⅣ層の上部まで削平された状況であり、Ⅰ層以下は、φ２～10㎜の軽石、２～５cm大の砂利を全体に含み、硬化したにぶい黄褐色土（Ⅳ'層）、φ２～10㎜の軽石、２～５cm大の砂利を全体に含み、非常に硬化し、鉄分集積の顕著なにぶい黄褐色土となる。堆積状況としては、調査区南外の地獄堰に向かい、緩やかに傾斜している。

基本層序と異なる堆積土としては、ＴＰ５におけるⅢ層以下の、φ２～10㎜の軽石を全体に含む褐色土（Ａ層）、φ５～20㎜の軽石を全体に含み、硬化した黄褐色土（Ｂ層）、きめの細かい明黄褐色粘質土（Ｃ層）、明黄褐色粗粒砂、明褐色粗粒砂、及び明黄褐色粘質土の互層（Ｄ層）と、ＴＰ９における表土以下の、にぶい黄褐色粗粒砂とシルト質明黄褐色土の互層（ａ層～ｉ層）、オリーブ褐色細粒砂（ｊ層）であり、水流を伴う谷筋の存在が想定される。



第３図　基本層序


SK28
SI02
TP3
SI11
SI12
TP4
SD14
SX02
SI01
SI13
TP5
SI14
SI04
SI06
SD13
TP2
SK22
SI10
SX03
SK27
SI05
SI15
SK24
SK21
SI09
SK20
SD12
SI08
SI07
SD10
SD07
SK25
SK26
SD07
SK32
SD11
SD08
SD06
SK31
SK33
SD06
TP1
SI03
SD09
TP6
SK30
SK29
SK23
SX01
SD01
SD01
SB01
SK19
SB06
TP7
SB07
SB02
SK17
SK16
SK18
PT46
TP8
SK15
SB03
SK14
SK13
SK12
SK10
SK09
SK08
SK11
SK04
SK06
TP9
SK07
SK03
SK05
SK02
SB04
SD03
SD04
SD05
SK01
SD02
X=36,460
X=36,450
X=36,440
X=36,430
X=36,420
X=36,410
X=36,400
X=36,390
Y=72,410
Y=72,390
Y=72,380
Y=72,370
0
1：300
10m

第４図　調査区全体図

Ⅴ．検出された遺構と遺物

１．調査概要　（第４図、PL. １）

今回の調査では竪穴住居跡15軒、土坑33基、ピット200口、溝14条、及び性格不明遺構３基を検出した。遺構の時期としては古墳時代、奈良・平安時代、及び中世・近世であり、主体となるのは古墳時代前期・後期の竪穴住居跡、溝と、中世・近世の土坑、ピット、溝である。尚、整理作業の段階で200口のピットから掘立柱建物を８棟復元している。遺物としては縄文時代の土器・石器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品、金属製品、中世・近世の陶磁器類・在地系土器等が出土し、コンテナ15箱を数える。

２．遺構・遺物

（１）竪穴住居跡（第５～15・29～31図、PL. ２～４・７）

竪穴住居跡は調査区北部から15軒検出している。平面は方形を呈し、時期としては古墳時代前期のものと古墳時代後期のものが主体であり、重複する割合は高いといえる。前期のものは北端部から５軒を検出しているが、部分的な検出にとどまり、全体規模や炉等を確認できたものはない。後期のものは８軒を検出し、規模から一辺3.00m前後のものと、5.00m前後のものに大別可能である。基本的には東壁に竈を構築している。

SI01（第５・29図、PL. ２・７）

位置　調査区北西端部（X = 461～464、Y = 403～405）　**重複**　SK28に先行し、SI02より後出する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するものと考えられる。東西[4.98〕m × 南北[2.96〕m、壁現高0.25 m、床面積〔13.39〕㎡を測る。北部、西部は調査区外となる。　**主軸方位**　N － 16°－ W。　**床面**　ほぼ平坦な地山硬化床で、南東部の硬化が顕著である。　**住居内施設**　南部から４口のピットを検出した。いずれも平面は円形状を呈し、規模はPT1が東西0.63 m×南北0.51 m×深さ0.39 m、PT2が東西0.36 m × 南北0.32 m × 深さ0.29 m、PT3が東西0.39 m × 南北0.35 m×深さ0.42 m、PT4が東西0.26 m × 南北0.30 m × 深さ0.22 mを測る。　**炉**　検出されていない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器31点、弥生土器10点、土師器271点である。図示し得た実測個体資料は第29図SI01 － １～４で、１・２は覆土、３・４は床面出土である。いずれも土師器甕で、２は脚部、３はＳ字状口縁台付甕（以下、「Ｓ字甕」と略称）である。　**時期**　出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

SI02（第５図、PL. ２）

位置　調査区北西端部（X = 461～464、Y = 401～405）　**重複**　SI01、SK28、PT143・147・159～162に先行する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するものと考えられる。東西4.47 m × 南北[2.20〕m、壁現高0.18 m、床面積〔12.25〕㎡を測る。西部はSI01により失い、北部は調査区外となる。　**主軸方位**　N － 35°－ W。　**床面**　ほぼ平坦な地山硬化床で、全体的に硬化している。　**住居内施設**　南西部から２口のピットを検出した。いずれも平面は楕円形を呈し、規模はPT1が東西0.35 m×南北0.33 m × 深さ0.44 m、PT2が東西0.27 m × 南北0.32 m × 深さ0.28 mを測る。　**炉**　検出されていない。　**出土遺物**　出土していない。　**時期**　遺構の重複関係より古墳時代前期と考えられる。

SI03（第６・21図、PL. ２・７）

位置　調査区北西部（X = 443～448、Y = 401～405）　**重複**　SD06、SK23に先行し、SD09より後出する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するものと考えられる。東西[4.05〕m × 南北4.97 m、壁現高0.25 m、床面積〔16.18〕㎡を測る。東部は調査区外となる。　**主軸方位**　N － 33°－ W。　**床面**　ほぼ平坦な貼り床で、中央部の硬化が顕著である。　**住居内施設**　掘り方精査時に６口のピットと土坑１基を検出した。ピットの平面は円形～楕円形を呈し、規模はPT1が東西0.40 m×南北0.42 m×深さ0.32 m、PT2が東西0.31 m × 南北0.29 m × 深さ0.25 m、PT3が東西0.26 m×南北0.30 m×深さ0.46 m、PT4が東西0.24 m × 南北0.30 m × 深さ0.75 m、PT ５が東西0.29 m × 南北0.27 m×深さ0.35 m、PT ６が東西0.53 m × 南北0.53 m × 深さ0.29 mを測る。SK1は中央部から検出された

床下土坑である。平面は円形を呈し、規模は東西 1.28 m × 南北 1.20 m × 深さ 0.24 mを測る。　竈　焼土・灰の検出状況から東壁に位置するものと考えられる。　出土遺物　接合作業後の破片数は縄文土器 10 点、弥生土器 1 点、土師器 194 点である。図示し得た実測個体資料は第 29 図 SI03 － 1 ～ 10 で、1 ・ 3 ～ 10 は床面、2 は覆土からの出土である。1 ・ 2 は土師器坏、3 ～ 10 は土師器甕で、3 ～ 5 は長胴、6 ・ 7 は球胴、8 ～ 10 は小型である。　時期　出土遺物より古墳時代後期（6 世紀代）と考えられる。

SI04（第 7 ・ 30 図、PL. 2 ・ 7）

位置　調査区北端部中央（X = 460 ～ 464、Y = 388 ～ 392）　重複　SK27 に先行し、SX03 より後出する。　形状・規模　平面は方形を呈する。東西 3.56 m × 南北 3.25 m、壁現高 0.26 m、床面積 11.65 ㎡を測る。　主軸方位　N － 59 °－ E。　床面　ほぼ平坦な貼り床である。　住居内施設　竈の南側で貯蔵穴を検出した。平面は楕円形状を呈し、東西 0.60 m × 南北 0.52 m × 深さ 0.43 mを測る。また、掘り方精査時に PT1 を検出した。平面は楕円を呈し、規模は東西 0.39 m × 南北 0.48 m × 深さ 0.15 mを測る。　竈　東壁の中央やや南寄りに位置する。袖は黄褐色粘質土により構築されている。燃焼部は壁内に位置し、確認長 1.01 m、燃焼部幅 0.55 mを測り、煙道は短い。袖の残存長は北側が 0.50 m、南側が 0.55 mを測る。出土遺物　接合作業後の破片数は縄文土器 19 点、弥生土器 1 点、土師器 148 点、黒曜石の剥片 1 点である。図示し得た実測個体資料は第 30 図 SI04 － 1 ・ 2 で、床面からの出土である。1 は土師器鉢、2 はこも編石である。　時期　出土遺物より古墳時代後期と考えられる。

SI05（第 8 ・ 30 図、PL. 2 ・ 7）

位置　調査区北端部東側（X = 458 ～ 462、Y = 382 ～ 387）　重複　SI06、SD13、SX03 より後出する。　形状・規模　平面は方形を呈する。東西 3.58 m × 南北 3.58 m、壁現高 0.28 m、床面積〔7.94〕 ㎡を測る。南西部は調査区外となる。　主軸方位　N － 62°－ E。　床面　ほぼ平坦で、若干の硬化が認められる。　住居内施設　検出されていない。　竈　東壁の中央やや南寄りに位置する。袖は黄褐色粘質土により構築されている。燃焼部は壁内に位置し、奥行き 0.58 m、幅 0.55 m、煙道は長さ 1.20 m、幅 0.26 mを測る。袖の残存長は北側が 0.80 m、南側が 0.72 mを測る。　出土遺物　接合作業後の破片数は縄文土器 7 点、弥生土器 4 点、土師器 221 点、須恵器 2 点、石製品 1 点である。図示し得た実測個体資料は第 30 図 SI05 － 1 ・ 2 で、1 は床面、2 は竈掘り方からの出土である。1 は土師器坏、2 は滑石製の臼玉である。　時期　出土遺物より古墳時代後期（7 世紀代？）と考えられる。

SI06（第 9 ・ 30 図、PL. 3 ・ 7）

位置　調査区北端部東側（X = 458 ～ 463、Y = 381 ～ 387）　重複　SI05 に先行し、SD13、SX03 より後出する。　形状・規模　平面は方形を呈する。東西 4.10 m × 南北 5.20 m、壁現高 0.35 m、床面積〔16.07〕 ㎡を測る。南西部は調査区外となる。　主軸方位　N － 77°－ E。　床面　ほぼ平坦で、若干の硬化が認められる。　住居内施設　竈の南側で貯蔵穴を検出した。平面は楕円形状を呈し、東西 0.60 m × 南北 0.52 m × 深さ 0.47 mを測る。掘り方精査時には南側で 4 口のピットを検出した。ピットの平面は円形～楕円形を呈し、規模は PT1 が東西 0.27 m × 南北 0.23 m × 深さ 0.47 m、PT2 が東西 0.30 m × 南北 0.28 m × 深さ 0.32 m、PT3 が東西 0.39 m × 南北 0.37 m × 深さ 0.37 m、PT 4 が東西 0.35 m × 南北 0.33 m × 深さ 0.23 mを測る。また、北側では平面不整形の浅い窪みを東西方向に 3 穴検出している。　竈　東壁の中央に位置する。袖は黒褐色土により構築されている。燃焼部は壁内に位置し、奥行き 0.65 m、幅 0.60 m、煙道は長さ 0.70 m、幅 0.36 mを測る。袖の残存長は北側が 0.61 m、南側が 0.65 mを測る。出土遺物　接合作業後の破片数は縄文土器 33 点、弥生土器 4 点、土師器 321 点である。図示し得た実測個体資料は第 30 図 SI06 － 1 ・ 2 で、1 は床面、2 は PT01 覆土から出土した土師器甑である。　時期　出土遺物より古墳時代後期（6 世紀代？）と考えられる。

SI07（第 10・11・30 図、PL. 3 ・ 7）

位置　調査区北部東側（X = 453 ～ 460、Y = 376 ～ 383）　重複　SD07・10 に先行し、SI08・15 より後出する。　形状・規模　平面は方形を呈する。東西〔4.85〕m × 南北 5.62 m、壁現高 0.26 m、床面積〔23.44〕 ㎡を測る。西部は調査区外となる。　主軸方位　N － 20°－ W。　床面　ほぼ平坦で、若干の硬化が認められる。　住居内施設　壁周溝

が北壁に残存する。竈の東側では貯蔵穴を検出している。平面は楕円形状を呈し、東西 0.88 m × 南北 0.75 m × 深さ 0.41 mを測る。ピットは主柱穴の４口を確認した。ピットの平面は円形～楕円形状を呈し、規模は PT1 が東西〔0.50〕m × 南北 0.70 m × 深さ 0.62 m、PT2 が東西 0.50 m × 南北 0.64 m × 深さ 0.44 m、PT3 が東西 0.55 m × 南北 0.57 m × 深さ 0.57 m、PT ４が東西 0.61 m × 南北 0.50 m × 深さ 0.53 mである。芯～芯距離は東西方向が 3.00 m、南北方向が西辺で 2.70m、東辺で 2.80 mを測る。掘り方精査時には南部中央にて２口のピットを検出している。平面は楕円形を呈し、規模は PT ５が東西 0.57 m × 南北 0.46 m × 深さ 0.19 m、PT ６が東西 0.32 m × 南北 0.26 m × 深さ 0.30 mを測る。　**竈**　北壁のほぼ中央に位置する。構築材には灰黄褐色粘質土を使用している。燃焼部は壁内に位置し、奥行き 0.70 m、幅 0.45 m、煙道は長さ 1.33 m、幅 0.28 mを測る。袖の残存長は西側が 0.80 m、東側が 0.75 mを測る。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器３点、弥生土器５点、土師器 789 点、須恵器２点である。図示し得た実測個体資料は第 30 図 SI07 － １～５で、１は掘り方、２～５は床面からの出土である。１・２は土師器鉢、３は土師器坏、４・５土師器甕で４は長胴、５は小型である。１・２は後述する SI15、或いは SD13 からの混入と考えられる。　**時期**　出土遺物より古墳時代後期（６世紀代）と考えられる。

SI08（第 10・11 図、PL. ３）

位置　調査区北部東側（X = 453～458、Y = 376～382）　**重複**　SI07、SD07･10 に先行し、SI15、SD11 より後出する。**形状・規模**　SI07 は本址を北側に拡張し、カマドを北壁に作り直したともの考えられる。SI07 掘り方の検出状況から平面は方形を呈し、東西〔4.50〕m × 南北 4.95 m、壁現高 0.25 m、床面積〔22.17〕㎡の規模を想定している。西部は調査区外となる。　**主軸方位**　N － 75 °－ E（竈）。　**床面**　不詳　**住居内施設**　竈の南側では貯蔵穴を検出している。平面は楕円形を呈し、東西 0.82 m × 南北 0.68 m × 深さ 0.48 mを測る。**竈**　東壁に位置する。煙道部のみの検出で、長さ〔1.12〕m、幅 0.42 mを測る。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は弥生土器１点、土師器 28 点である。図示し得た個体資料はない。　**時期**　遺構の重複関係より古墳時代後期（６世紀代）と考えられる。

SI09（第 12・30 図、PL. ３・７）

位置　調査区北端部中央（X = 459 ～ 462、Y = 393 ～ 395）　**重複**　SI10 より後出する。　**形状・規模**　平面は方形を呈する。東西 [2.10] m × 南北 2.50 m、壁現高 0.09 m、床面積 [3.71〕㎡を測る西半部は現代攪乱により失う。**主軸方位**　N － 70 °－ E。　**床面**　ほぼ平坦な貼り床である。　**住居内施設**　検出されていない。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。袖は灰黄褐色粘質土により構築されている。燃焼部は壁内に位置し、奥行き 0.43 m、燃焼部幅 0.35 mを測り、煙道は長さ 0.72 m、幅 0.26 mを測る。袖の残存長は北側が 0.20 m、南側が 0.11 mを測る。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器１点、弥生土器２点、土師器 44 点、須恵器２点である。図示し得た実測個体資料は第 30 図 SI09 － １で、覆土から出土した須恵器提瓶である。　**時期**　出土遺物より古墳時代後期（７世紀代）と考えられる。

SI10（第 12・30 図、PL. ３・７）

位置　調査区北端部西側（X = 458 ～ 463、Y = 394 ～ 399）　**重複**　SI09、PT150 に先行する。　**形状・規模**　平面は方形を呈する。東西 5.11 m × 南北 [4.80] m、壁現高 0.05 m、床面積〔26.48〕㎡を測る。南部は調査区外となる。　**主軸方位**　N － 90°－ E。　**床面**　ほぼ平坦で、中央部は地山を削り出している。　**住居内施設**　壁周溝が北壁と西壁の一部に残存する。ピットは４口を確認した。ピットの平面は円形～楕円形を呈し、規模は PT1 が東西 0.44 m × 南北 0.39 m × 深さ 0.31 m、PT2 が東西 0.43 m × 南北 0.43 m × 深さ 0.61 m、PT3 が東西 0.28 m × 南北 0.29 m × 深さ 0.12 m、PT149 として検出したものが東西 0.65 m × 南北 0.45 m × 深さ 0.51 mを測る。芯～芯距離は東西が 2.40 ～ 2.70 m、南北が 2.70 mである。　**竈**　東壁に位置していた可能性が高いが、SI09、現代攪乱により削平されたものと考えられる。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器 14 点、土師器 76 点、須恵器１点である。図示し得た実測個体資料は第 30 図 SI10 － １・２で、１は PT1、２は掘り方出土の土師器Ｓ字甕で、２は小型である。　**時期**　図示遺物は古墳時代前期のものであるが、他の出土遺物、及び遺構の重複関係より古墳時代後期（６世紀代？）と考えられる。

SI11（第13図、PL. 3）

位置　調査区北端部中央（X = 464 ～ 465、Y = 393 ～ 394）　**重複**　SI13より後出する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するか。東西〔0.80〕 m×南北[0.60 〕 m、壁現高0.49 m、床面積〔0.19〕 ㎡を測る。大半は調査区北外となる。　**主軸方位**　N － 60°－Eか。　**床面**　ほぼ平坦で、地山を削り出している。　**住居内施設**　検出されていない。　**竈**　検出されていない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器８点である。図示し得た個体資料はない。　**時期**　遺構の重複関係より古墳時代後期か。

SI12（第13・30図、PL. 3・7）

位置　調査区北端部中央（X = 464 ～ 465、Y = 390 ～ 393）　**重複**　SI13より後出する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するか。東西〔2.35〕 m×南北〔 0.53 〕 m、壁現高0.18 m、床面積〔0.55〕 ㎡を測る。大半は調査区北外となる。　**主軸方位**　N － 100°－Eか。　**床面**　ほぼ平坦で、地山を削り出している。　**住居内施設**　南壁沿いに小穴が３口、南東部にピットを１口確認した。PT1は平面楕円形を呈し、東西0.27 m × 南北0.24 m × 深さ0.22 mを測る。　**竈**　検出されていない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器13点である。図示し得た実測個体資料は第30図SI12 － 1で、覆土出土の土師器坏である。　**時期**　出土遺物から７世紀後半～８世紀前半か。

SI13（第13・30図、PL. 3・7）

位置　調査区北端部中央（X = 463 ～ 465、Y = 391 ～ 395）　**重複**　SI11・12に先行する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するものと考えられる。東西〔3.64〕 m × 南北[1.32 〕 m、壁現高0.20 m、床面積〔3.19〕 ㎡を測る。大半は調査区北外となる。　**主軸方位**　N － 80°－E。　**床面**　ほぼ平坦で、地山を削り出している。　**住居内施設**　南西部にピットを１口確認した。PT1は平面楕円形を呈し、東西0.53 m × 南北0.46 m × 深さ0.12 mを測る。　**炉**　検出されていない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器７点、土師器35点である。図示し得た実測個体資料は第30図SI13 － 1・２で、１は床面出土の土師器台付甕、２は覆土出土の土師器Ｓ字甕である。　**時期**　出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

SI14（第14・15・30図、PL. 4・7）

位置　調査区北端部東側（X = 462 ～ 466、Y = 378 ～ 384）　**重複**　SI06、SD13、PT194・196 ～ 198に先行し、SI15より後出する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するものと考えられる。東西〔4.50〕 m × 南北〔4.13〕 m、壁現高0.12 m、床面積〔18.79〕 ㎡を測る。北部は調査区外となる。　**主軸方位**　N － 3°－E。　**床面**　ほぼ平坦で、中央部は地山を削り出し、非常に硬化している。　**住居内施設**　ピットは６口を確認した。平面は円形～楕円形状を呈し、規模はPT1が東西0.26 m×南北0.27 m × 深さ0.16 m、PT2が東西0.37 m × 南北0.39 m × 深さ0.25 m、PT3が東西0.24 m×南北0.26 m×深さ0.15 m、PT 4が東西0.34 m × 南北0.52 m × 深さ0.32 m、PT 5が東西0.27 m×南北0.24 m×深さ0.17 m、PT 6が東西0.32 m × 南北0.35 m × 深さ0.20 m、を測る。PT2 － PT3の芯～芯距離は2.80 mである。　**炉**　検出されていない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器64点、弥生土器９点、土師器261点である。図示し得た実測個体資料は第30図SI14 － 1～３で、覆土からの出土した土師器甕で、２・３はＳ字甕である。　**時期**　出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

SI15（第14・15・31図、PL. 4・7）

位置　調査区北端部東側（X = 457 ～ 463、Y = 377 ～ 383）　**重複**　SI05 ～ 08・14、SD13に先行する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するものと考えられる。東西〔6.10〕 m × 南北〔4.10〕 m、壁現高0.13 m、床面積〔18.43〕 ㎡を測る。北部はSI14、西部はSI06、南部はSI07、中央部はSD13により削平をうけている。　**主軸方位**　N － 7°－W。　**床面**　ほぼ平坦で、硬化が認められる。　**住居内施設**　掘り方精査時にピット８口と床下土坑１基を検出している。ピット平面は円形～楕円形状を呈し、規模はPT1が東西0.31 m × 南北0.32 m × 深さ0.10 m、PT2が東西0.42 m × 南北0.35 m × 深さ0.13 m、PT3が東西0.25 m × 南北0.24 m × 深さ0.11 m、PT 4が東西0.25 m × 南北0.33 m × 深さ0.24 m、PT 5が東西0.40 m × 南北0.49 m × 深さ0.34 m、PT 6が東西0.44 m × 南北0.37 m × 深さ0.22 m、PT 7が東西0.35 m × 南北0.43 m × 深さ0.18 m、PT 8が東西0.42 m × 南北0.32 m × 深さ0.34

mを測る。芯～芯距離はPT1 － PT2 － PT3が2.60 m、1.40 m、PT7 － PT8が1.50 m、PT2 － PT7が3.30 m、PT3 － PT8が3.20 mである。SK1は平面楕円形を呈し、規模は東西0.84 m × 南北0.92 m × 深さ0.23 mを測る。**炉**　検出されていない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器28点、弥生土器３点、土師器230点、黒曜石の剥片１点である。図示し得た実測個体資料は第31図SI15 － １～７で、１・２、４～７は床面、３は掘り方からの出土である。１は土師器高坏の脚部、２は土師器高坏もしくは器台の脚部、３は土師器器台の脚部、４～７は土師器甕で、５・６はＳ字甕、７は小型である。　**時期**　出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

（２）ピット・掘立柱建物　（第16～24図）

今回の調査では200口のピットを確認している（第16～20図）。調査区のほぼ全域で検出されているが、南半部に集中する傾向にある。位置・規模・出土遺物等の詳細はPT計測表（第１表）に掲載しているので参照されたい。出土遺物は小片・細片のみであり、図示し得た実測個体はない。整理作業の段階でこれらのピットから掘立柱建物を８棟（SB01～08）抽出している。いずれも中世以降の建物と考えている。以下、個別に説明を加える。

SB01（第21図）

位置　調査区中央部（X = 424～432、Y = 401～405）　**規模等**　PT081・084・088・099・117・127・133・134・136の９口により構成される東西２間×南北４間を抽出した。東部は調査区外となろうか。　**主軸方位**　N － 4°－ W。　**芯～芯距離**　北辺が西から1.75 m、1.90 m、西辺が北から1.90 m、1.80 m、1.70 m、2.00 m、南辺が西から2.00 m、1.60 mを測る。

SB02（第22図）

位置　調査区中央部（X = 419～423、Y = 400～404）　**規模等**　PT055・059・060・062・069・078・115・140の８口により構成される東西３間×南北２間を抽出した。東部は調査区外となる。　**主軸方位**　N － 2°－ W。　**芯～芯距離**　北辺が西から1.70 m、1.35 m、西辺が北から1.70 m、1.25 m、南辺が西から1.20 m、1.40 m、1.35 mを測る。　**重複**　PT077・078・079の重複関係から本址はSB06に先行し、SB07より後出である。

SB03（第22図）

位置　調査区中央部（X = 413～417、Y = 400～405）　**規模等**　PT034・035・036・040・047・048・051の７口により構成される東西２間×南北２間を抽出している。西部は調査区外となろうか。　**主軸方位**　N － 3°－ W。　**芯～芯距離**　北辺が西から2.00 m、1.30 m、東辺が北から2.10 m、1.90 m、南辺が西から1.70 m、1.50 mを測る。

SB04（第22図）

位置　調査区南部（X = 405～408、Y = 402～404）　**規模等**　PT012・014・021・022・028・029の６口により構成される東西１間×南北２間を抽出している。本址の西部は調査区外となろうか、北側も大きく攪乱されており、詳細不明である。　**主軸方位**　N － 3°－ W。　**芯～芯距離**　北辺が1.50 m、西辺が北から1.00 m、1.80 m、南辺が西から1.60 m、東辺が北から1.00 m、1.70 mを測る。

SB05（第23図）

位置　調査区中央部（X = 414～422、Y = 400～401）　**規模等**　PT037・064・072・105・110の５口により構成される南北４間を抽出している。建物は東側に展開するものと想定される。　**主軸方位**　N － 3°－ W。　**芯～芯距離**　北から1.90 m、2.30 m、1.70 m、1.90 mを測る。

SB06（第23図）

位置　調査区中央部（X = 421～428、Y = 400～404）　**規模等**　PT075・077・089・092・112・120・121・123・124の９口により構成される北側に庇の付く東西２間 × 南北３間を抽出している。東部は調査区外となる。　**主軸方位**　N － 8°－ W。　**芯～芯距離**　北辺が1.80 m～1.90 m、西辺が北から0.60 m、1.90 m、2.00 m、1.80 m、南辺が西から2.10 m、1.50 mを測る。　**重複**　PT077・078・079の重複関係から本址はSB02、SB07より後出である。

SB07（第24図）

位置　調査区中央部（X = 417 ～ 424、Y = 400 ～ 405）　規模等　PT044・049・052・058・079・086・138の7口により構成される東西2間×南北3間を抽出している。東部は調査区外となる。　主軸方位　N － 15°－ E。　芯～芯距離　北辺が1.00 m、西辺が北から2.10 m、2.10 m、2.10 m、南辺が西から1.40 m、2.70 mを測る。　重複　PT077・078・079の重複関係から本址はSB02、SB06に先行する。

SB08（第24図）

位置　調査区北東部（X = 446 ～ 450、Y = 378 ～ 381）　規模等　PT174・180・183・184・185の5口により構成される東西1間×南北2間を抽出している。西部は調査区外となる。　主軸方位　N － 3°－ E。　芯～芯距離　北辺が西から2.20 m、東辺が北から1.80 m、1.80 m、南辺が1.90 mを測る。　重複　PT174とSD06の重複関係から本址はSD06より後出である。

第1表　PT計測表

名称	覆土	座標値		重複関係	規模			出土遺物	備考
	分類	X	Y		平面	深さ	形状		
PT001	E	388	404		0.28 × [0.17]	0.14	楕円形		
PT002	A	400	400・401	SD03に伴う可能性あり	0.28 × 0.25	0.44	楕円形		
PT003	A	400	401	SD03に伴う可能性あり	0.30 × 0.25	0.42	楕円形		
PT004	A	404	399	SD03に伴う可能性あり	0.31 × 0.18	0.35	楕円形		
PT005	A	404	400	SD03に伴う可能性あり	0.31 × 0.28	0.43	楕円形		
PT006	A	404	401	SD03に伴う可能性あり	0.25 × 0.23	0.44	楕円形		
PT007	A	404	402	SD03に伴う可能性あり	0.42 × 0.23	0.56	楕円形		
PT008	A	404	403	SD03に伴う可能性あり	0.25 × 0.22	0.39	楕円形		
PT009	B	404	403		0.46 × 0.45	0.45	楕円形		
PT010	C	404	404		0.31 × 0.29	0.52	楕円形		
PT011	C	400	405		0.20 × 0.16	0.21	楕円形		
PT012	C	405	402		0.52 × 0.47	0.40	楕円形		SB04
PT013	C	405	402・403		0.52 × 0.45	0.37	楕円形		
PT014	C	405	403・404		0.37 × 0.32	0.46	楕円形		SB04
PT015	C	405	403		0.35 × 0.27	0.13	楕円形		
PT016	C	406	404	PT017より後出	0.36 × [0.23]	0.27	楕円形		
PT017	C	406	404・405	PT016に先行	0.46 × 0.35	0.37	楕円形		
PT018	C	407	403		0.38 × 0.34	0.18	楕円形		
PT019	C	406	402		0.40 × 0.36	0.47	楕円形		
PT020	C	406	401		0.49 × 0.36	0.24	楕円形		
PT021	A	407	404		0.36 × 0.32	0.36	楕円形		SB04
PT022	D	407	402		0.63 × 0.37	0.40	楕円形		SB04
PT023	D	407	401・402		0.50 × 0.38	0.27	楕円形		
PT024	D	407	401		0.28 × 0.28	0.47	楕円形		
PT025	D	408・409	400		0.30 × 0.25	0.23	楕円形		
PT026	D	410・411	400		0.30 × 0.30	0.18	楕円形		
PT027	D	411	401		0.32 × 0.26	0.25	楕円形		
PT028	D	408	404		0.36 × [0.25]	0.38	楕円形		SB04
PT029	D	408	402		0.40 × [0.35]	0.29	楕円形		SB04
PT030	C	413	403		0.33 × 0.25	0.21	楕円形		
PT031	E	412・413	402		0.36 × 0.34	0.49	楕円形	土師器甕1	
PT032	C	413	401		0.39 × 0.37	0.35	楕円形		
PT033	D	408・409	399・400	SK11より後出	0.40 × [0.30]	0.36	楕円形		
PT034	D	413・414	401		0.32 × 0.26		楕円形		SB03
PT035	D	413・414	404・405		0.40 × 0.34	0.42	楕円形		SB03
PT036	C	413・414	403		0.43 × 0.42	0.32	楕円形	かわらけ1	SB03
PT037	E	414	401		0.35 × 0.27	0.31	楕円形		SB05
PT038	C	415	400・401		0.22 × 0.22	0.19	円形		
PT039	C	415	400		0.33 × 0.30	0.19	楕円形		
PT040	D	415	401・402		0.37 × 0.35	0.14	楕円形		SB03
PT041	D	416	402・403		0.32 × 0.32	0.39	円形		
PT042	D	416	402		0.30 × 0.25	0.36	不整円形		
PT043	E	416	401		0.33 × 0.25	0.21	楕円形		
PT044	D	417	401		0.53 × 0.40	0.42	不整円形		SB07
PT045	D	418	400		0.27 × 0.25	0.21	楕円形		
PT046	D	417	401		0.37 × 0.27	0.16	楕円形		
PT047	D	417	401・402		0.60 × 0.44	0.38	楕円形	在地系軟質土器1	SB03
PT048	D	417	403		0.45 × 0.36	0.57	楕円形		SB03
PT049	C	417・418	403・404	PT113より後出	0.32 × [0.25]	0.15	楕円形		SB07
PT050	D	417	403・404		0.28 × 0.25	0.31	楕円形		
PT051	D	417	405		0.41 × 0.39	0.38	楕円形		SB03
PT052	D	418	405		0.57 × 0.43	0.49	楕円形		SB07
PT053	D	418・419	404		0.40 × 0.33	0.22	楕円形		
PT054	D	419	403・404	PT114より後出	0.43 × 0.41	0.31	楕円形	在地系軟質土器1	
PT055	D	419	404		0.33 × 0.28	0.23	楕円形		SB02
PT056	C	419	403		0.35 × 0.32	0.30	楕円形		
PT057	C	419・420	404		0.48 × 0.47	0.30	円形		
PT058	C	420	404・405		0.57 × 0.40	0.26	楕円形		SB07
PT059	D	420	404		0.30 × 0.25	0.16	楕円形		SB02
PT060	C	419	403		0.30 × 0.27	0.34	楕円形	土師器甕1	SB02
PT061	C	419	402		0.48 × 0.44	0.42	不整円形		
PT062	C	419	401・402		0.29 × 0.26	0.37	楕円形		SB02
PT063	C	419	401		0.29 × 0.27	0.30	円形	かわらけ1	
PT064	D	418	401	PT065より後出	0.50 × 0.35	0.35	楕円形		SB05
PT065	D	418	401	PT064に先行	0.30 × 0.28	0.44	円形		
PT066	D	418	400		0.25 × 0.23	0.22	楕円形		
PT067	C	418	400		0.45 × 0.32	0.35	楕円形		
PT068	D	418・419	400・401		0.56 × 0.33	0.16	不整円形		
PT069	C	419	400		0.30 × 0.28	0.21	楕円形		SB02
PT070	D	420	401		0.35 × 0.28	0.31	楕円形		
PT071	D	421・422	401		0.63 × 0.45	0.46	楕円形		
PT072	D	422	401		0.31 × 0.28	0.57	不整円形		SB05
PT073	D	421	401		0.25 × 0.24	0.18	円形		
PT074	E	421	402		0.23 × 0.23	0.22	円形		
PT075	D	421	402		0.43 × 0.26	0.20	楕円形		SB06
PT076	D	421	404		0.51 × 0.40	0.29	楕円形	土師器甕7	
PT077	D	422	404	PT078・079より後出	0.28 × [0.26]	0.09	楕円形		SB06
PT078	D	422	404	PT077に先行、PT079より後出	0.55 × 0.30	0.30	楕円形		SB02
PT079	D	422	404	PT077、078に先行	0.50 × 0.37	0.45	不整円形		SB07
PT080	D	423	403		0.40 × 0.34	0.16	楕円形		
PT081	D	424・425	400・401		0.50 × [0.31]	0.18	楕円形		SB01
PT082	D	424	401		0.36 × 0.33	0.19	楕円形		
PT083	C	424	402		0.26 × 0.22	0.21	楕円形		
PT084	C	425	402		0.55 × 0.32	0.32	不整円形		SB01
PT085	D	424・425	402・403		0.36 × 0.22	0.28	楕円形		
PT086	D	424	403		0.36 × 0.28	0.41	楕円形		SB07
PT087	C	424	406		0.83 × [0.15]	0.18	不詳		
PT088	D	427	404		0.35 × 0.33	0.14	円形		SB01
PT089	D	425・426	403・404		0.46 × 0.38	0.24	楕円形		SB06
PT090	C	425	401		0.30 × 0.28	0.27	円形		
PT091	C	427	402		0.30 × 0.30	0.10	円形		
PT092	C	428	403		0.30 × 0.26	0.12	楕円形		SB06
PT093	C	428	403		0.26 × 0.25	0.15	円形		

名称	覆土	座標値		重複関係	規模			出土遺物	備考
	分類	X	Y		平面	深さ	形状		
PT094	C	428・429	401	PT095 より後出	0.40 × 0.36	0.25	楕円形	瀬戸・美濃灰釉丸碗 1	17C 後葉～ 18C 中葉
PT095	C	428	401	PT094 に先行	0.35 × 0.33	0.38	円形		
PT096	D	429	402		0.26 × 0.25	0.18	隅丸方形		
PT097	D	429	403		0.41 × 0.40	0.10	円形		
PT098	D	430	404		0.33 × 0.25	0.12	楕円形		
PT099	C	430	405		0.31 × 0.29	0.24	楕円形		SB01
PT100	C	433・434	405・406		0.53 × 0.52	0.26	隅丸方形		
PT101	C	433	403		0.30 × 0.25	0.40	楕円形		
PT102	C	434・435	403		0.23 × 0.20	0.12	楕円形		
PT103	D	431・432	401		0.31 × 0.28	0.18	楕円形	在地系軟質土器 1	
PT104	C	434	401		0.34 × 0.30	0.19	楕円形		
PT105	C	416	401	SK13 に先行	0.35 × 0.30	0.37	楕円形		SB05
PT106	C	419	400		0.27 × [0.18]	0.18	隅丸方形		
PT107	C	419	400		0.30 × 0.27	0.30	楕円形		
PT108	C	419	401		0.25 × [0.18]	0.14	楕円形		
PT109	C	420	401	SK16 に先行	0.35 × 0.27	0.34	楕円形		
PT110	D	420	401		0.53 × 0.40	0.30	楕円形		SB05
PT111	D	420	401		0.17 × 0.15	0.10	楕円形		
PT112	D	421	401		0.33 × 0.25	0.34	楕円形		SB06
PT113	C	417	404	PT049 に先行	0.25 × 0.15	0.23	楕円形	土師器坏 1、甕 1	
PT114	D	419	404	PT054 に先行	0.42 × 0.38	0.41	楕円形		
PT115	D	422・423	402・403		0.30 × 0.26	0.25	楕円形		SB02
PT116	D	424・425	401		0.28 × 0.26	0.37	円形		
PT117	D	425	404		0.43 × 0.41	0.22	円形		SB01
PT118	D	425	404・405		0.52 × 0.47	0.20	楕円形		
PT119	F	421	405		0.34 × 0.28	0.27	楕円形		
PT120	F	423・424	404		0.35 × 0.35	0.41	円形		SB06
PT121	F	427	403	PT122 より後出	0.35 × 0.35	0.14	円形		SB06
PT122	F	427	403	PT121 に先行	0.33 × 0.33	0.26	円形		
PT123	D	428	401		0.50 × 0.25	0.32	不整円形		SB06
PT124	D	427	401		0.35 × 0.21	0.11	不整円形		SB06
PT125	D	427	401		0.30 × 0.30	0.13	円形		
PT126	C	428・429	404		0.50 × 0.41	0.29	楕円形		
PT127	F	428	405		0.30 × 0.28	0.37	隅丸方形		SB01
PT128	F	428	405		0.30 × 0.25	0.10	楕円形		
PT129	F	429	405		0.30 × 0.30	0.20	円形		
PT130	C	429	403		0.21 × 0.21	0.29	円形		
PT131	C	430	402		0.29 × 0.28	0.23	円形		
PT132	C	430	403		0.49 × 0.47	0.26	円形		
PT133	C	432	404・405		0.27 × 0.26	0.28	隅丸方形		SB01
PT134	C	432	403		0.37 × 0.33	0.20	楕円形		SB01
PT135	C	432	401・402		0.28 × 0.26	0.11	円形		
PT136	C	432	401		0.42 × 0.42	0.19	不整円形		SB01
PT137	F	433・434	399		0.45 × 0.39	0.29	楕円形		
PT138	F	424	402		0.19 × 0.17	0.12	楕円形		SB07
PT139	F	424	401		0.30 × 0.26	0.26	楕円形		
PT140	F	423	401		0.32 × 0.27	0.17	楕円形		SB02
PT141	G	456・457	405		0.48 × 0.45	0.18	不整円形	土師器甕 1	
PT142	G	463	404		0.38 × 0.36	0.48	円形	土師器甕 1	
PT143	G	461・462	402・403	SI02 より後出	0.38 × 0.36	0.62	円形		
PT144	H	462	402		0.45 × 0.32	0.15	楕円形		
PT145	F	462	401・402		0.34 × 0.32	0.10	円形		
PT146	G	463	401		0.27 × 0.25	0.13	円形		
PT147	H	463	401	SI02 より後出	0.25 × 0.25	0.32	円形		
PT148	F	463	400		0.24 × 0.20	0.10	楕円形		
PT149	F	462	398	SI10 のピット	0.65 × 0.45	0.51	楕円形	土師器甕 1	
PT150	H	462・463	397	SI10 より後出	0.34 × 0.28	0.09	楕円形		
PT151	H	463	394		0.34 × 0.30	0.27	円形		
PT152	H	463	394		0.28 × 0.22	0.10	楕円形		
PT153	H	463	394		0.30 × 0.30	0.09	円形		
PT154	F	460	393		0.35 × 0.35	0.04	円形		
PT155	H	448	402	SD06 に伴う可能性あり	0.50 × 0.35	0.38	楕円形		
PT156	H	448・449	406	SD07 に伴う可能性あり	0.36 × 0.30	0.42	楕円形		
PT157	G	449	403・404	SD08 に伴う可能性あり	0.35 × 0.30	0.26	楕円形		
PT158	G	450	402	SD09 に伴う可能性あり	0.35 × 0.33	0.40	円形		
PT159	H	463	4052	SI02 より後出	0.40 × 0.40	0.37	円形	弥生土器 1、土師器坏 1	
PT160	H	463	401	SI03 より後出	0.30 × 0.25	0.06	円形		
PT161	I	462	402	SI04 より後出	0.35 × 0.33	0.38	円形	土師器甕 1	
PT162	H	462	403	SI05 より後出	0.28 × 0.23	0.39	楕円形		
PT163	H	457	405		0.48 × 0.45	0.27	不整円形		
PT164	H	456	406		0.42 × 0.33	0.25	楕円形		
PT165	H	451	405		0.42 × 0.32	0.31	楕円形		
PT166	H	451	405		0.35 × 0.32	0.62	不整円形	土師器甕 5	
PT167	H	451	404		0.38 × 0.35	0.27	円形		
PT168	H	447	406		0.30 × 0.30	0.18	円形		
PT169	H	445	406		0.52 × 0.45	0.21	楕円形		
PT170	H	378	442・443	SK29 より後出	0.38 × 0.33	0.18	楕円形	土師器甕 1	
PT171	H	448	376		0.40 × 0.40	0.14	不整円形	土師器甕 1	
PT172	H	448	377	SD06 に伴う可能性あり	0.23 × 0.20	0.05	楕円形		
PT173	G	447	378・379	SD06 に伴う可能性あり	0.40 × 0.34	0.09	楕円形		
PT174	G	446	379	SD06 より後出	0.46 × 0.46	0.14	円形		SB08
PT175	G	447	379	SK33 より後出、SD06 に伴う可能性あり	0.50 × 0.38	0.20	楕円形		
PT176	G	452	380	SD07 に先行	0.36 × 0.30	0.30	円形		
PT177	G	456	404		0.36 × 0.30	0.38	不整円形	土師器甕 1	
PT178	H	460	400		0.58 × 0.51	0.41	楕円形		
PT179	H	445	376・377		0.40 × 0.35	0.24	楕円形	土師器甕 4、高坏 1	
PT180	H	448	379		0.45 × 0.42	0.28	楕円形	弥生土器 1、土師器甕 4	SB08
PT181	H	451	377	SD08 に先行	0.61 × 0.43	0.40	楕円形	弥生土器 1、土師器甕 3	
PT182	H	447	380		0.53 × 0.46	0.41	円形		
PT183	H	446・447	381		0.45 × [0.20]	0.15	不詳		SB08
PT184	H	450	379	SD08 に先行	0.58 × 0.52	0.21	楕円形		SB08
PT185	H	450	381	SD11 より後出	0.45 × [0.35]	0.14	楕円形		SB08
PT186	H	451	379		0.41 × 0.34	0.31	楕円形	土師器甕 1	
PT187	H	459	376		0.30 × [0.23]	0.38	不詳		
PT188	J	459・460	377		0.38 × 0.26	0.33	楕円形		
PT189	J	463	376		0.38 × [0.30]	0.33	楕円形		
PT190	H	463	377		0.26 × 0.22	0.15	楕円形		
PT191	J	464	377		0.55 × 0.46	0.32	楕円形	土師器甕 6	
PT192	J	463	378	PT193 より後出	0.45 × 0.45	0.19	円形		
PT193	J	464	378	PT192 に先行	0.63 × 0.43	0.37	楕円形	土師器甕 1	
PT194	H	464	378		0.46 × 0.45	0.27	円形	弥生土器 1、土師器甕 12	
PT195	H	464	377		0.23 × 0.22	0.18	円形		
PT196	H	465	380		0.48 × 0.43	0.33	楕円形		
PT197	H	465	379	PT198 より後出	0.43 × 0.43	0.44	円形	土師器甕 10	
PT198	H	465・466	378	PT197 に先行	0.36 × 0.35	0.26	円形		
PT199	H	460・461	377		0.34 × 0.30	0.41	不整円形		
PT200	H	460	376・377		0.40 × 0.37	0.19	不整円形		

PT 覆土凡例

A. 暗褐色土（10YR3／3）粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。

B. 黒褐色土（10YR3／2）粘質土。黄褐色粗粒砂、砂利を含む。

C. 暗褐色土（10YR3／4）黄褐色粗粒砂ブロック混入。砂利・炭粒を微量含む。

D. にぶい黄褐色土（10YR4／3）黄褐色粗粒砂ブロック、微量の炭粒を含む。

E. 黒褐色土（10YR3／2）黄褐色粗粒砂ブロック、炭粒を含む。

F. にぶい黄褐色土（10YR4／3）黄褐色粘質土ブロックを少量含む。

G. 暗褐色（10YR3／4）黄褐色粘質土ブロックを少量含む。

H. 黒褐色土（10YR2／2）黄褐色粘質土ブロックを含む。

I. 黒褐色土（10YR2／2）炭粒、焼土ブロックを多量含む。

J. 黒褐色土（10YR2／2）黄褐色土ブロック、φ 2mm の軽石を少量含む。

（3）土坑　（第24・25・31図、PL. 4～6・8）

今回の調査では33基の土坑を確認している（第24・25図）。調査区のほぼ全域で検出されており、特に偏在する傾向は示していない。土坑個別の位置・規模・出土遺物等の詳細はSK計測表（第2表）に掲載しているので参照されたい。尚、SK32では土師器甕が土師器壷の下半部を合わせ口状に被せ、横位に設置した状態で検出されており、土器棺墓の可能性が高い。土器棺の主軸方向はN－128°－Eを測り、土器内からの出土遺物はない。SK23では底面の壁際に周溝状の浅い窪みを検出している。

以下、第31図に示した実測個体資料について略記し、詳細は出土遺物観察表（第3表）を参照されたい。SK11 1はかわらけ。SK15 1は瀬戸・美濃柳茶碗。SK27 1・2は土師器坏。SK28 1は土師器甕。SK32 1は土師器甕で土器棺の身、2は土師器壷で土器棺の蓋として使用されたものである。

第2表　SK計測表

名称	座標値		重複関係	規模			出土遺物	備考
	X	Y		平面	深さ	形状		
SK01	394・395	404	SD02に先行	1.02 × (0.49)	0.50	不詳		
SK02	405	404・405		0.75 × 0.65	0.25	不整円形		
SK03	405	404・405		0.65 × 0.42	0.60	不整円形		
SK04	406・407	403・404		0.76 × 0.62	0.53	楕円形		
SK05	406	401		0.62 × 0.41	0.23	楕円形	かわらけ1	
SK06	406・407	401・402		0.75 × 0.60	0.75	不整円形		
SK07	406	399・400		0.75 × 0.42	0.48	楕円形		
SK08	407・408	404・405		[1.15] × [1.00]	0.46	不詳		
SK09	407・408	402・403		0.93 × 0.62	0.40	楕円形		
SK10	408	403・404		0.70 × 0.52	0.30	楕円形	鉄製品1	
SK11	407～409	399・400	PT033に先行	1.67 × [0.77]	0.20	不詳	かわらけ1	
SK12	415	401		0.75 × 0.35	0.25	不整円形	肥前系染付碗1	18C中葉～末
SK13	415・416	401	P105より後出	0.92 × 0.65	0.30	不整円形	在地系軟質土器1	
SK14	415・416	400		0.75 × [0.69]	0.37	不整円形		
SK15	416・417	400		0.64 × 0.55	0.42	楕円形	瀬戸・美濃柳茶碗1	18C中葉～19C中葉
SK16	419・420	401	PT109より後出	0.72 × 0.70	0.30	不整円形		
SK17	420	400・401		1.05 × 0.61	0.10	不整円形	美濃織部丸皿1	17C前葉～中葉
SK18	418	400		[0.70] × [0.10]	0.08	不詳		
SK19	427・428	404・405		0.75 × 0.53	0.40	楕円形		
SK20	458・459	402		[0.95] × 0.75	0.07	楕円形	土師器甕4	
SK21	459	402	SI03より後出	0.60 × 0.41	0.34	楕円形	土師器甕3	壁際に周溝状の窪みが巡る。
SK22	460・461	401・402		0.63 × 0.62	0.05	円形		
SK23	445～447	404～406		1.77 × 1.77	0.36	円形	縄文土器34、弥生土器17、土師器甕148、須恵器坏2	8C以降
SK24	458～460	406・407		[1.40] × 1.25	0.23	不整形		
SK25	453・454	406・407	SD07に先行	[1.13] × [0.95]	0.32	不詳	土師器甕2、土師器坏1	
SK26	453	405・406	SD07に先行	[0.73] × [0.73]	0.13	不詳		
SK27	460・461	390・391	SI04より後出	1.35 × 1.16	1.05	不整円形	弥生土器1、土師器甕19、土師器坏3	8C代
SK28	463・464	403～405	SI01・02より後出	1.39 × 1.15	0.28	楕円形	弥生土器1、土師器甕39、土師器高坏1	6Cか？
SK29	443	377・378	PT170に先行	0.89 × 0.75	0.27	楕円形		
SK30	443～445	376・377		1.60 × 1.18	0.46	楕円形	土師器甕1	
SK31	448・449	375・376	SD06に先行	0.76 × [0.62]	0.38	不詳	土師器甕・壺7	
SK32	451・452	378	SD07・08に先行	[0.92] × [0.88]	0.42	楕円形	弥生土器1、土師器甕・壺9	古墳前期　土器棺墓
SK33	447・448	379・380	SD06・08、PT175に先行	1.83 × 0.83	0.28	楕円形		

（4）溝　（第26～28図、PL. 4・5・8）

溝は14条を検出している。走行方向は東西が8条、南北が6条で、規模・形状等から中近世の濠や古墳時代の環濠と考えられるものもみられ、多様な機能・性格等が想定される。

SD01（第26・31図、PL. 4・8）

位置　調査区中央部（X＝435～443、Y＝375～406）　**重複**　SX01より後出する。　**走行方位**　N－92°－E～N－79°－E。　**規模**　検出長［31.20］m、上幅6.85～7.00 m、下幅4.15～4.20 m、深さ2.35 m、底面の標高は西側で89.38m、東側で89.22mを測る。　**形状等**　やや蛇行気味に東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で東側が低い。底面上に湛水の痕跡として粗粒砂の堆積を確認している。調査着手の直前まで、濠の存在が想定される規模の窪みが観察されていた。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器19点、近世陶磁器2点、近現代陶磁器多数である。図示し得た実測個体資料は第31図SD01－1・2で覆土からの出土である。1は肥前系染付徳利、2は美濃錆釉徳利である。　**時期**　堆積状況、及び出土遺物から近世以降と想定されるが、開削は中世まで遡る可能性もあろう。

SD02（第26・31図、PL. 5・8）

位置　調査区南部（X＝389～396、Y＝398～404）　**重複**　SK01より後出する。　**走行方位**　N－90°－E。　**規模**　検出長［5.65］m、上幅6.95～7.30 m、下幅2.68～3.00 m、深さ1.13 m、底面の標高は89.35m前後を測る。　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、南側が0.20 m程高い段となる。底面上に湛水の痕跡としてシルト質土、川原石の堆積を確認している。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は中近世在地系軟質土器1点、近世陶磁器2点、近現代陶磁器3点である。図示し得た実測個体資料は第31図SD02－1・2で覆土からの出土である。1は肥前系染付碗の体部、2は瀬戸鉄釉丸碗である。　**時期**　堆積状況、及び出土遺物から開鑿は中世以降と想定される。

SD03（第26・31図、PL. 5・8）

位置　調査区南部（X = 400～404、Y = 399～405）　**重複**　SD04より後出する。　**走行方位**　N－90°－E。　**規模**　検出長［5.65］m、上幅3.68～4.05 m、下幅1.05～11.36 m、深さ0.67 m、底面の標高は西側で89.62m、東側で89.55mを測る。　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、東側が低い。底面上に湛水の痕跡としてシルト質土、川原石の堆積を確認している。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は中世磁器1点、近世在地系軟質土器1点である。図示し得た実測個体資料は第31図SD03－1で覆土からの出土した龍泉窯系青磁内底花文碗の底部である。　**時期**　堆積状況、及び出土遺物から開鑿は中世以降と想定される。

SD04（第26図、PL. 5）

位置　調査区南部（X = 397～400、Y = 403～405）　**重複**　SD03・05より後出する。　**走行方位**　N－21°－W。　**規模**　検出長［4.20］m、上幅0.50～0.72 m、下幅0.25～0.43 m、深さ0.19 m、底面の標高は北側で89.90m、南側で90.02mを測る。　**形状等**　南北方向に走行し、北側は調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、北側が低い。湛水の痕跡は確認できない　**出土遺物**　出土していない。　**時期**　遺構の重複関係から開鑿は中世以降と想定される。

SD05（第26図、PL. 5）

位置　調査区南部（X = 397～398、Y = 399～404）　**重複**　SD04に先行する。　**走行方位**　N－98°－E。　**規模**　検出長［5.85］m、上幅0.44～0.68 m、下幅0.11～0.40 m、深さ0.10～0.20 m、底面の標高は90.05m前後を測る。**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、中央部がやや窪む。湛水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　出土していない。　**時期**　遺構の重複関係から開鑿は中世以降と想定される。

SD06（第27・31図、PL. 5・8）

位置　調査区北部西側（X = 400～404、Y = 399～405）／東側（X = 444～449、Y = 375～381）　**重複**　PT174に先行し、SI03、SK31・32より後出する。　**走行方位**　西側N－98°－E／東側N－64°－E。　**規模**　西側検出長［5.55］m、上幅2.78～3.18 m、下幅0.50～0.75 m、深さは北側が0.38 m、南側が0.60 m、底面標高は西側で90.86 m、東側で90.85 mを測る。／　東側検出長［6.00］m、上幅2.72～2.92 m、下幅0.57～0.75 m、深さは北側が0.21 m、南側が0.34 m、底面標高は西側で90.79 m、東側で90.78 mを測る。　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、北側が0.20 m程高い段を呈す。湛水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器9点、弥生土器3点、土師器42点である。図示し得た実測個体資料は第31図SD06－1で覆土からの出土した土師器高坏の脚部である。　**時期**　遺構の重複関係、及び出土遺物から7世紀以降と想定される。

SD07（第27・31図、PL. 5・8）

位置　調査区北部西側（X = 453～455、Y = 402～407）　東側（X = 451～453、Y = 375～381）　**重複**　SI07・08、SK25・26・32、SD11・12より後出する。　**走行方位**　西側N－96°－E　東側N－88°－E。　**規模**　西側検出長［5.50］m、上幅2.10～2.17 m、下幅0.27～0.37 m、深さは0.76 m、底面標高は西側で90.71 m、東側で90.68 mを測る。　東側検出長［5.60］m、上幅1.50～2.05 m、下幅0.20～0.40 m、深さは0.55 m、底面標高は西側で90.67 m、東側で90.59 mを測る。　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、北側が0.20 m程高い段を呈す。湛水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器3点、弥生土器1点、土師器15点である。図示し得た実測個体資料は第31図SD07－1で覆土からの出土した土師器鉢である。　**時期**　遺構の重複関係、及び出土遺物から7世紀以降と想定される。

SD08（第27・32図、PL. 5・8）

位置　調査区北部東側（X = 447～451、Y = 375～381）　**重複**　SK32・33、SD11、PT181・184より後出する。　**走行方位**　N－63°－E。　**規模**　検出長［6.25］m、上幅1.15～1.50 m、下幅0.82～1.25 m、深さは0.10 m、底

面標高は西側で91.12 m、東側で90.95 mを測る。　**形状等**　南西～北東方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、北東側が低い。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器３点、弥生土器１点、土師器37点、須恵器１点、中近世陶磁器１点である。図示し得た実測個体資料は第32図SD08－１～３で１・２覆土、３は底面からの出土である。１は須恵器高坏の底部、２は土師器器台の脚部、３はSK32南側の底面から出土した弥生土器甕である。　**時期**　図示遺物は古墳時代のものであるが、他の出土遺物、及び遺構の重複関係から近世以降と考えられる。

SD09（第27図、PL. 4）

位置　調査区中央部西側（X = 443～447、Y = 401～403）　**重複**　SI03に先行する。　**走行方位**　N－38°－E。　**規模**　検出長［3.75］m、上幅1.05～1.08 m、下幅0.06～0.10 m、深さは0.74 m、底面標高は南西側で90.48 m、北東側で90.44 mを測る。　**形状等**　南西～北東方向にやや弓なりに走行し、調査区外に続く。後述するSD13に繋がる可能性が高い。断面はV字を呈する。底面はほぼ平坦で、北東側が低い。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器２点、土師器３点である。図示し得た実測個体資料はない。　**時期**　遺構の重複関係、及び出土遺物から古墳時代前期以降～６世紀以前と考えられる。

SD10（第27図、PL. 5）

位置　調査区北部東端（X = 454～458、Y = 376～377）　**重複**　SI07・08、SD12より後出する。　**走行方位**　N－6°－E。　**規模**　長さ3.45 m、上幅0.25～0.26 m、下幅0.08～0.18 m、深さは0.06 m、底面標高は南側で91.07 m、北側で91.03 mを測る。　**形状等**　南北方向に走行する。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、北側が低い。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器４点である。図示し得た実測個体資料はない。　**時期**　遺構の重複関係から６世紀以降と考えられる。

SD11（第27図、PL. 5）

位置　調査区北部東側（X = 449～452、Y = 380～381）　**重複**　SD07・08、PT185に先行する。　**走行方位**　N－8°－W。　**規模**　検出長［3.11］m、上幅0.73～0.92 m、下幅0.28～0.50 m、深さは0.67 m、底面標高は北側で90.74 m、南側で90.57 mを測る。　**形状等**　南北方向に走行する。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、南側が低い。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は弥生土器１点、土師器22点である。図示し得た実測個体資料はない。　**時期**　出土遺物、及び遺構の重複関係から古墳時代前期以降と考えられる。

SD12（第27図、PL. 5）

位置　調査区北部東端（X = 452～458、Y = 37 6～377）　**重複**　SI08、SD07・10に先行する。　**走行方位**　N－5°－W。　**規模**　検出長［5.90］m、上幅〔0.93〕m、下幅〔0.25〕m、深さは0.77 m、底面標高は南側で90.58 m、北側で90.36 mを測る。　**形状等**　南北方向に走行する。断面は逆台形を呈するものか。底面はほぼ平坦で、北側が低い。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器が５点、弥生土器３点、土師器40点である。図示し得た実測個体資料はない。　**時期**　出土遺物、及び遺構の重複関係から古墳時代前期以降と考えられる。

SD13（第28・32図、PL. 4・8）

位置　調査区北東部（X = 460～462、Y = 376～388）　**重複**　SI05・06に先行し、SI15より後出する。　**走行方位**　N－80°－E。　**規模**　検出長［11.90］m、上幅1.30～1.63 m、下幅0.06～0.13 m、深さは0.94 m、底面標高は西側で90.42 m、東側で90.10 mを測る。　**形状等**　東西方向にやや弓なりに走行し、調査区外に続く。前述のSD09に繋がる可能性が高い。断面はV字を呈する。底面はほぼ平坦で、東側が低い。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器12点、土師器50点である。図示し得た実測個体資料は第32図SD13－１・２で覆土からの出土である。１は土師器蓋、２は土師器甕である。　**時期**　出土遺物、及び遺構の重複関係から古墳時代前期以降～６世紀以前と考えられる。

SD14（第28図、PL. 5）

位置　調査区北端部中央（X = 462～465、Y = 384～385）　**重複**　なし。　**走行方位**　N－3°－E。　**規模**　検

出長［3.18］m、上幅 0.37 ～ 0.47 m、下幅 0.17 ～ 0.29 m、深さは 0.17 m、底面標高は北側で 91.03 m、南側で 90.98 mを測る。　**形状等**　南北方向に走行し、北部は調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、南側が低い。　**出土遺物**　出土していない。　**時期**　不詳。

（5）性格不明遺構　（第 28・32 図、PL. 5・8）

竪穴状遺構と称すべきかもしれないが、本報では性格不明遺構の呼称を使用している。

SX01（第 28 図、PL. 5）

位置　調査区中央部東側（X = 440 ～ 442、Y = 377 ～ 379）　**重複**　SD01 に先行する。　**形状・規模**　平面は方形を呈するものであろうか。東西 [2.47〕m × 南北 [2.42〕m、壁現高 0.40 mを測る。底面は平坦で、北側に張り出し状の段を有する。南部は SD01 により失い、西部は調査区外となる。出土遺物　接合作業後の破片数は弥生土器３点、土師器 27 点、在地系軟質土器２点である。図示し得た実測個体資料はない。　**時期**　出土遺物より中世以降と考えられる。

SX02（第 28 図、PL. 5）

位置　調査区北東隅（X = 465、Y = 378）　**重複**　なし。　**形状・規模**　平面は方形を呈するものであろうか。東西〔1.83〕m×南北〔0.96〕m、壁現高 0.27 mを測る。底面はほぼ平坦である。南壁の部分的な検出にとどまり、大半は調査区外となる。出土遺物　なし。　**時期**　不詳。

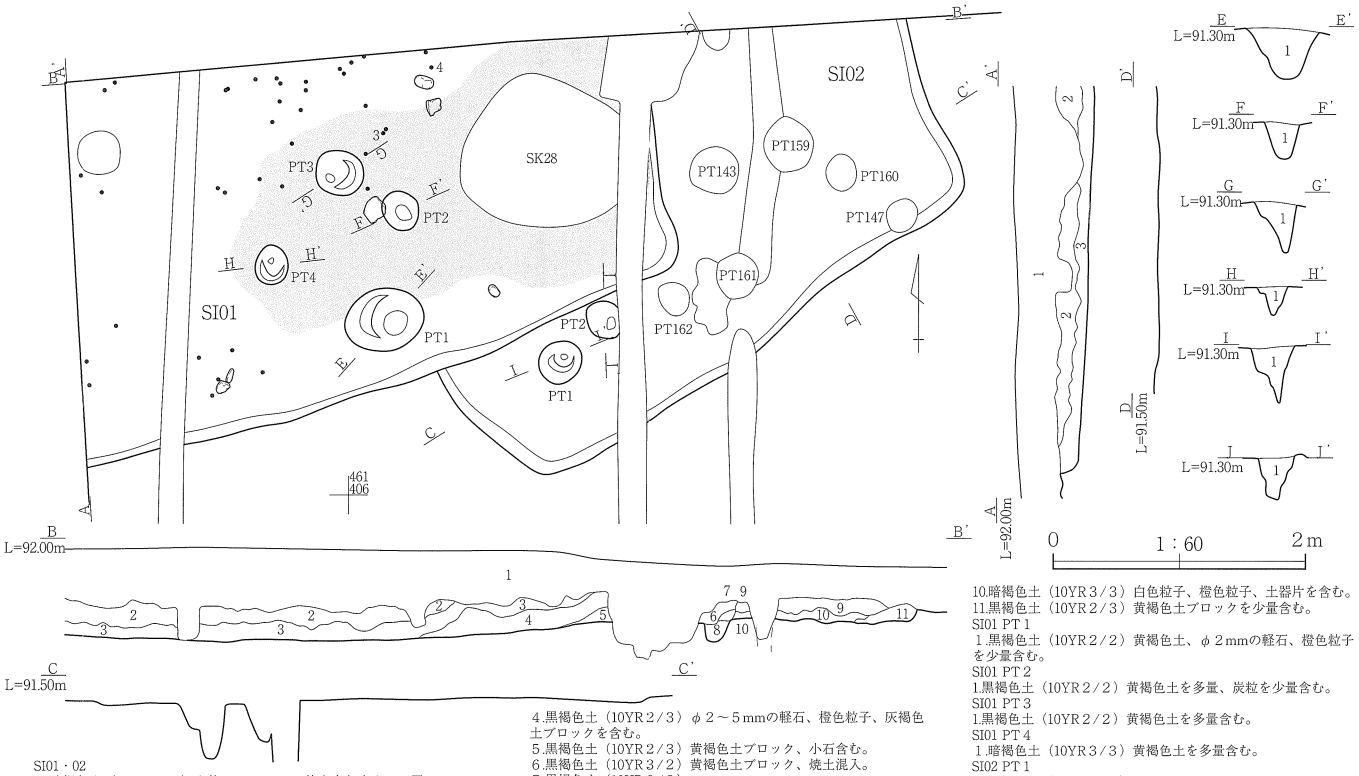
SX03（第 28・32 図、PL. 5・8）

位置　調査区北端部中央（X = 460 ～ 465、Y = 385 ～ 389）　**重複**　SI04・05・06、SD13 に先行する。　**形状・規模**　平面は不整形を呈する。東西 4.00 m×南北 [6.02〕m、壁現高 0.18 mを測る。底面は北側がやや低い。西部は SI04、南東部は SI06 により失い、北部は調査区外となる。ほぼ中央部に７口の小穴が北東～南西方向に並ぶ。平面は楕円形～楕円形状を呈し、規模は東西 0.25 ～ 0.75 m、南北 0.22 ～ 0.60 m、深さ 0.05 ～ 0.35 m、芯～芯距離は南から 0.40m、0.60m、0.50m、0.80m、0.60m、1.20m を測る。南北の主軸方位は N － 25°－ E である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器土師器 68 点、弥生土器２点、土師器 226 点である。図示し得た実測個体資料は第 32 図 SX03 － 1 ～ 3 で覆土からの出土である。１は土師器 S 字甕、２は土師器壷の口縁部、３・４は土師器坩である。

時期　出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

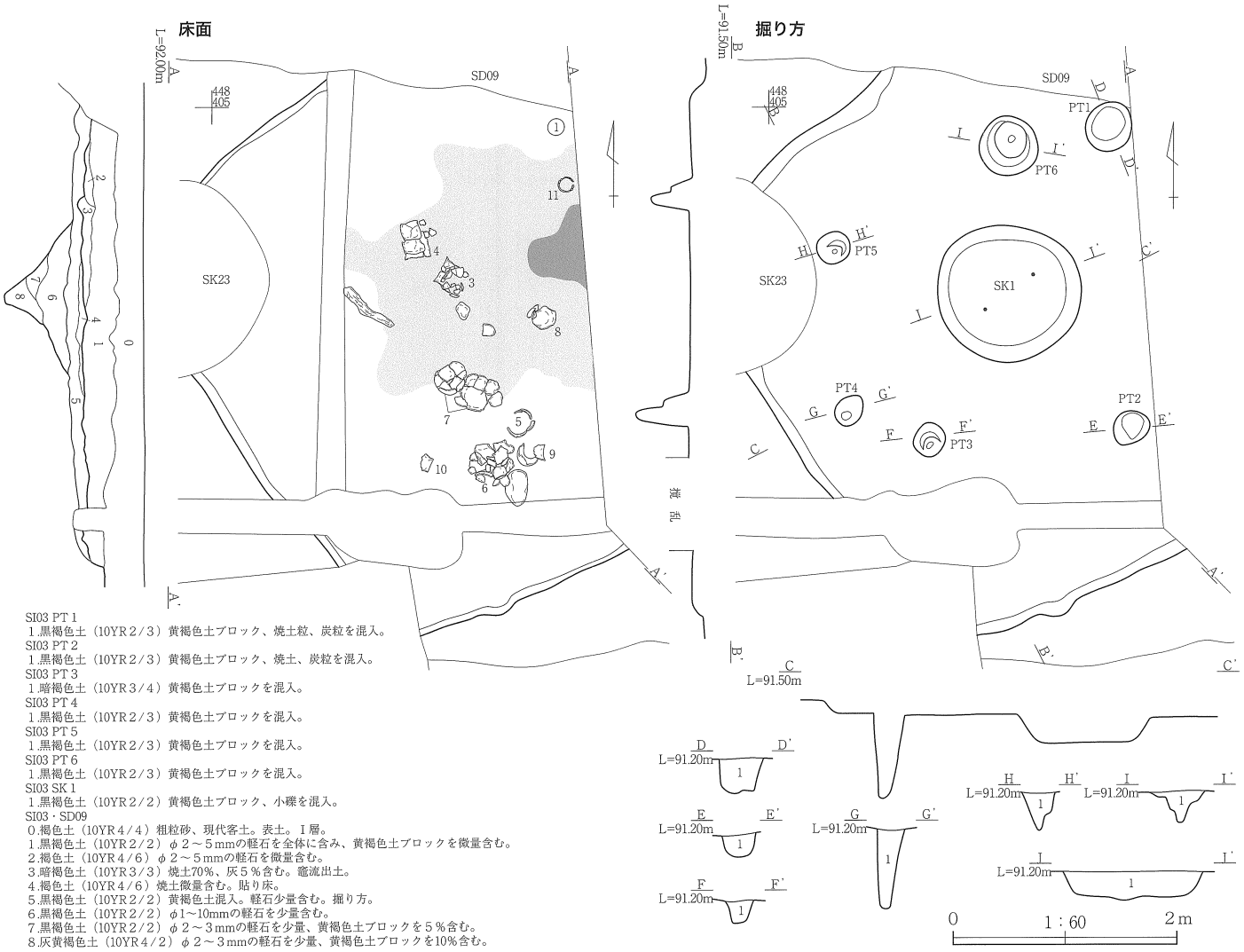
（6）遺構外出土遺物　（第 32 図、PL. 8）

表土掘削、および遺物包含層から出土した遺物をここに集めた。接合作業後の破片数は縄文土器 128 点、石斧１点、弥生土器 14 点、土師器 415 点、須恵器 24 点、寛永通宝１点である。ここでは第 32 図に示した実測個体資料について略記し、詳細は出土遺物観察表（第３表）を参照されたい。１・２は縄文土器の深鉢、３は縄文土器の短頸壷、４は短冊形の打製石斧である。５～８は竜見町式の弥生土器で壷類の頸～胴部片である。５は SK23、６～８は SD12 の混入遺物であり、都合によりここに示した。９は土師器壷の口縁部、10 は須恵器短頸壷の頸～胴部、11 は寛永通寶である。



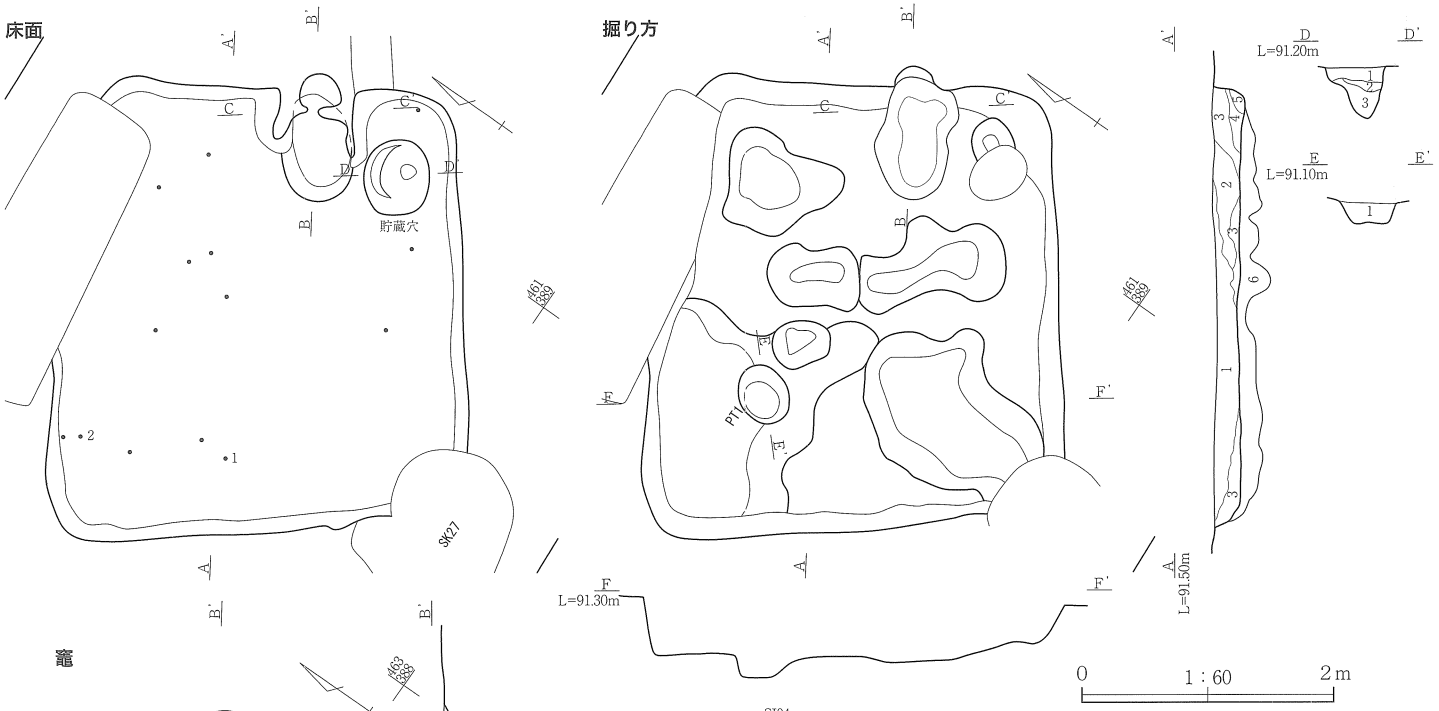
SI01・02
1.暗褐色土（10YR３/４）上位10cmはバラス等を含む客土。Ⅰ層。
2.黒褐色土（10YR２/３）φ２～５mmの軽石、φ５～10cmの川原石、土器片等を含む。
3.黒褐色土（10YR３/２）φ２～５mmの軽石、橙色粒子、灰褐色粒子を含む。
4.黒褐色土（10YR２/３）φ２～５mmの軽石、橙色粒子、灰褐色土ブロックを含む。
5.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロック、小石含む。
6.黒褐色土（10YR３/２）黄褐色土ブロック、焼土混入。
7.黒褐色土（10YR３/２）
8.黒褐色土（10YR３/２）黄褐色土ブロック混入。
9.黒褐色土（10YR２/３）φ２～５mmの軽石、白色粒子、橙色粒子を含む。
10.暗褐色土（10YR３/３）白色粒子、橙色粒子、土器片を含む。
11.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロックを少量含む。
SI01 PT１
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土、φ２mmの軽石、橙色粒子を少量含む。
SI01 PT２
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土を多量、炭粒を少量含む。
SI01 PT３
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土を多量含む。
SI01 PT４
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色土を多量含む。
SI02 PT１
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを混入。
SI02 PT２
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを混入。

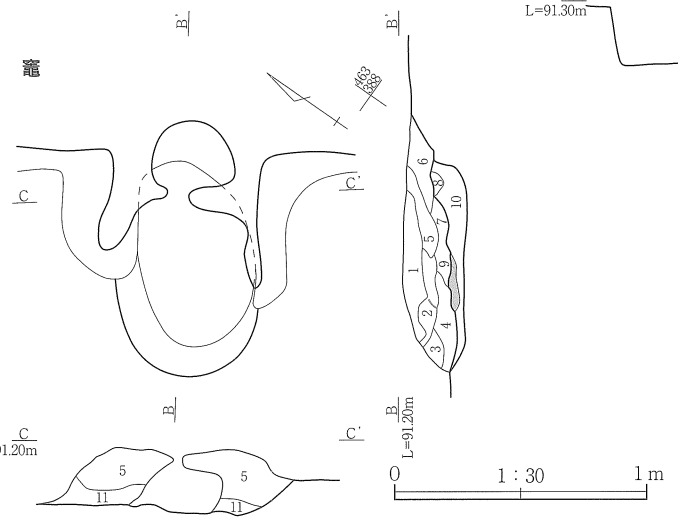
第５図　SI01・02



SI03 PT１
1.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロック、焼土粒、炭粒を混入。
SI03 PT２
1.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロック、焼土、炭粒を混入。
SI03 PT３
1.暗褐色土（10YR３/４）黄褐色土ブロックを混入。
SI03 PT４
1.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロックを混入。
SI03 PT５
1.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロックを混入。
SI03 PT６
1.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロックを混入。
SI03 SK１
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロック、小礫を混入。
SI03・SD09
0.褐色土（10YR４/４）粗粒砂、現代客土。表土。Ⅰ層。
1.黒褐色土（10YR２/２）φ２～５mmの軽石を全体に含み、黄褐色土ブロックを微量含む。
2.褐色土（10YR４/６）φ２～５mmの軽石を微量含む。
3.暗褐色土（10YR３/３）焼土70%、灰５%含む。竈流出土。
4.褐色土（10YR４/６）焼土微量含む。貼り床。
5.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土混入。軽石少量含む。掘り方。
6.黒褐色土（10YR２/２）φ1～10mmの軽石を少量含む。
7.黒褐色土（10YR２/２）φ２～３mmの軽石を少量、黄褐色土ブロックを５%含む。
8.灰黄褐色土（10YR４/２）φ２～３mmの軽石を少量、黄褐色土ブロックを10%含む。

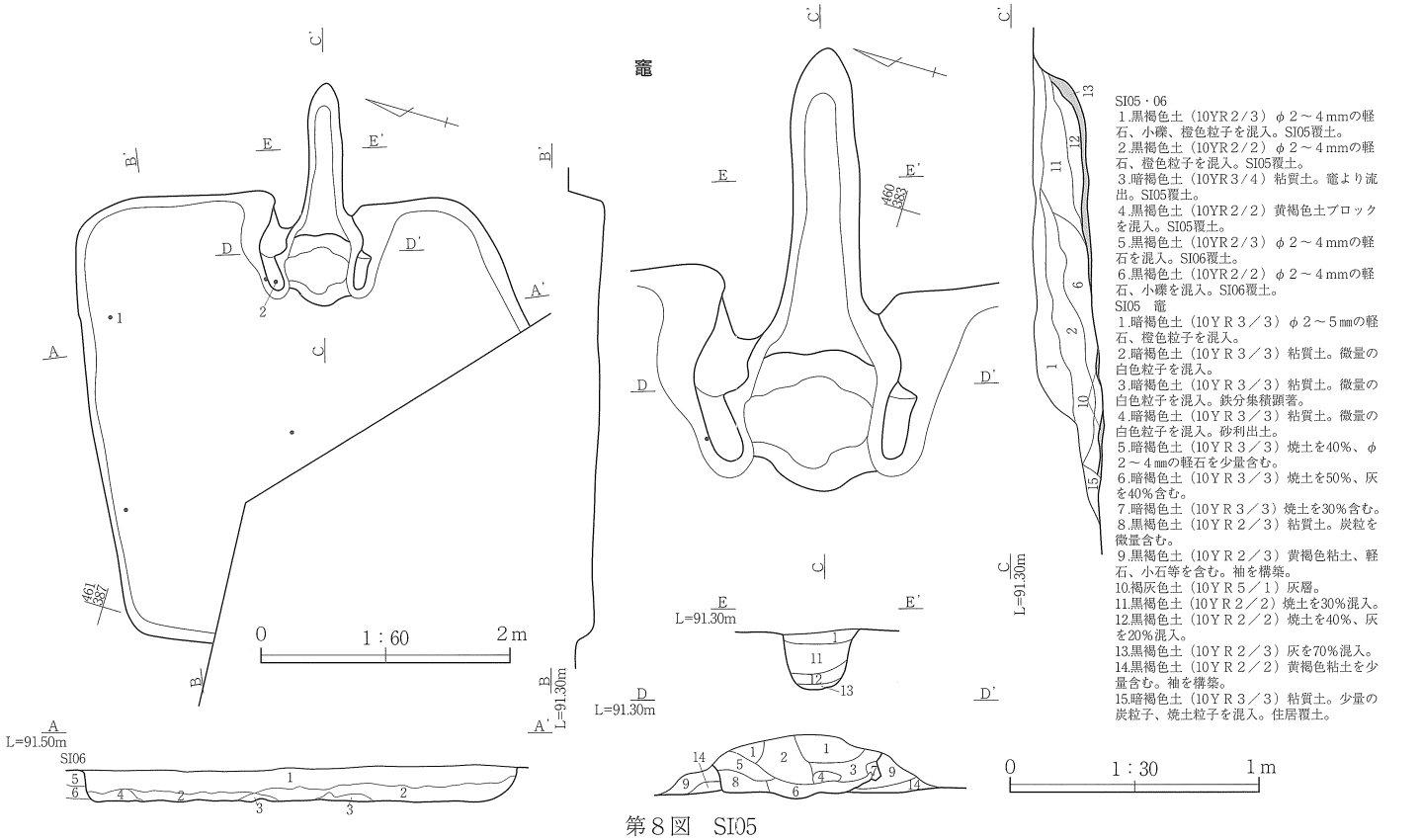
第６図　SI03





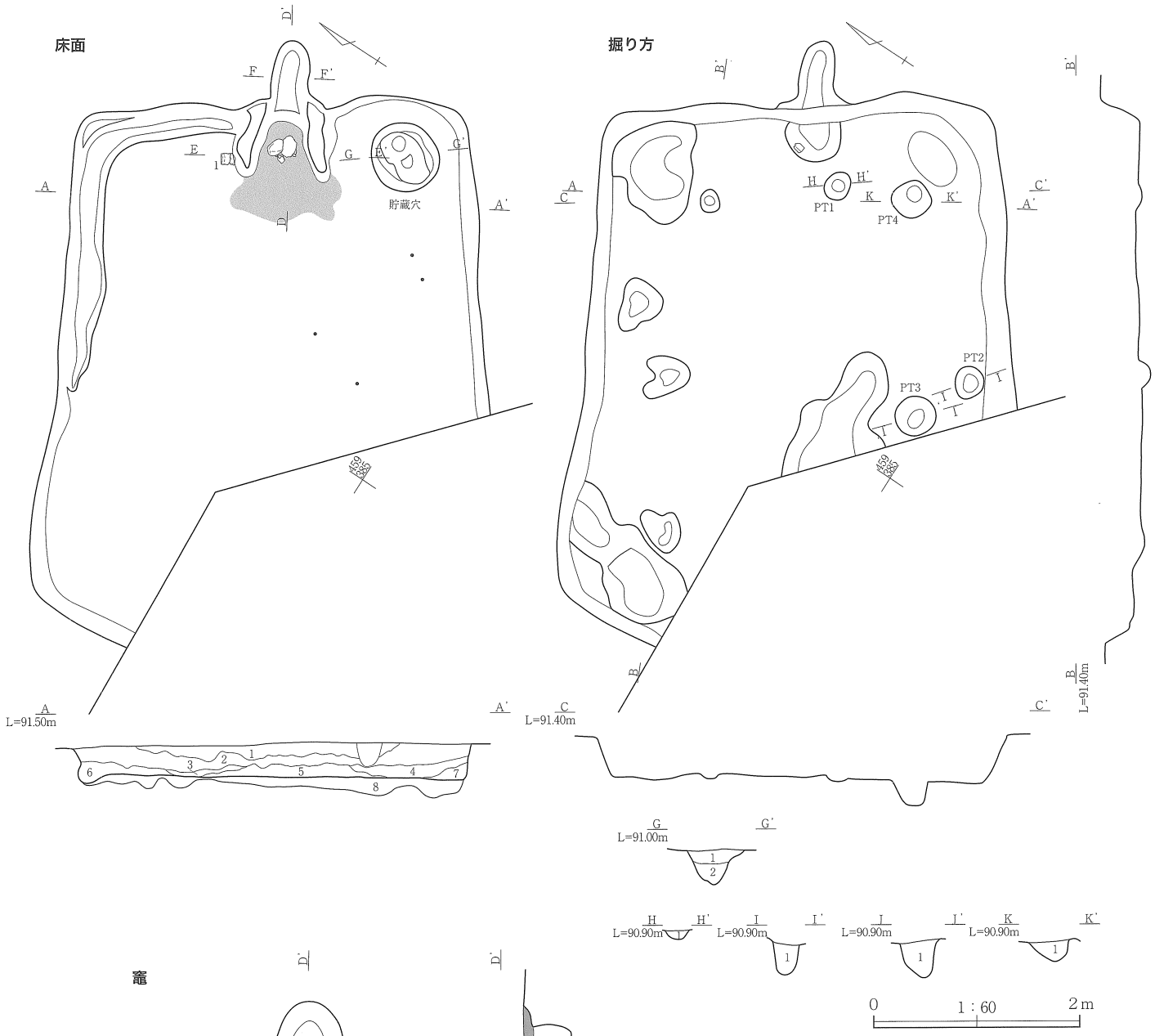
SI04
1.黒褐色土（10YR2/3）φ2～5mmの軽石、黄褐色土ブロック、砂利を少量含む。
2.黒褐色土（10YR2/3）φ2～5mmの軽石、砂利を少量、黄褐色土ブロックを中量含む。
3.黒褐色土（10YR2/2）φ2～5mmの軽石、橙色粒子を含む。
4.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを含む。
5.黒褐色土（10YR2/2）
6.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを40%含む。掘り方。
SI04　竈
1.暗褐色土（10YR3/3）φ2～5mmの軽石を全体に含む。
2.黒褐色土（10YR3/2）粘質土。φ2～5mmの軽石を全体に含む。土器片出土。
3.黒褐色土（10YR2/3）φ2～5mmの軽石、黄褐色土混入。焼土を微量含む。
4.暗褐色土（10YR3/3）φ2～5mmの軽石、焼土、灰を少量含む。
5.褐色土（10YR4/4）黄褐色粘質土混入。締まり良好。袖、天井を構築。
6.黒褐色土（10YR2/3）φ2～5mmの軽石を少量混入。
7.暗褐色土（10YR3/4）焼土をブロック状に含む。
8.黒褐色土（10YR2/2）粘質土。
9.灰黄褐色土（10YR5/2）灰層。
10.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色粗粒砂を混入。
11.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土、φ2～4mmの軽石を少量含む。
SI04　貯蔵穴
1.黒褐色土（10YR2/2）φ2～5mmの軽石、砂利を含む。
2.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土を微量含む。
3.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土を50%混入。
SI04 PT 1
1.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土ブロックを70%混入。

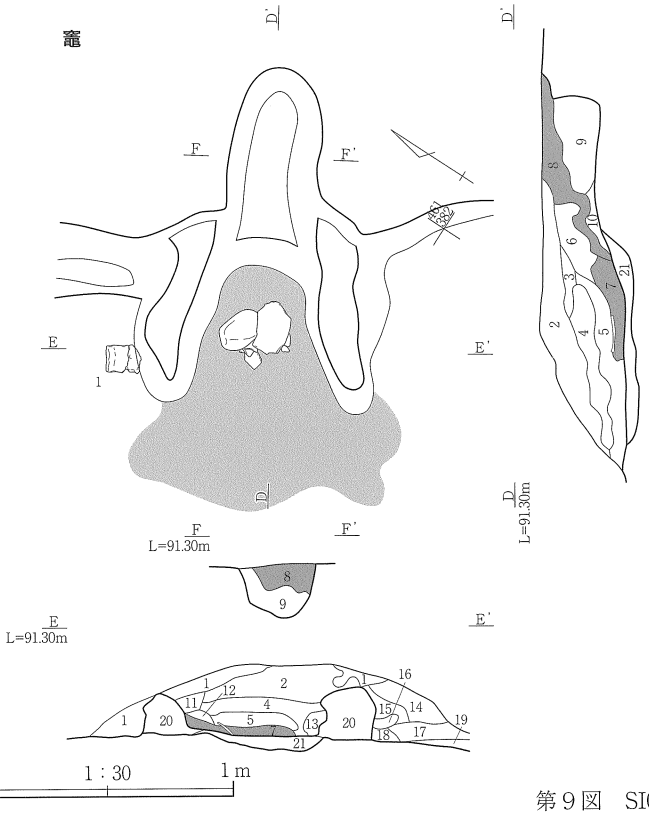
第7図　SI04



SI05・06
1.黒褐色土（10YR2/3）φ2～4mmの軽石、小礫、橙色粒子を混入。SI05覆土。
2.黒褐色土（10YR2/2）φ2～4mmの軽石、橙色粒子を混入。SI05覆土。
3.暗褐色土（10YR3/4）粘質土。竈より流出。SI05覆土。
4.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを混入。SI05覆土。
5.黒褐色土（10YR2/3）φ2～4mmの軽石を混入。SI06覆土。
6.黒褐色土（10YR2/2）φ2～4mmの軽石、小礫を混入。SI06覆土。
SI05　竈
1.暗褐色土（10YR3/3）φ2～5mmの軽石、橙色粒子を混入。
2.暗褐色土（10YR3/3）粘質土。微量の白色粒子を混入。
3.暗褐色土（10YR3/3）粘質土。微量の白色粒子を混入。鉄分集積顕著。
4.暗褐色土（10YR3/3）粘質土。微量の白色粒子を混入。砂利出土。
5.暗褐色土（10YR3/3）焼土を40%、φ2～4mmの軽石を少量含む。
6.暗褐色土（10YR3/3）焼土を50%、灰を40%含む。
7.暗褐色土（10YR3/3）焼土を30%含む。
8.黒褐色土（10YR2/3）粘質土。炭粒を微量含む。
9.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色粘土、軽石、小石等を含む。袖を構築。
10.褐灰色土（10YR5/1）灰層。
11.黒褐色土（10YR2/2）焼土を30%混入。
12.黒褐色土（10YR2/2）焼土を40%、灰を20%混入。
13.黒褐色土（10YR2/3）灰を70%混入。
14.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色粘土を少量含む。袖を構築。
15.暗褐色土（10YR3/3）粘質土。少量の炭粒子、焼土粒子を混入。住居覆土。

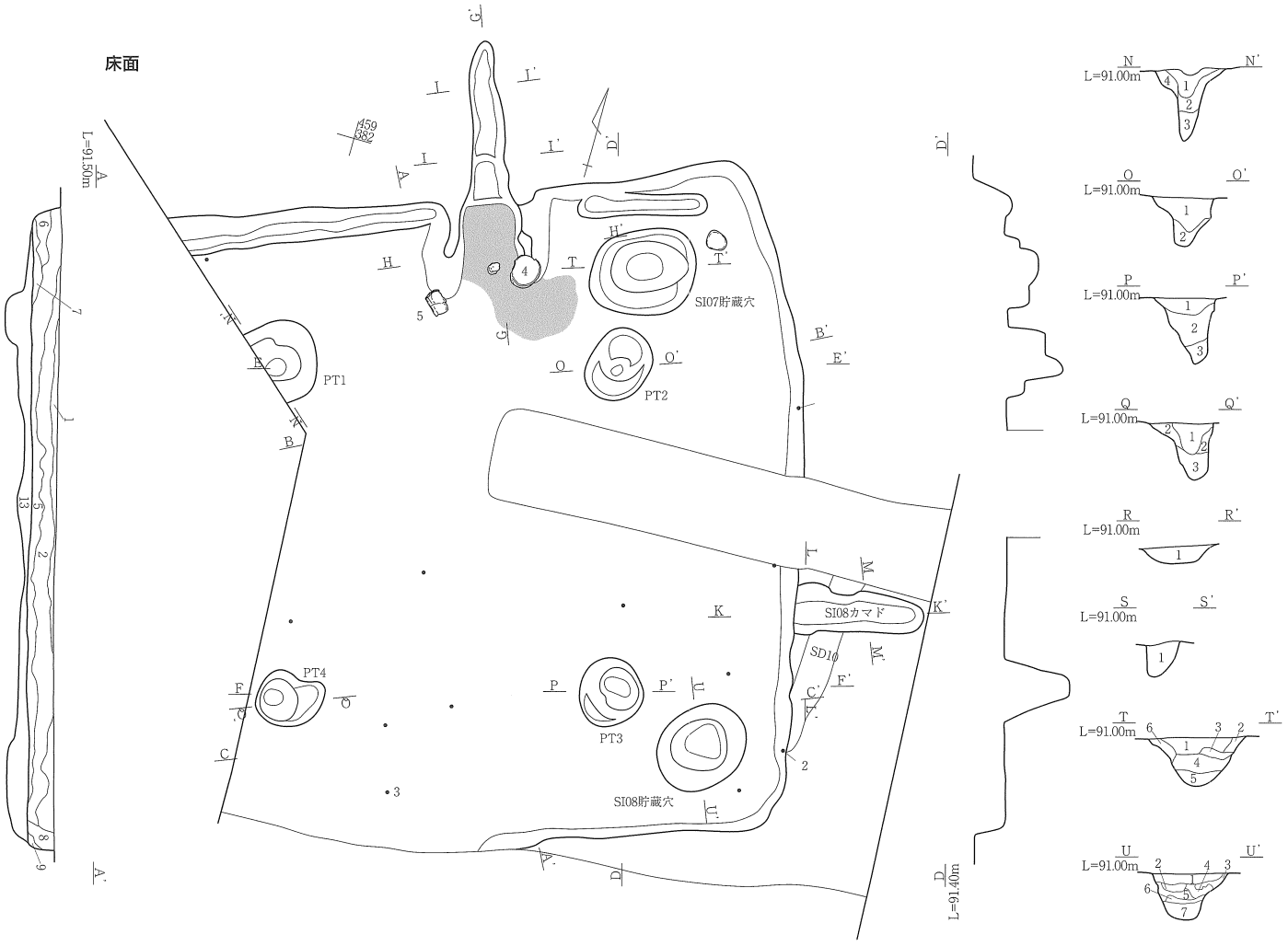
第8図　SI05

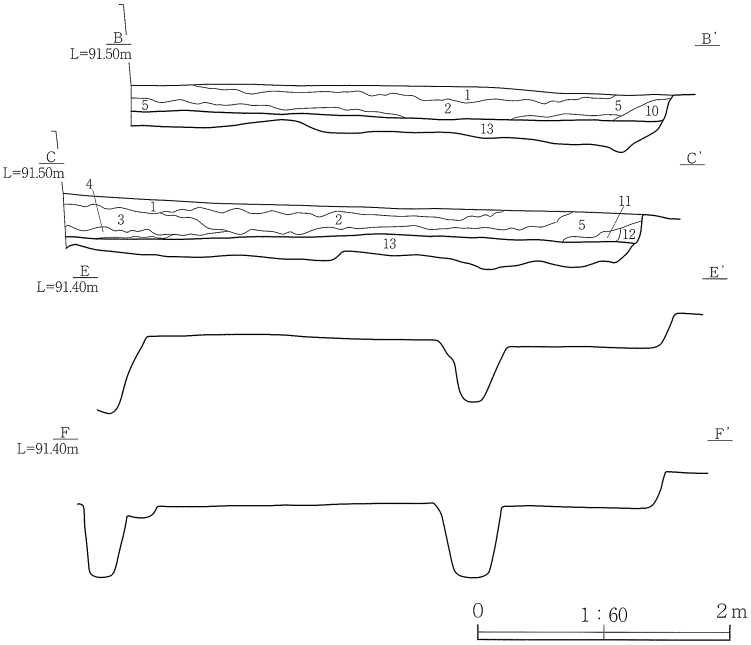




SI06
1.黒褐色土（10YR２／２）φ２～４mmの軽石を全体に含む。炭粒子を微量混入。
2.黒褐色土（10YR２／２）φ２～10mmの軽石、橙色粒子、炭粒子を微量含む。
3.黒褐色土（10YR２／２）φ２～10mmの軽石、橙色粒子、炭粒子を微量含む。黄褐色土混入。
4.黒褐色土（10YR２／２）φ２～10mmの軽石、炭粒子を微量、橙色粒子、黄褐色土を少量含む。
5.暗褐色土（7.5YR３／４）φ２～５mmの軽石、黄褐色土を混入。竈より流出。
6.黒褐色土（10YR２／２）φ２～４mmの軽石、橙色粒子を混入。
7.黒褐色土（10YR２／２）φ２～４mmの軽石、橙色粒子、焼土を混入。
8.黒褐色土（10YR２／２）黄褐色土ブロックを40％含む。掘り方。
SI06　竈
1.黒褐色土（10ＹＲ２／２）φ２～４㎜の軽石を混入。微量の炭粒を含む。
2.黒褐色土（10ＹＲ３／２）φ２㎜の軽石、橙色粒子を含む。
3.暗褐色土（10ＹＲ３／３）φ２㎜の軽石、橙色粒子を含む。
4.暗褐色土（10ＹＲ３／３）φ２㎜の軽石を少量含む。
5.暗褐色土（10ＹＲ３／４）焼土粒子、炭粒子を微量含む。
6.暗褐色土（7.5ＹＲ３／４）焼土粒子、炭粒子を微量含む。
7.暗褐色土（10ＹＲ３／３）焼土ブロックを80％、炭粒、軽石を微量含む。下面は灰層。
8.暗褐色土（7.5ＹＲ３／４）焼土ブロックを80％含む。
9.暗褐色土（7.5ＹＲ３／４）焼土ブロックを60％含む。
10.黒褐色土（10ＹＲ２／３）焼土ブロックを20％含む。
11.暗褐色土（10ＹＲ３／３）焼土粒子、黄褐色土を混入。
12.灰黄褐色土（10ＹＲ４／２）シルト質。
13.灰黄褐色土（10ＹＲ４／２）シルト質。
14.黒褐色土（10ＹＲ３／２）φ２～３㎜の軽石、橙色粒子を含む。
15.黒褐色土（10ＹＲ３／２）黄褐色粒子を少量含む。
16.灰黄褐色土（10ＹＲ４／２）シルト質。
17.黒褐色土（10ＹＲ３／２）φ２～４㎜の軽石を少量含む。
18.黒褐色土（10ＹＲ２／３）φ２～４㎜の軽石を少量含む。
19.黒褐色土（10ＹＲ３／２）黄褐色土ブロックを少量含む。
20.黒褐色土（10ＹＲ３／２）。袖を構築。
21.黒褐色土（10ＹＲ２／２）灰を30％、焼土粒子、炭粒子を少量含む。掘り方。
SI06　貯蔵穴
1.暗褐色土（10ＹＲ２／２）黄褐色土ブロック、焼土ブロックを少量、φ２㎜の軽石を微量含む。
2.黒褐色土（10ＹＲ２／２）黄褐色土ブロックを10％、φ２～３㎜の軽石を微量含む。
SI06 PT1
1.暗褐色土（10YR３／４）粘質土。焼土混入。
SI06 PT2
1.黒褐色土（10YR２／２）黄褐色土ブロックを20％、小石を少量含む。
SI06 PT3
1.黒褐色土（10YR２／２）黄褐色土ブロックを50％含む。
SI06 PT4
1.黒褐色土（10YR２／２）黄褐色土ブロックを20％含む。

第９図　SI06





SI07
1.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石、黄褐色土、小礫を少量含む。
2.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土を多量含む。橙色粒子、φ２㎜の軽石を混入。
3.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石、黄褐色土、小礫を含む。
4.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土ブロックを少量含む。
5.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土粒子、橙色粒子、φ２㎜の軽石を混入。
6.黒褐色土（10YR2/3）橙色粒子、φ２㎜の軽石含む。
7.にぶい黄褐色土（10YR4/3）黄褐色土を混入。竈から流出。
8.黒褐色土（10YR2/2）φ２㎜の軽石を含む。
9.黒褐色土（10YR2/2）橙色粒子、φ２㎜の軽石を混入。
10.暗褐色土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、φ２㎜の軽石を多量含む。
11.暗褐色土（10YR3/3）橙色粒子、炭粒を微量含む。
12.暗褐色土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、橙色粒子を含む。
13.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを40％含む。掘り方。
SI07 PT 1
1.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロック３％含む。
2.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロック10％含む。
3.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロック40％含む。
4.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロック30％含む。
SI07 PT 2
1.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロック５％含む。
2.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロック50％含む。
SI07 PT 3
1.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石、黄褐色土ブロックを少量含む。
2.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロック70％含む。
3.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土を混入。
SI07 PT 4
1.にぶい黄褐色土（10YR4/3）。
2.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土ブロックを中量含む。
3.にぶい黄褐色土（10YR4/3）黄褐色土ブロックを微量含む。
SI07 PT 5
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを少量、φ２～４㎜の軽石を微量含む。
SI07 PT 6
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを多量、小石を微量含む。
SI07 貯蔵穴
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを少量、５～10㎝の川原石を含む。
2.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを少量含む。
3.黒褐色土（10YR2/2）焼土ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。
4.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色ブロック３％、炭粒を微量含む。
5.暗褐色土（10YR3/3）黄褐色土を混入。
6.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを少量含む。
SI08 貯蔵穴
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２～５㎜の軽石、焼土粒子、黄褐色土を混入。
2.にぶい黄褐色土（10YR4/3）。
3.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土を全体に混入。
4.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土を60％、炭粒を少量混入。
5.暗褐色土（10YR3/3）黄褐色土を10％混入。
6.黒褐色土（10YR3/2）。
7.黒褐色土（10YR3/2）黄褐色土ブロックを全体に含む。

第10図　SI07・08（１）

掘り方

SI07カマド

SI07掘り方

SI07 貯蔵穴

SI08掘り方

SI07 PT1

SI07 PT2

SI08カマド

SI07 PT5

SI07 PT3

SI07 PT4

SI07 PT6

SI08 貯蔵穴

0　1：60　2m

SI07 竈

1.暗褐色土（10YR３／３）φ２～４㎜の軽石、焼土粒子、炭粒子を微量含む。
2.暗褐色土（10YR３／３）φ２～10㎜の軽石、橙色粒子を混入。
3.暗褐色土（10YR３／３）φ２～４㎜の軽石、黄褐色粘質土を混入。焼土を５％含む。
4.暗褐色土（10YR３／４）黄褐色粘質土を少量、焼土ブロックを10％含む。
5.赤褐色土（５YR４／６）焼土を80％、灰を10％、暗褐色土を少量含む。
6.褐灰色土（10YR５／１）灰を80％、暗褐色土を少量含む。
7.黒褐色土（10YR２／３）φ２～４㎜の軽石、焼土粒子を混入。
8.黒褐色土（10YR２／３）φ２～４㎜の軽石、微量の焼土粒子を含む。
9.灰黄褐色土（10YR４／２）粘質土。焼土粒子、炭粒子、黄褐色土を混入。袖を構築。
10.黒褐色土（10YR２／２）粘質土。焼土粒子、炭粒子、灰を混入。竈掘り方。
11.黒褐色土（10YR２／２）粘質土。黄褐色土ブロックを少量含む。
12.黒褐色土（10YR２／２）粘質土。黄褐色土ブロックを40％含む。住居掘り方。

SI08　竈
1.黒褐色土（10ＹＲ２／３）φ２～４㎜の軽石、焼土ブロックを５％混入。
2.黒褐色土（10ＹＲ２／３）φ２～４㎜の軽石、焼土ブロック、灰を混入。
3.赤褐色土（10ＹＲ４／８）焼土ブロック。
4.黒褐色土（10ＹＲ２／３）焼土ブロックを30％混入。
5.赤褐色土（10ＹＲ４／８）焼土層。
6.灰黄褐色土（10ＹＲ４／２）灰層。焼土を５％混入。
7.暗褐色土（10ＹＲ３／３）灰、炭粒子、焼土ブロックを混入。
8.黒褐色土（10ＹＲ２／２）灰、焼土粒子、黄褐色土を混入。
9.にぶい黄褐色土（10ＹＲ４／３）。

SI08 竈

SD10

SI07

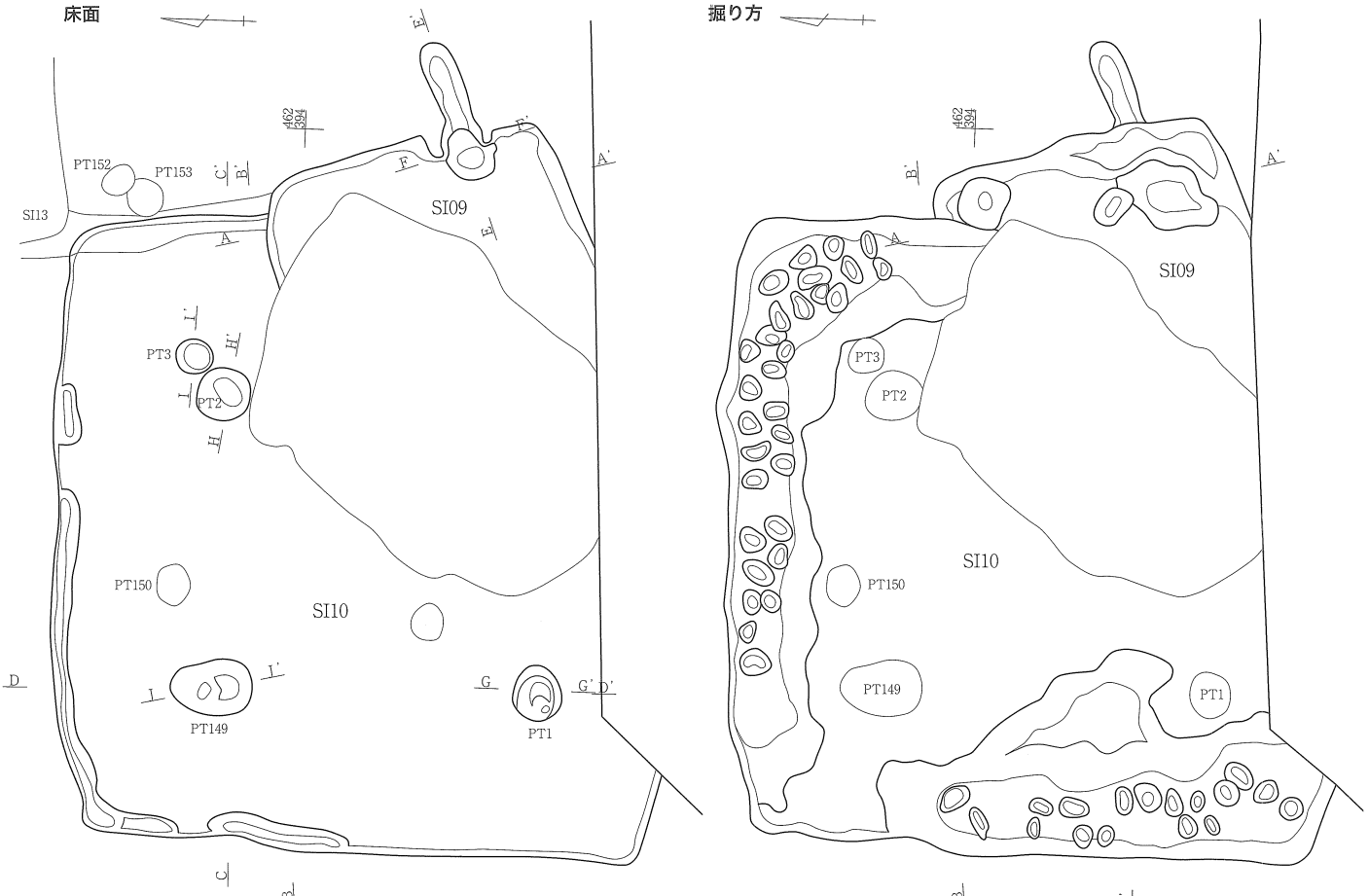
SI07-5

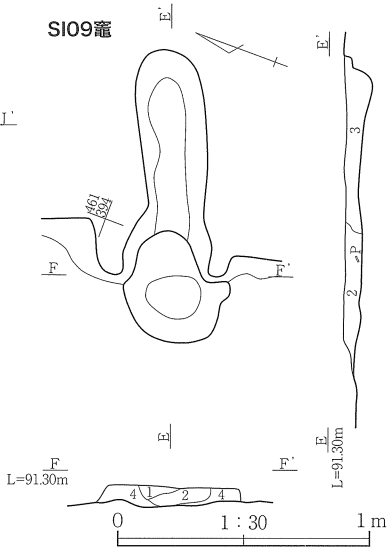
SI07-12

H L=91.30m　I L=91.30m　G L=91.30m　L L=91.30m　M L=91.30m　K L=91.30m

0　1：30　1m

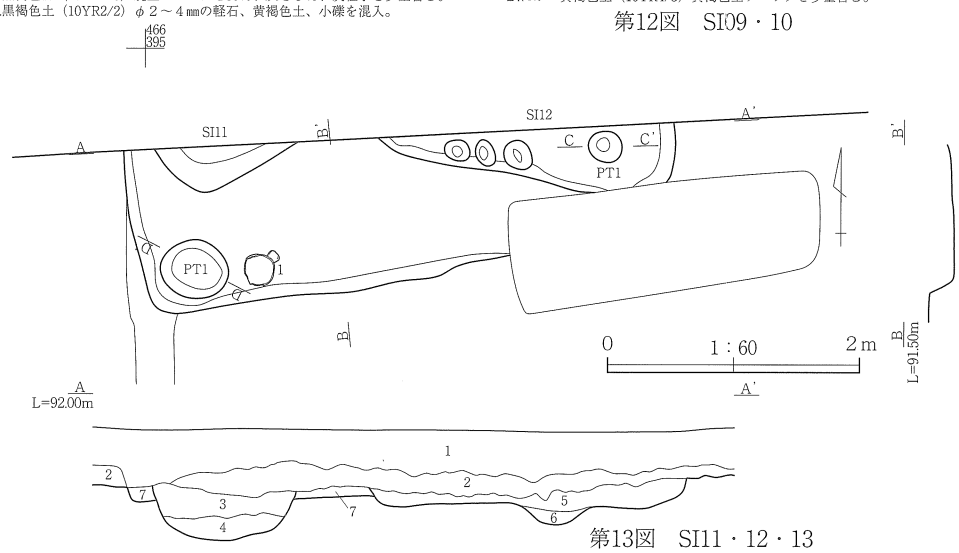
第11図　SI07・08（２）





SI09
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２～５㎜の軽石、黄褐色土ブロック、褐灰色粘土を混入。
2.黒褐色土（10YR2/2）焼土ブロックを30%混入。竈から流出。
3.黒褐色土（10YR2/2）φ２～５㎜の軽石、黄褐色土ブロックを含む。SI10掘り方。
SI10
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを30%混入。５～10㎝の川原石を含む。掘り方。
SI09 竈
1.黒褐色土（10YR2/3）φ２～４㎜の軽石、橙色粒子を含む。
2.黒褐色土（10YR2/3）焼土ブロックを30%、灰を５%、炭粒子を少量含む。
3.黒褐色土（10YR2/2）φ２～４㎜の軽石、黄褐色土、小礫を混入。
4.黒褐色土（10YR3/2）灰黄褐色粘質土、黄褐色土を混入。袖を構築。
SI10 PT 1
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２～４㎜の軽石、黄褐色土ブロックを少量含む。
SI10 PT 2
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２～４㎜の軽石、黄褐色土ブロックを少量含む。
SI10 PT 3
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを少量含む。
PT149
1.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土ブロック、小礫を含む。
2.にぶい黄褐色土（10YR4/3）黄褐色土ブロックを多量含む。

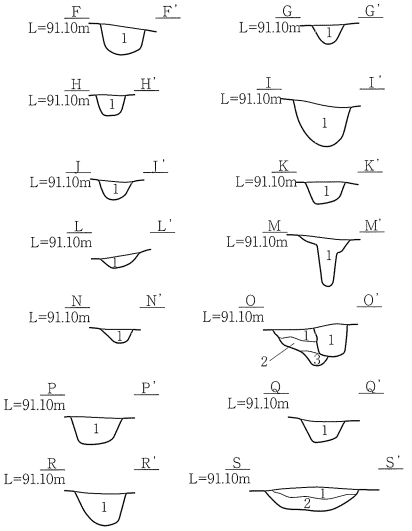
第12図　SI09・10



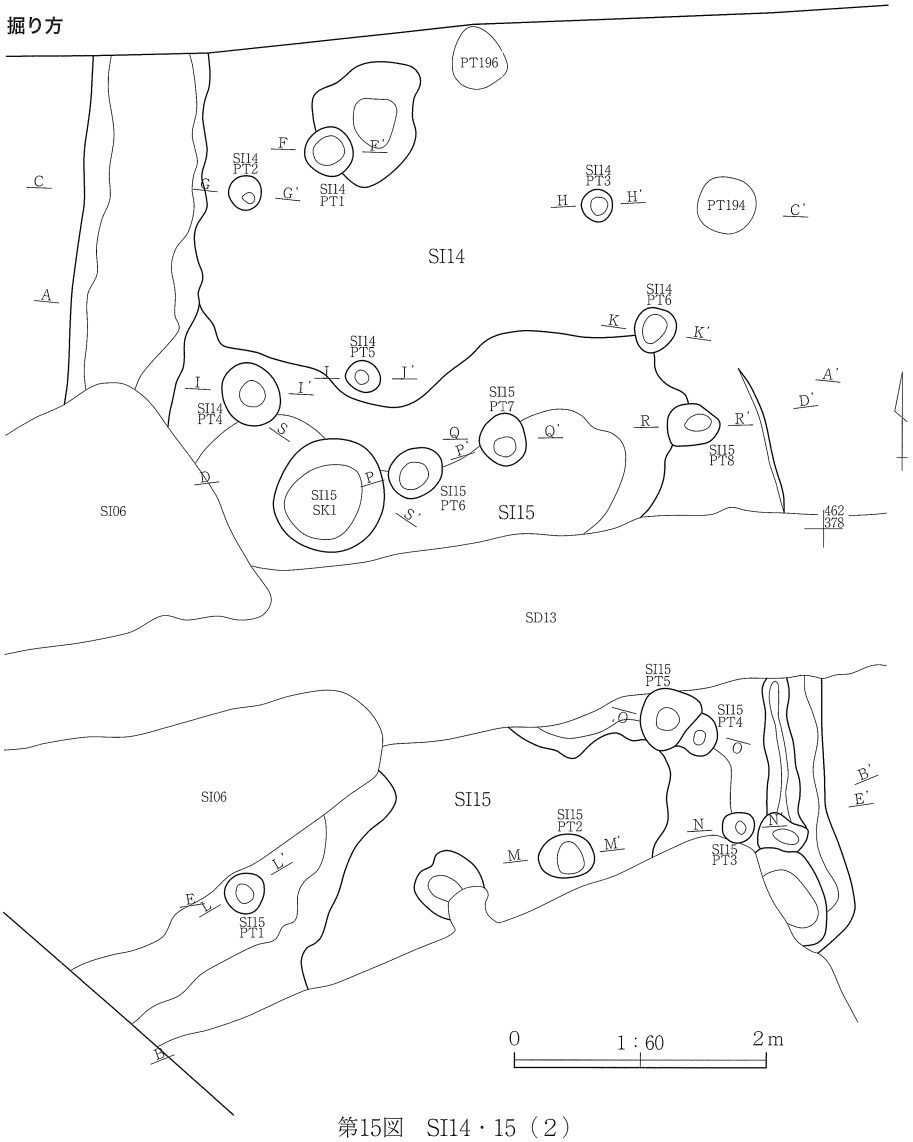
SI11・12・13
1.黒褐色土（10YR3/2）黄褐色粘質土、砂利を混入。表土。
2.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色粘質土、砂利、褐色粘質土を混入。
3.黒褐色土（10YR2/2）φ２～10㎜の軽石を全体に含む。SI11。
4.黒褐色土（10YR2/3）φ２～10㎜の軽石を全体に含む。黄褐色粗粒砂を混入。SI11。
5.暗褐色土（10YR3/3）φ２～10㎜の軽石を全体に含む。炭粒子を少量混入。SI12。
6.にぶい黄褐色土（10YR4/3）φ２～10㎜の軽石を含む。黄褐色粗粒砂を混入。SI12。
7.黒褐色土（10YR2/2）φ２～10㎜の軽石を全体に含む。黄褐色土ブロックを少量混入。SI13。
SI12PT1
1.黒褐色土（10YR2/2）焼土ブロックを５%混入。
SI13　PT 1
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色粗粒砂、黄褐色土ブロックを混入。

第13図　SI11・12・13

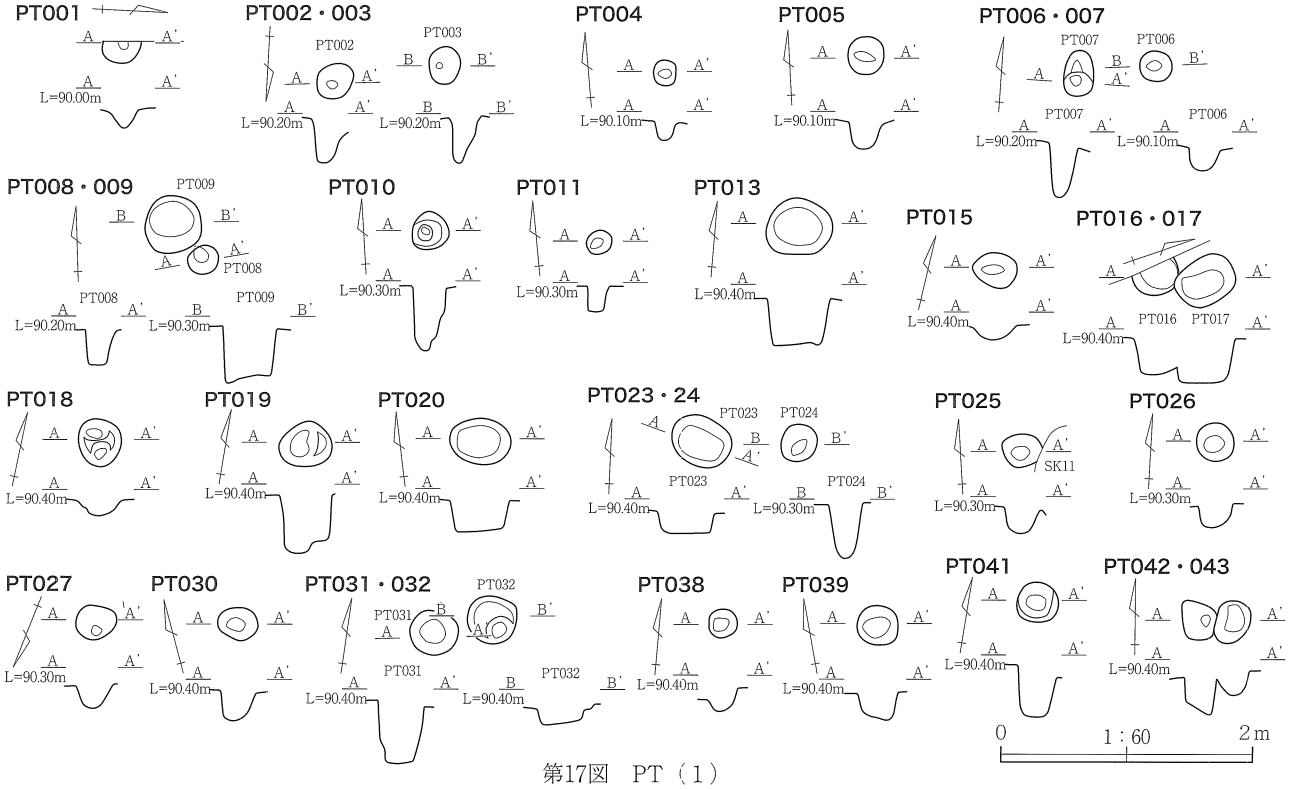
SI14・15
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２～４㎜の軽石を少量含む。SI14。
2.黒褐色土（10YR2/2）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロックを10％含む。SI14掘り方。
3.黒褐色土（10YR2/2）φ２～４㎜の軽石、黄褐色土ブロックを少量含む。SI15。
SI15
1.黒褐色土（10YR2/2）φ１～２㎜の軽石、黄褐色土ブロックを少量含む。締まり良好。
SI14 PT 1
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２㎜の軽石を少量、黄褐色粗粒砂を混入。
SI14 PT 2
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色粗粒砂を多量混入。
SI14 PT 3
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２㎜の軽石少量、黄褐色粗粒砂を混入。
SI14 PT 4
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２㎜の軽石少量、黄褐色粗粒砂を混入。
SI14 PT 5
1.黒褐色土（10YR2/2）黒褐色土、黄褐色粗粒砂を混入。
SI14 PT 6
1.黒褐色土（10YR2/2）黒褐色土、黄褐色粗粒砂を混入。
SI15 PT1
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色粗粒砂を混入。
SI15 PT 2
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色粗粒砂を混入。
SI15 PT 3
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを30％含む。
SI15 PT 4
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを５％含む。
SI15 PT 5
1.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを10％含む。
2.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色土ブロックを微量含む。
3.黒褐色土（10YR2/2）黄褐色粗粒砂を混入。
SI15 PT 6
1.黒褐色土（10YR2/2）黒褐色土、黄褐色粗粒砂を混入。
SI15 PT 7
1.黒褐色土（10YR2/2）黒褐色土、黄褐色粗粒砂を混入。
SI15 PT 8
1.黒褐色土（10YR2/2）黒褐色土、黄褐色粗粒砂を混入。
SI15 SK 1
1.黒褐色土（10YR2/2）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色粗粒砂を混入。
2.黒褐色土（10YR2/2）φ２～４㎜の軽石を少量、黄褐色粗粒砂を40％含む。



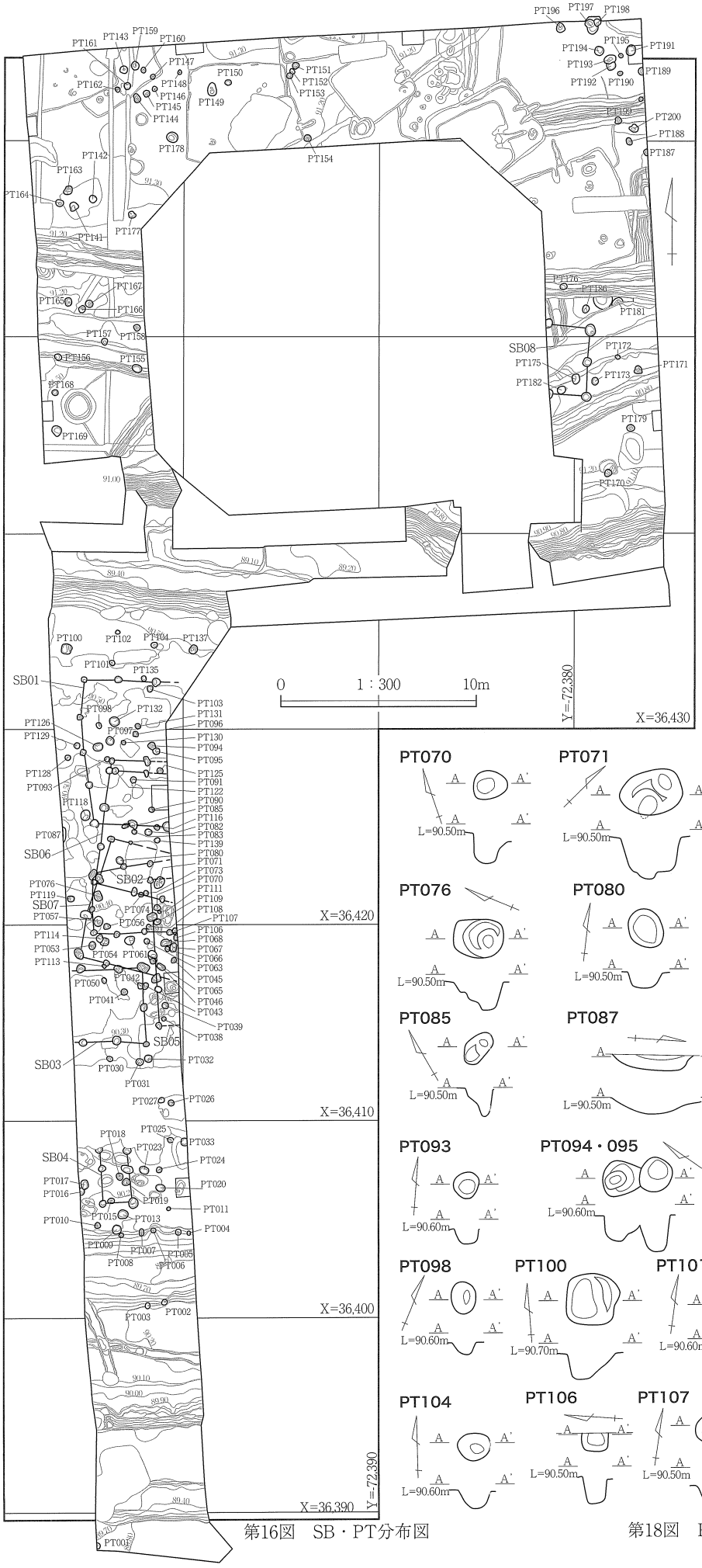
第14図　SI14・15（1）



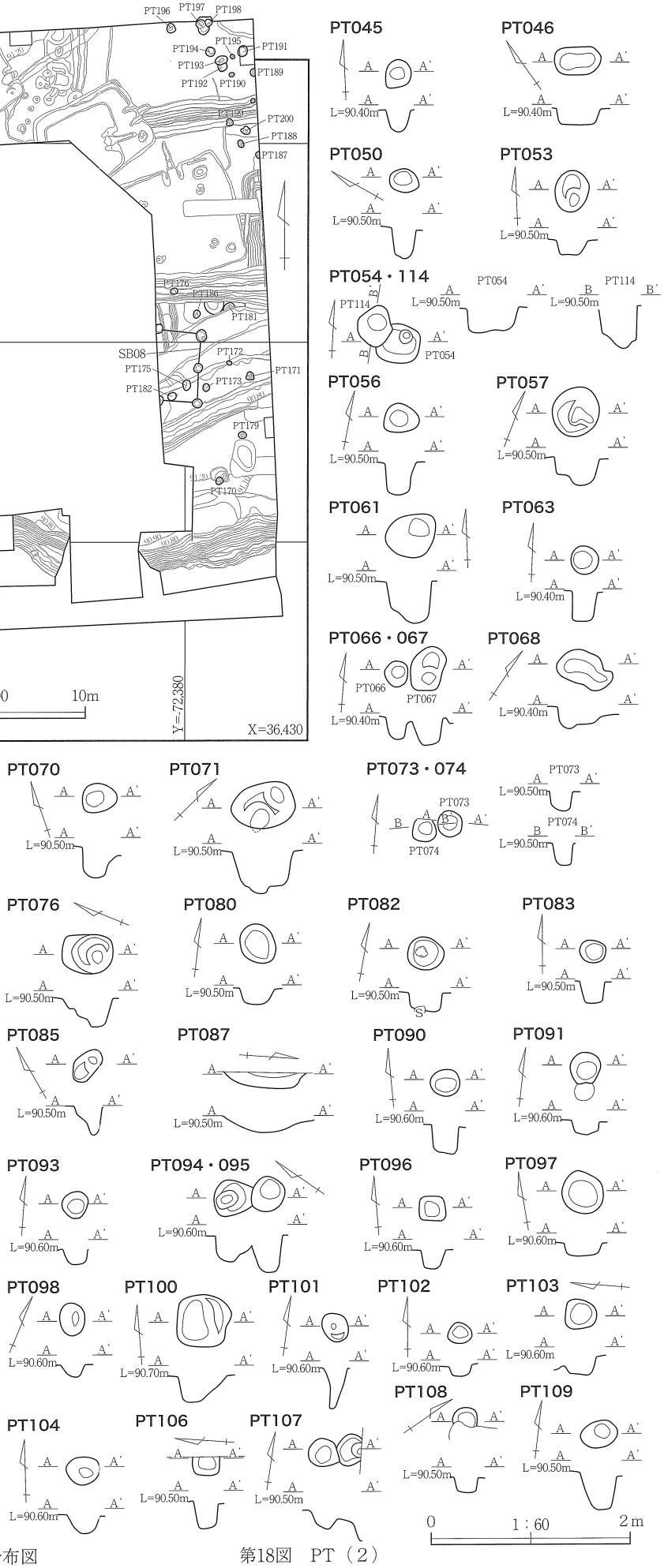
第15図　SI14・15（2）



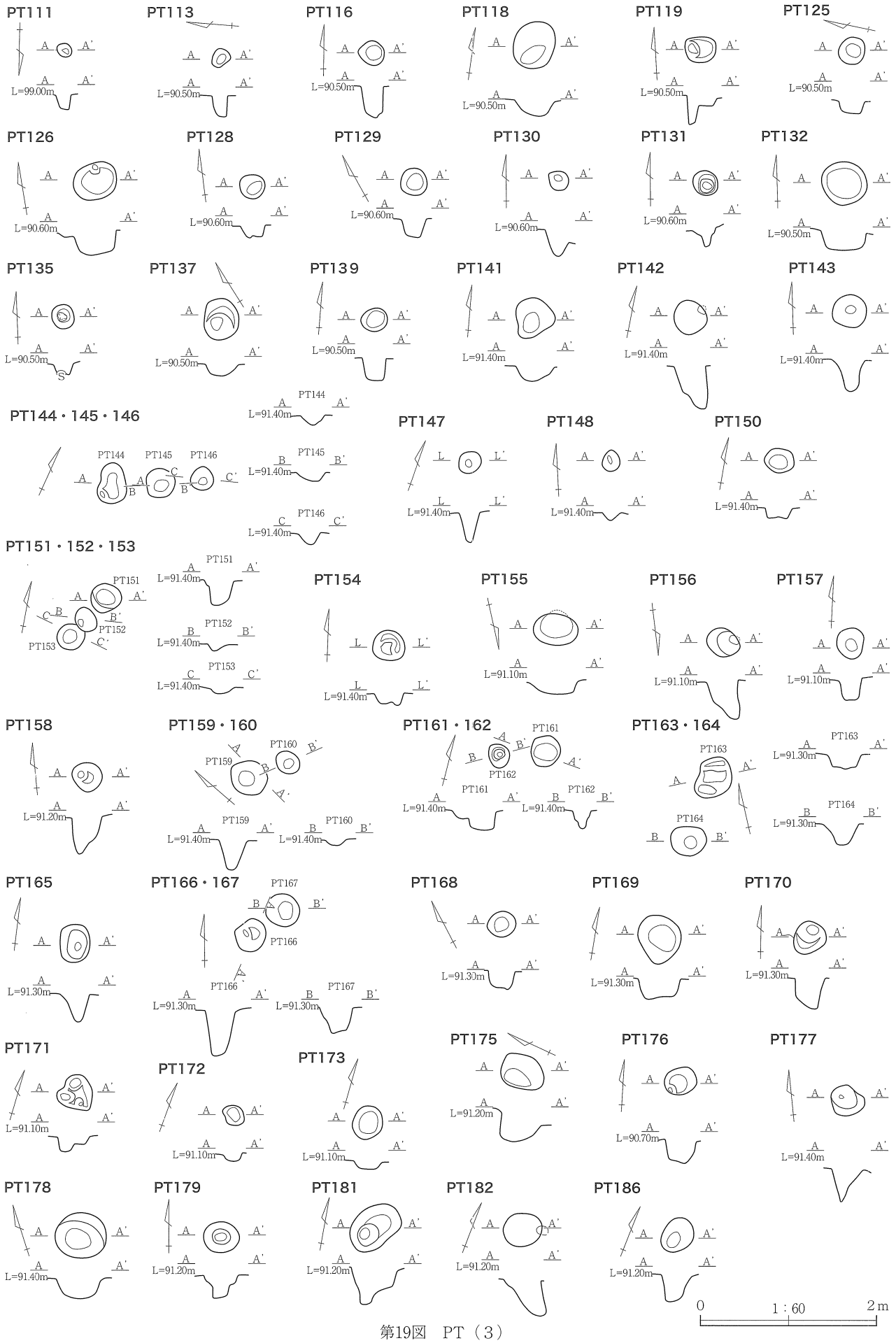
第17図　PT（1）



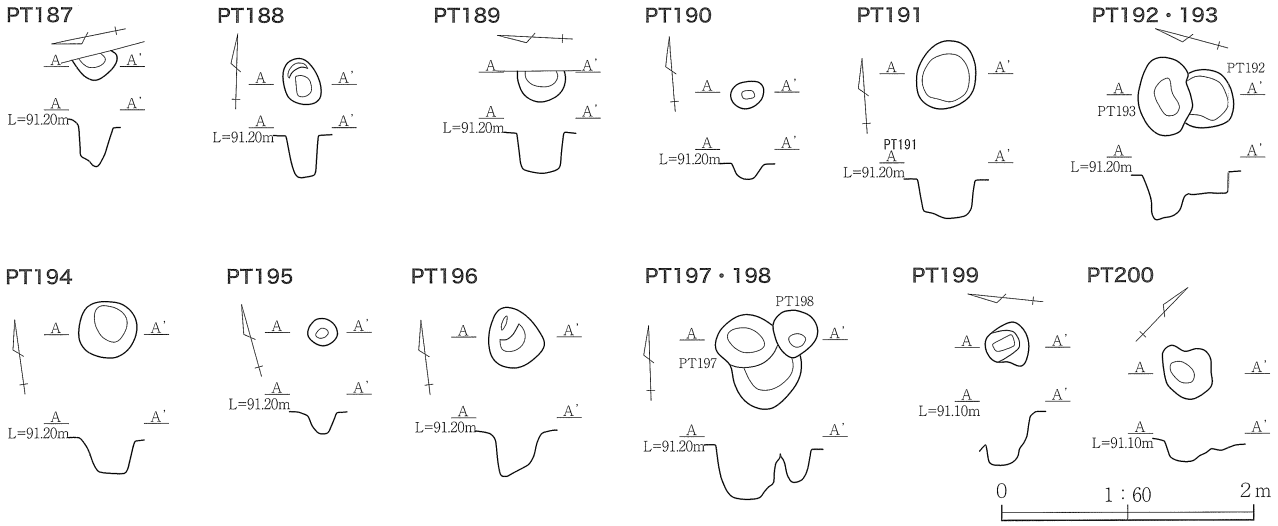
第16図　SB・PT分布図



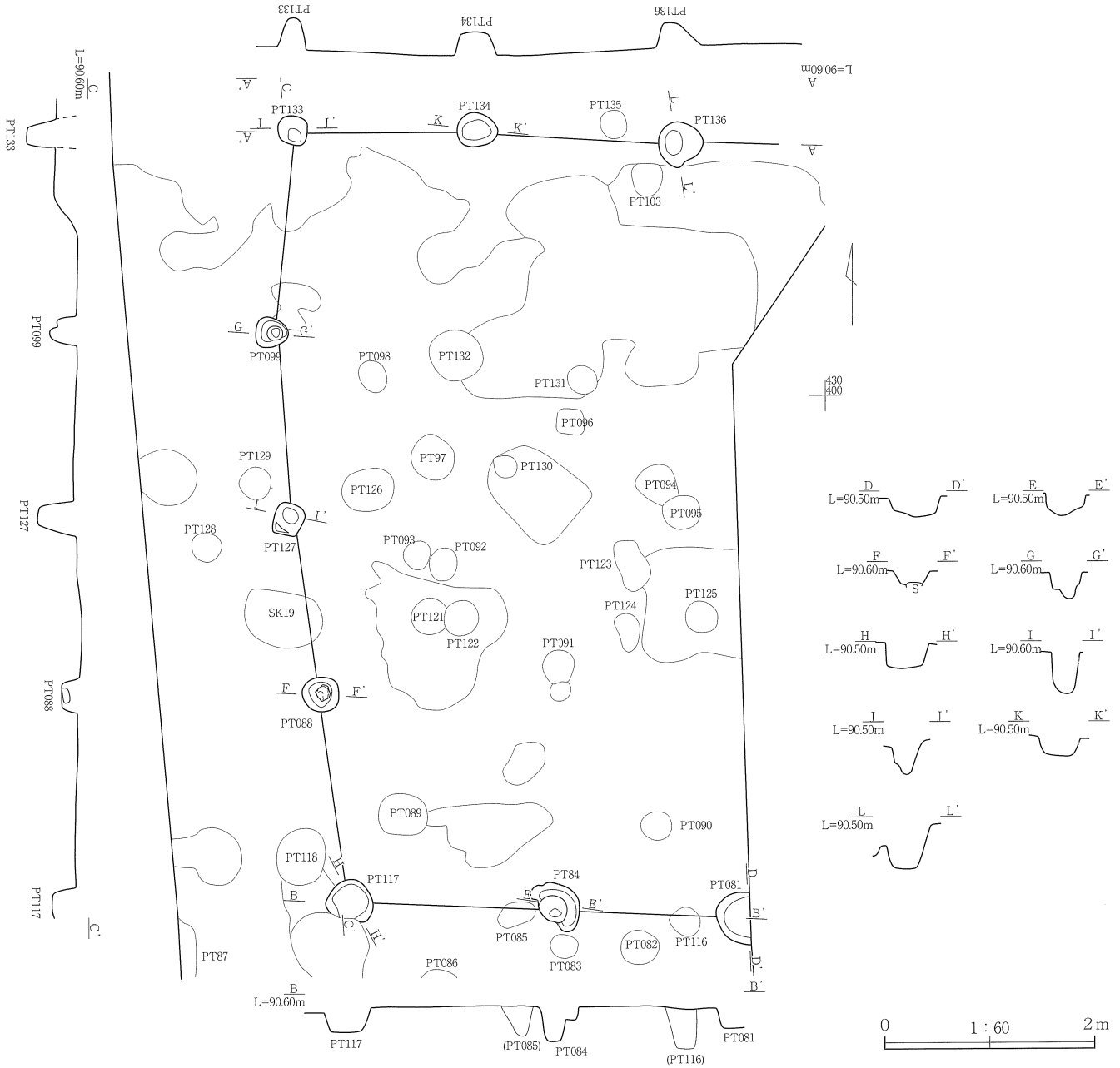
第18図　PT（2）


PT111
L=99.00m
PT113
L=90.50m
PT116
L=90.50m
PT118
L=90.50m
PT119
L=90.50m
PT125
L=90.50m
PT126
L=90.60m
PT128
L=90.60m
PT129
L=90.60m
PT130
L=90.60m
PT131
L=90.60m
PT132
L=90.50m
PT135
L=90.50m
PT137
L=90.50m
PT139
L=90.50m
PT141
L=91.40m
PT142
L=91.40m
PT143
L=91.40m
PT144・145・146
PT144
PT145
PT146
L=91.40m
PT147
L=91.40m
PT148
L=91.40m
PT150
L=91.40m
PT151・152・153
PT151
PT152
PT153
L=91.40m
PT154
L=91.40m
PT155
L=91.10m
PT156
L=91.10m
PT157
L=91.10m
PT158
L=91.20m
PT159・160
PT159
PT160
L=91.40m
PT161・162
PT161
PT162
L=91.40m
PT163・164
PT163
PT164
L=91.30m
PT165
L=91.30m
PT166・167
PT166
PT167
L=91.30m
PT168
L=91.30m
PT169
L=91.30m
PT170
L=91.30m
PT171
L=91.10m
PT172
L=91.10m
PT173
L=91.10m
PT175
L=91.20m
PT176
L=90.70m
PT177
L=91.40m
PT178
L=91.40m
PT179
L=91.20m
PT181
L=91.20m
PT182
L=91.20m
PT186
L=91.20m
0
1：60
2m

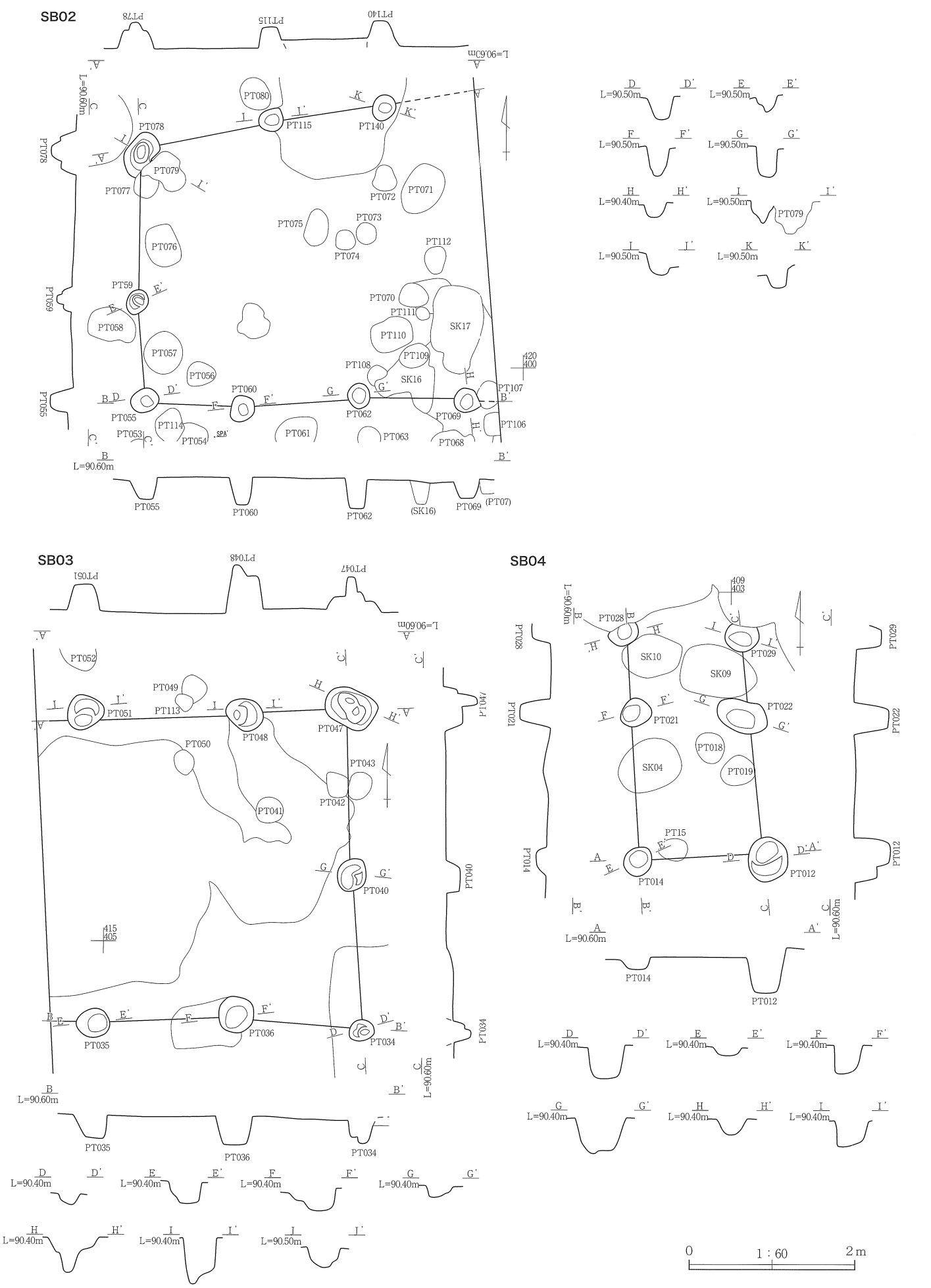
第19図　PT（3）



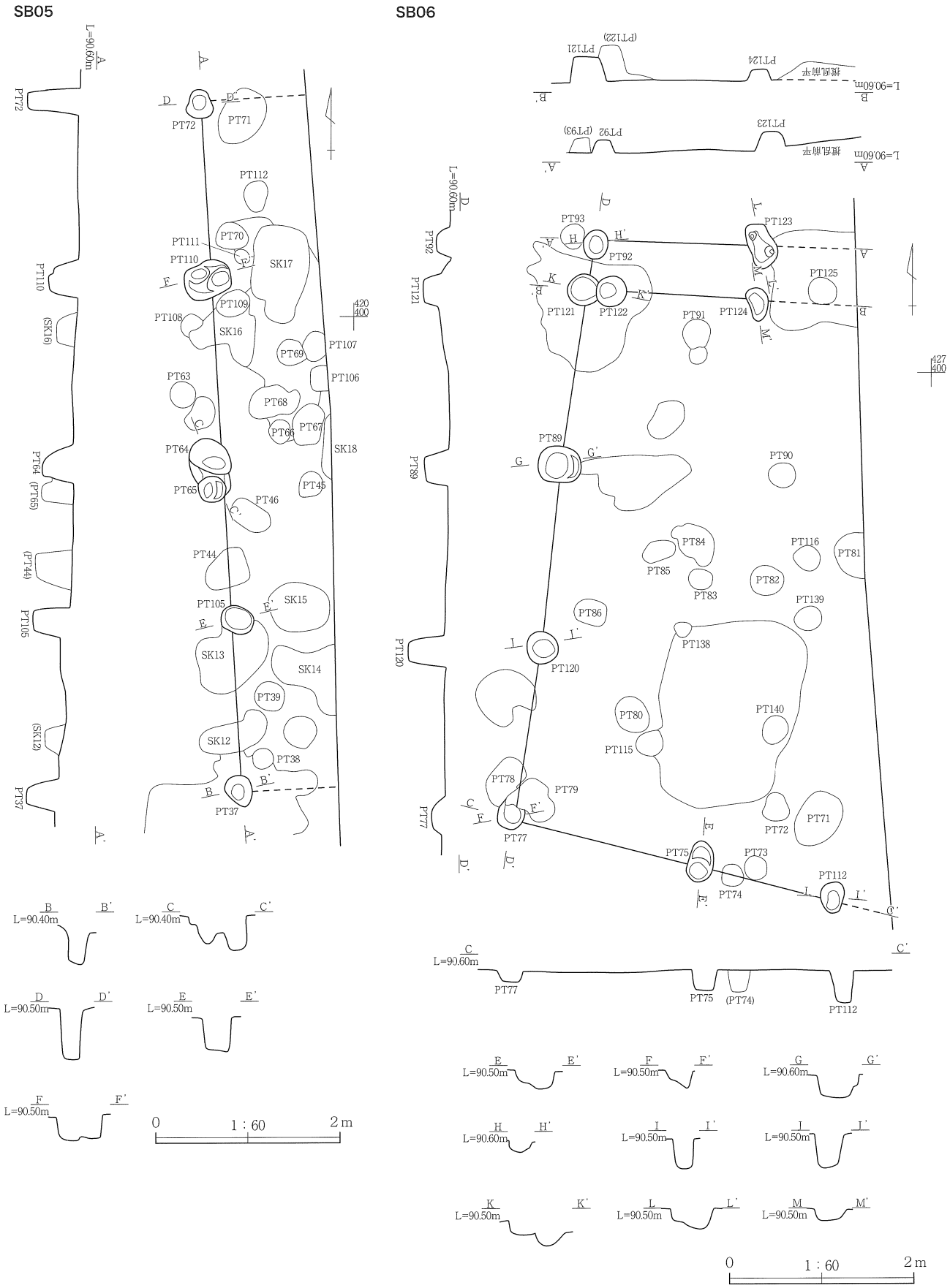
第20図　PT（4）



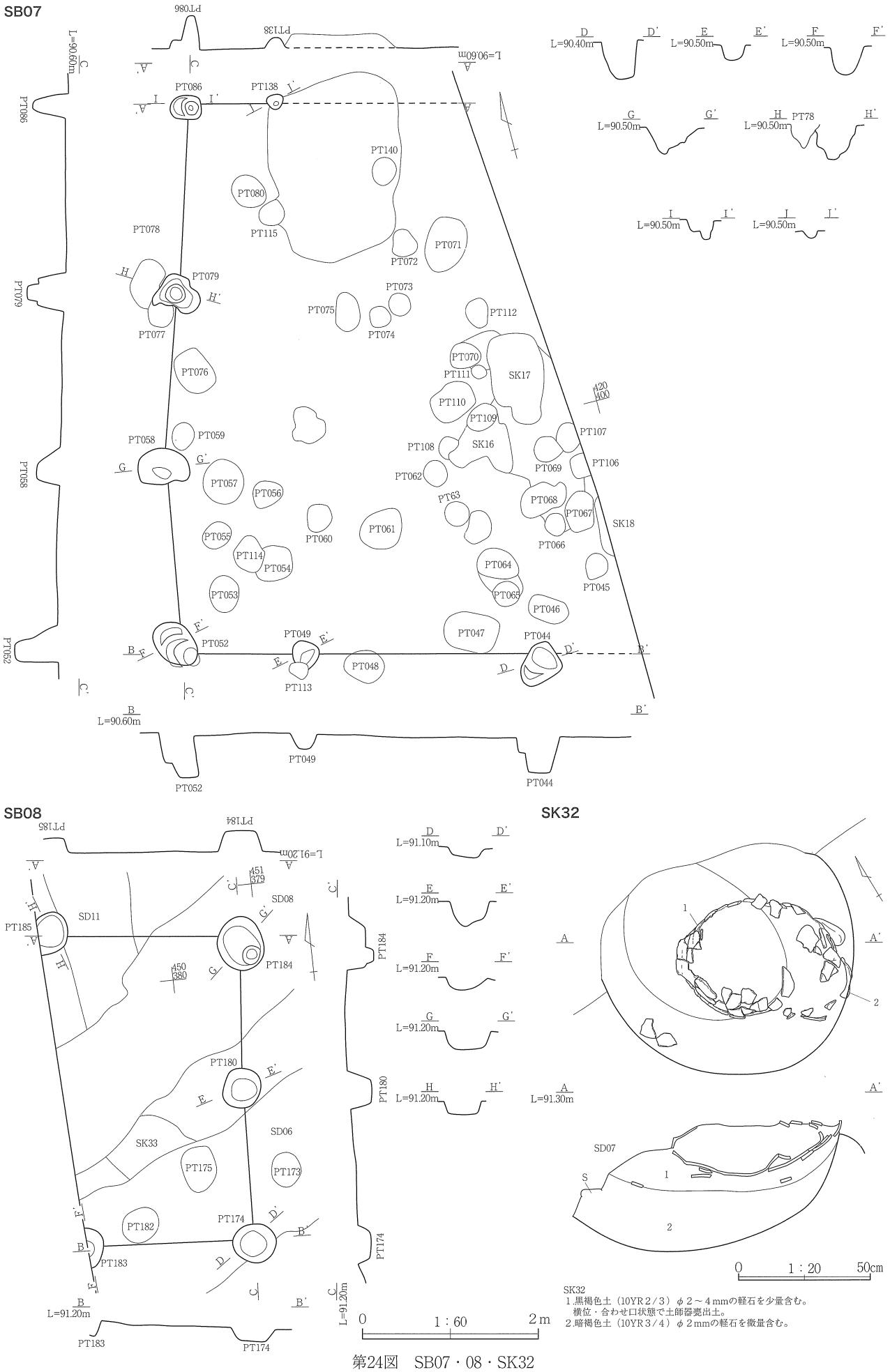
第21図　SB01



第22図　SB02・03・04

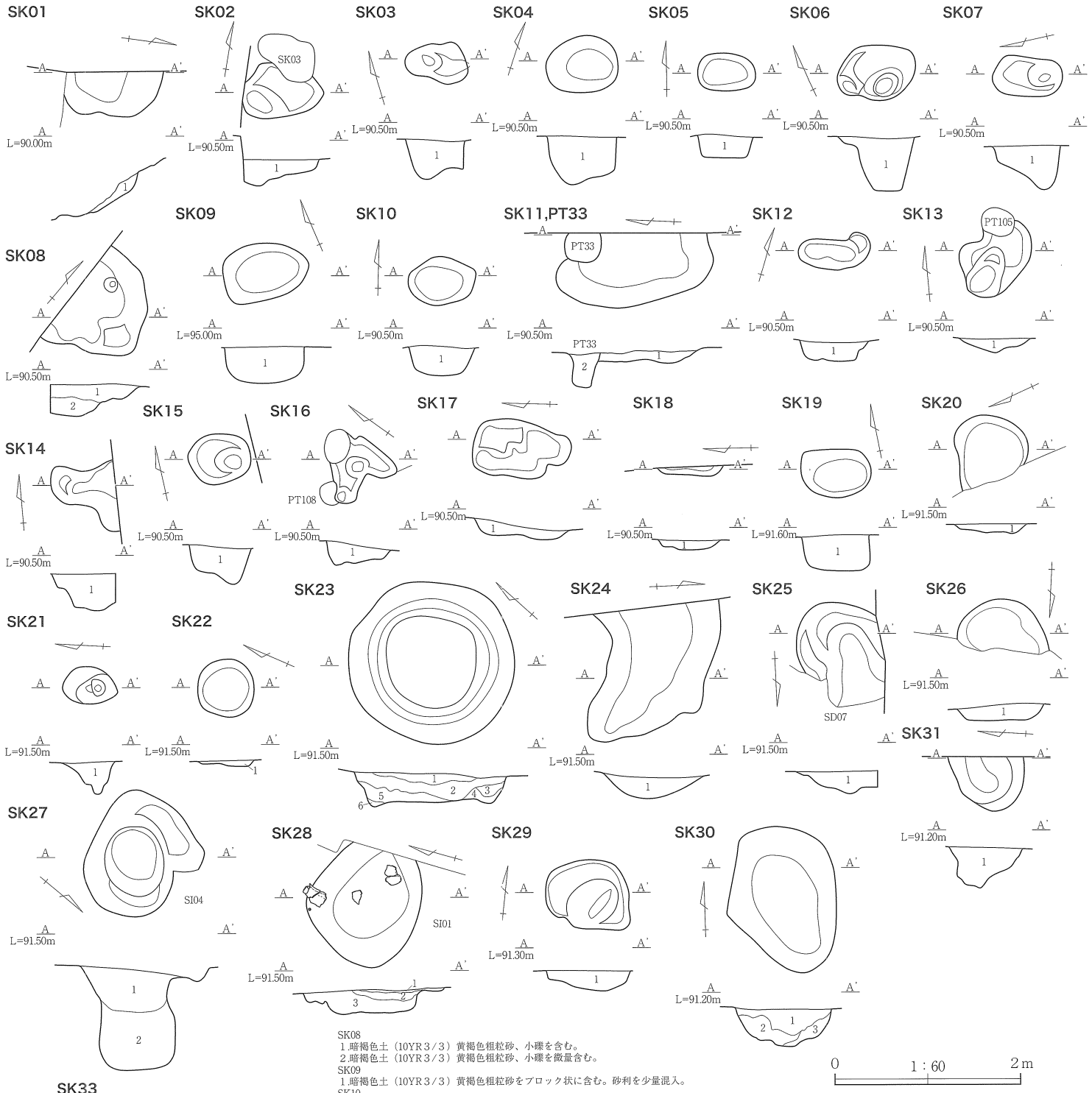

SB05
SB06
L=90.60m
PT72
PT71
PT112
PT111
PT70
PT110
SK17
PT109
PT108
SK16
PT69
PT107
PT106
PT63
PT68
PT67
PT66
SK18
PT64
PT65
PT46
PT45
PT44
PT105
SK15
SK13
SK14
PT39
SK12
PT38
PT37
(SK16)
(PT65)
(PT44)
(SK12)
420
400
L=90.40m
L=90.50m
0
1 : 60
2 m
(PT122)
PT121
PT124
撹乱痕平
PT123
(PT93)
PT92
PT93
PT122
PT91
PT125
427
400
PT89
PT90
PT84
PT116
PT81
PT85
PT83
PT82
PT139
PT86
PT138
PT120
PT80
PT140
PT115
PT78
PT79
PT77
PT75
PT73
PT74
(PT74)
L=90.60m

第23図　SB05・06



SK32
1.黒褐色土（10YR２/３）φ２～４mmの軽石を少量含む。
横位・合わせ口状態で土師器甕出土。
2.暗褐色土（10YR３/４）φ２mmの軽石を微量含む。

第24図　SB07・08・SK32

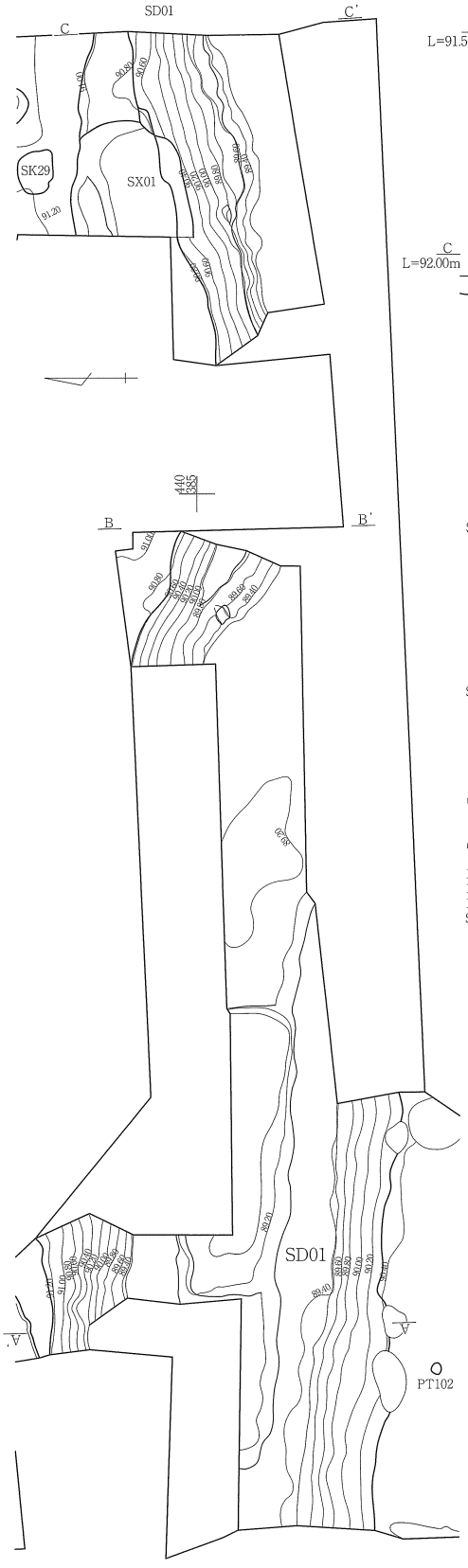


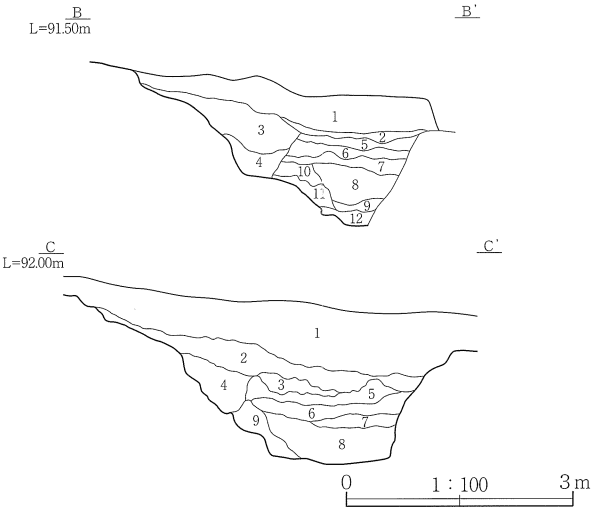
SK01
1.褐色土（10YR４/４）黄褐色粗粒砂を混入。
SK02
1.にぶい黄褐色土（10YR４/３）黄褐色粗粒砂を混入。
SK03
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂、炭粒を少量含む。
SK04
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂をブロック状に含む。
SK05
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂をブロック状に含む。
炭粒を少量混入。
SK06･SK07
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂ブロック、炭粒を含む。

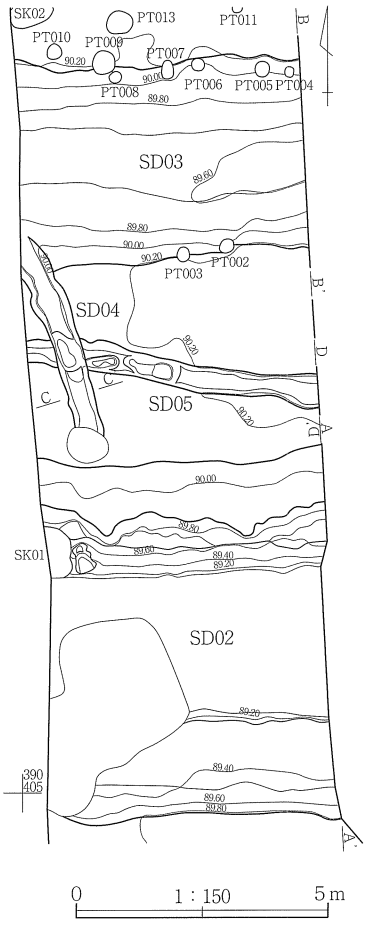
SK08
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂、小礫を含む。
2.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂、小礫を微量含む。
SK09
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂をブロック状に含む。砂利を少量混入。
SK10
1.暗褐色土（10YR３/３）小礫、砂利を少量含む。
SK11・PT033
1.黒褐色土（10YR３/２）黄褐色粘質土をブロック状に含む。炭粒を混入。
2.にぶい黄褐色土（10Y R４／３）黄褐色粗粒砂ブロックを含む。
SK12
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色土、炭粒を混入。
SK13
1.暗褐色土（10YR３/４）黄褐色土、砂利を混入。
SK14
1.にぶい黄褐色土（10YR４/３）黄褐色土を混入。
SK15･SK16
1.にぶい黄褐色土（10YR４/３）黄褐色粗粒砂、小礫、炭粒を混入。
SK17
1.にぶい黄褐色土（10YR４/３）黄褐色粗粒砂を少量混入。
SK18
1.にぶい黄褐色土（10YR４/３）黄褐色粗粒砂、小礫を少量含む。
SK19
1.にぶい黄褐色土（10YR４/３）黄褐色粗粒砂ブロックを多量含む。
SK20･SK21
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを少量含む。
SK22
1.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロックを多量含む。
SK23
1.黒褐色土（10YR２/２）10～15cm大の川原石を含む。
焼土粒、炭粒を微量混入。
2.黒褐色土（10YR２/２）φ２mmの軽石、橙色粒子を少量含む。
3.黒褐色土（10YR２/２）橙色粒子、炭粒を混入。
4.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを含む。
5.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土を少量含む。
6.黒褐色土（10YR２/２）。

SK24･SK25
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色粗粒砂、軽石、砂利を少量含む。
SK26
1.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロック、軽石を少量含む。
SK27
1.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂、５～30cm大の川原石を含む。
2.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを多量に混入。
５～60cm大の川原石を含む。
SK28
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土を混入。硬化。
2.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを多量含む。
3.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロック、川原石を含む。
SK29
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを混入。
SK30
1.黒褐色土（10YR２/２）φ２～５mmの軽石、橙色粒子を少量含む。
2.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを40%含む。
3.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを70%含む。
SK31
1.黒褐色土（10YR２/２）φ２～４mmの軽石、５～15cm大の礫を少量含む。
SK33
1.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土を80%含む。
2.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土を20%含む。
3.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土を50%含む。
4.黒褐色土（10YR２/３）φ２～４mmの軽石を少量含む。

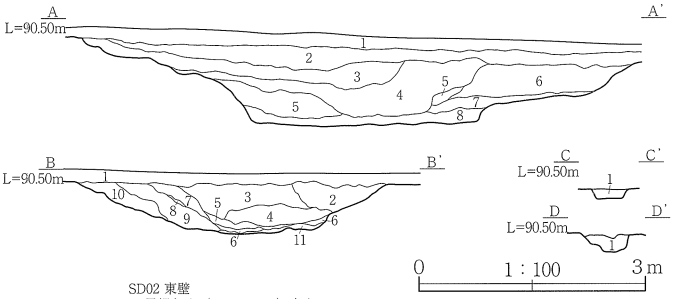
第25図　SK



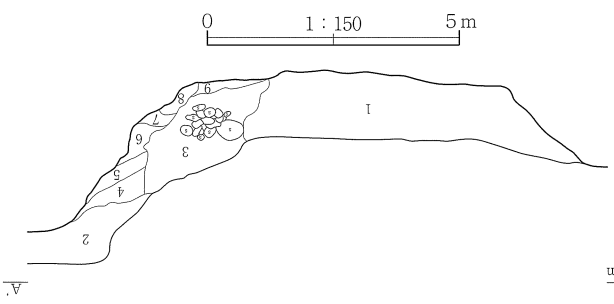




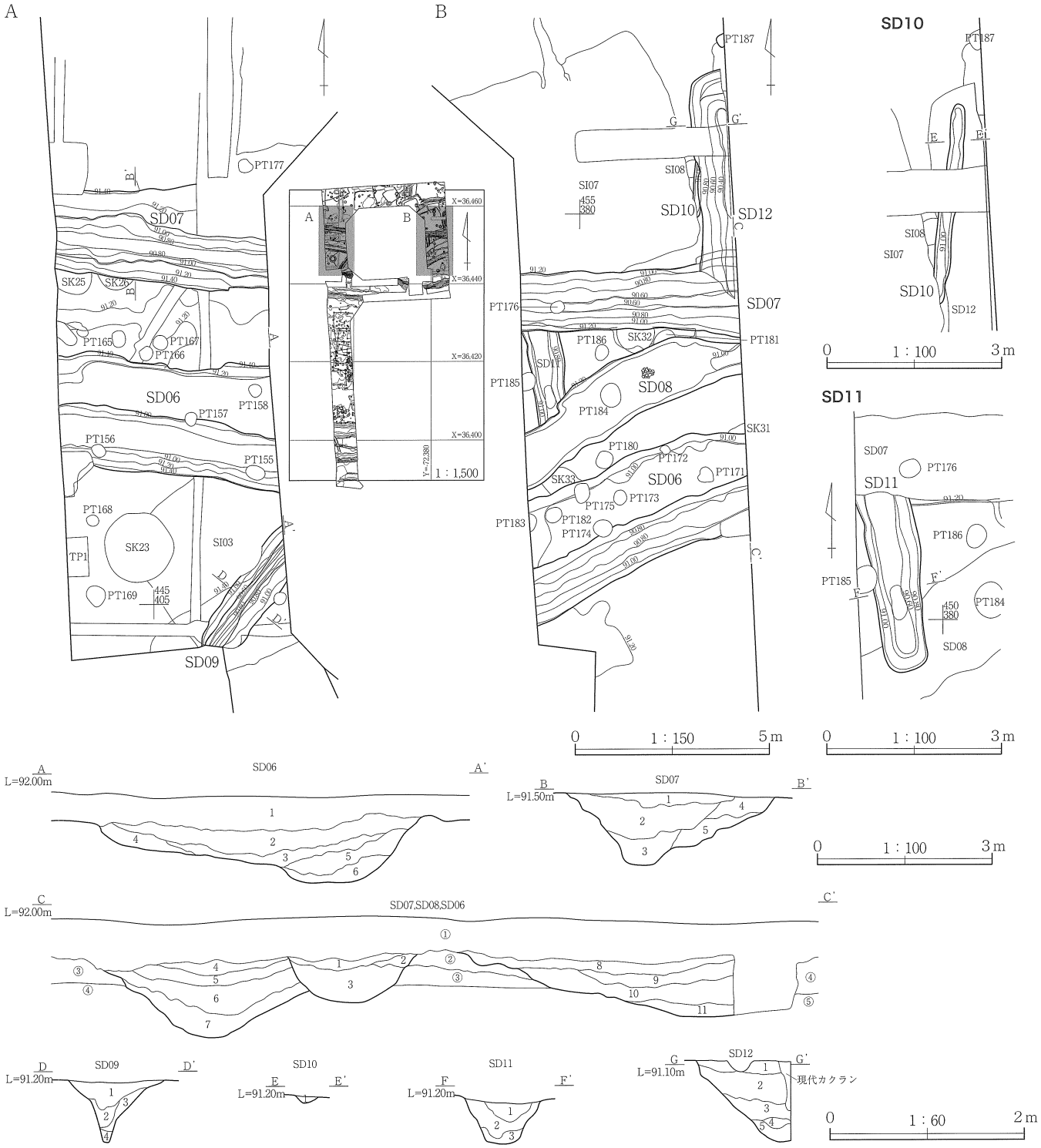
SD01 A－A'
1.黄褐～暗褐色土（10YR５/６～３/４）多量の砂利、礫、木片、廃材を含む。撹乱。
2.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂、砂利を含む。表土。
3.暗褐色土（10YR３/３）15～30cm大の川原石を多量に含む。
4.暗褐色土（10YR３/３）φ２～５mmの軽石、赤色粒子を含む。黒褐色土を混入。締まり良好。
5.暗褐色土（10YR３/３）φ２～５mmの軽石、赤色粒子を含む。締まり良好。
6.暗褐色土（10YR３/４）黄褐色粗粒砂、As-Bを含む。締まりなし。
7.黒色土（10YR２/１）粘質土。灰オリーブ色粘土をブロック状に含む。締まり弱い。
8.灰オリーブ色土（５YR４/２）粘質土、及び砂質土。黒色土を混入。締まり弱い。
9.オリーブ黒色土（５YR２/２）粘質土。５～10cm大の川原石を多量に含む。
SI01 B－B'
1.暗褐色土（10YR３/３）砂利、ゴミを含む。表土。
2.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂、炭粒を含む。
3.黒褐色土（10YR２/３）砂質土。黄褐色粗粒砂、炭粒を全体に含む。
4.黒褐色土（2.5YR３/２）シルト質。小礫を少量に含む。締まり良好。
5.黄褐色土（10YR５/６）粘質土。暗褐色粘質土を混入。
6.黒褐色土（10YR２/２）粘質土。小礫、砂利、炭粒、木片を含む。19C以降の染付け出土。
7.黒褐色土（10YR３/２）粘質土。小礫、砂利、炭粒等を少量に含む。
8.黒褐色土（10YR２/２）粘質土。炭粒、木片、竹、３～15cm大の礫を含む。染付け出土。
9.黒褐色土（10YR２/２）シルト質。有機物腐食土。
10.黒褐色土（10YR３/２）粘質土。黄褐色粗粒砂を混入。５～10cm大の礫を含む。
11.黒褐色土（10YR２/３）粘質土。黄褐色粗粒砂を混入。５cm大の礫を含む。
12.黒褐色土（10YR２/２）粘質土。灰黒色粗粒砂を混入。
SD01 C－C'
1.暗褐色土（10YR３/３）As-Aを微量含む。表土。
2.暗褐色土（10YR３/４）炭粒子、砂利、小礫を含む。
3.黒褐色土（10YR２/２）粘質土。炭化物をブロック状に含む。
4.黒褐色土（10YR３/２）シルト質。小礫、砂利を少量含む。
5.黒褐色土（10YR３/１）シルト質。小石を含む。
6.黒褐色土（10YR３/１）粘質土。木片、砂利を少量含む。
7.黒色土（10YR1.7/１）粘質土。炭化物層。畳等を燃やしたものか？
8.黒褐色土（10YR２/２）木片、小礫、砂利、小石等を大量に含む。締まりなし
9.黒褐色土（2.5YR３/２）粘質土。小砂利、粗粒砂混入。締まりなし。



SD02 東壁
1.黒褐色土（10YR２/２）表土。
2.暗褐色土（10YR３/４）混入物多し。表土。
3.暗褐色土（10YR３/４）炭化物、灰、黄褐色粗粒砂多量。足袋出土。
4.にぶい黄褐色土（10YR４/３）黄褐色土を70％含む。
5.黒褐色土（10YR３/２）シルト質
6.褐色土（10YR４/４）粘質土。砂利、５～15cm大の川原石を含む。
7.灰黄褐色土（10YR４/２）粘質土。部分的に５～10cm大の川原石を含む。
8.黒褐色土（10YR３/１）シルト質。砂利、５～10cm大の川原石を含む。
SD03
1.黒褐色土（10YR２/３）表土。
2.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂ブロック、２～10cm大の川原石を含む。
3.暗褐色土（10YR３/３）焼土粒子、炭粒子、砂利を微量含む。
4.暗褐色土（10YR３/３）炭粒子、軽石、砂利を微量含む。
5.黒褐色土（10YR２/３）粘質土。黄褐色粗粒砂を多量含む。
6.黒褐色土（10YR３/２）シルト質。
7.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂を全体に含む。
8.黒褐色土（10YR２/２）粘質土。
9.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂を全体に含む。
10.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色粗粒砂を全体に含む。炭粒子を混入。
11.黒褐色土（10YR３/２）シルト質。５～25cm大の川原石を含む。
SD04
1.暗オリーブ褐色土（2.5YR３/３）砂利を少量含む。締まり良好。SD05より後出。
SD05
1.にぶい黄褐色土（10YR４/３）粘質土。３～10cm大の砂利を含む。SD04に先行。



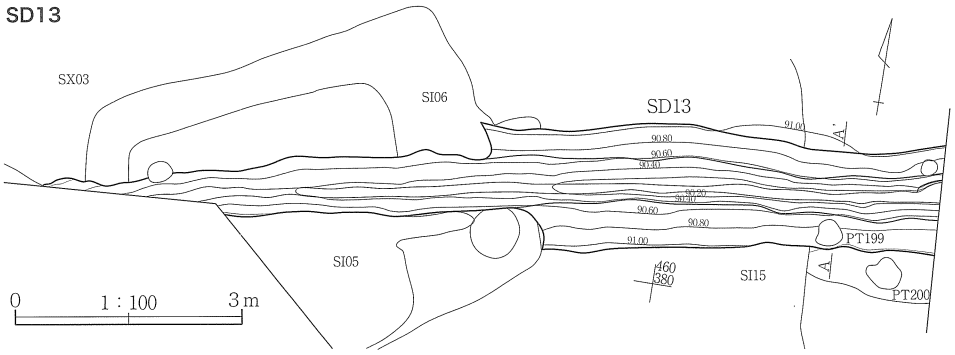
第26図　SD01～05

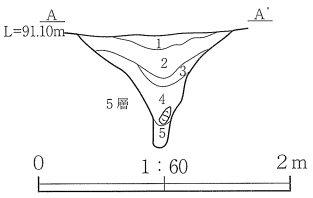


SD06
1.褐色土（10YR４/４）粗粒砂。現代。表土。
2.にぶい黄褐色土（10YR４/３）５～10cm大の川原石を少量含む。
3.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色土ブロック、小礫を少量含む。
4.黒褐色土（10YR２/３）暗褐色土を混入。
5.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロック、小礫、砂利を少量含む。
6.暗褐色土（10YR３/３）黄褐色土ブロック30％含む。
SD07
1.褐色土（10YR４/４）粗粒砂。現代。
2.にぶい黄褐色土（10YR４/３）少量の礫を混入。
3.にぶい黄褐色土（10YR４/３）黄褐色土ブロックを含む。
4.黒褐色土（10YR４/３）少量の礫を混入。
5.黒褐色土（10YR４/３）黄褐色土ブロックを含む。
SD06・07・08
①.試掘Ⅰ層。表土。
②.試掘Ⅱ層。As-B混土。
③.試掘Ⅲ層。暗褐色土。
④.試掘Ⅳ層。黒色土。Ａｓ-Cを含む部分あり。
⑤.試掘Ⅴ層。黄褐色粘質～砂質土。高崎泥流相当。
1.暗褐色土（10YR３/３）φ２～５mmの軽石（As-A）を混入。SD08。
2.暗褐色土（10YR３/３）。SD08。
3.暗褐色土（10YR３/３）φ２～５mmの軽石、黄褐色土、小礫を混入。締まりなし。SD08。
4.暗褐色土（10YR３/４）φ２～５mmの軽石（As-A）を30％混入。締まりなし。SD07。
5.にぶい黄褐色土（10YR４/３）φ２～５mmの軽石（As-A）70％混入。締まりなし。SD07。
6.暗褐色土（10YR３/３）砂利を微量含む。SD07。
7.黒褐色土（10YR２/３）暗褐色土をブロック状に含む。SD07。
8.にぶい黄褐色土（10YR４/３）φ２～５mmの軽石（As-A）70％混入。締まりなし。SD06。
9.暗褐色土（10YR３/３）砂利を微量含む。SD06。
10.暗褐色土（10YR３/３）褐色土を混入。SD06。
11.黒褐色土（10YR２/３）黄褐色土ブロック、礫を混入。SD06。
SD09
1.黒褐色土（10YR２/２）φ１～10㎜の軽石を少量含む。
2.国褐色土（10YR２/２）φ２～３㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロックを５％含む。
3.暗褐色土（10YR３/３）φ２～３㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロックを15％含む。
4.灰黄褐色土（10YR４/２）φ２～３㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロックを10％含む。
SD10
1.黒褐色土（10YR２/２）φ２～４mmの軽石、橙色粒子を混入。SI08竈より後出。
SD11
1.黒褐色土（10YR２/２）φ２mmの軽石を少量含む。
2.黒褐色土（10YR２/２）軽石、黄褐色土を混入。
3.黒褐色土（10YR２/２）黄褐色土ブロックを少量混入。
SD12
1.黒褐色土（10YR２/２）φ１～10㎜の軽石を全体に含む。橙色粒子を微量含む。
2.黒褐色土（10YR２/２）φ１～10㎜の軽石を全体に含む。黄褐色土ブロックを少量含む。
3.黒褐色土（10YR２/２）粘質土。φ１～10㎜の軽石を全体に含む。
4.黒褐色土（10YR３/２）粘質土。炭粒子、土器片を含む。
5.にぶい黄褐色土（10YR４/３）粘質土。黄褐色土ブロック、小礫を含む。

第27図　SD06～12

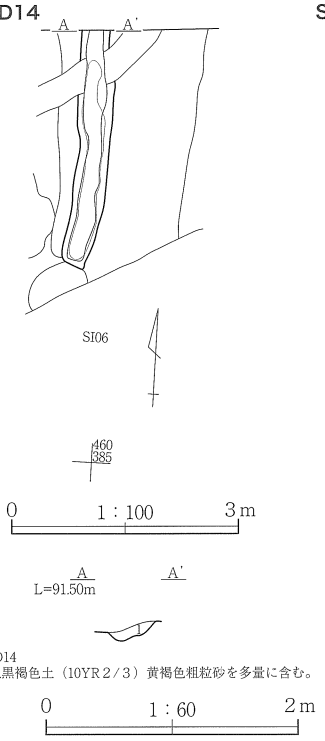
SD13





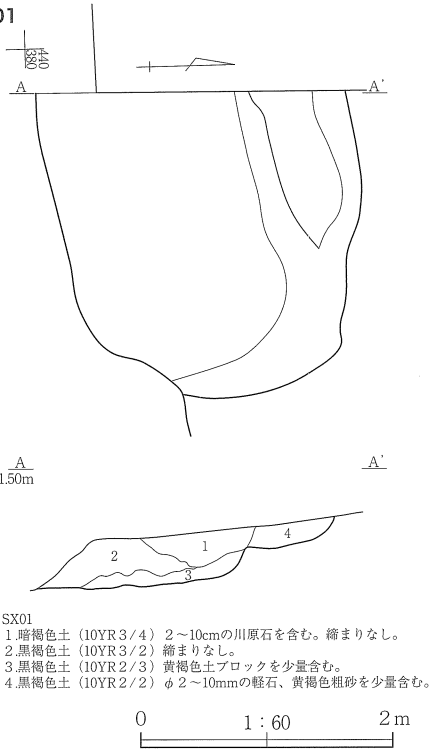
SD13
1.黒褐色土（10YR2/2）φ1～5㎜の軽石を微量含む。
2.黒褐色土（10YR2/2）φ1～15㎜の軽石を少量含む。
3.黒褐色土（10YR2/2）φ1～5㎜の軽石を少量含む。
4.黒褐色土（10YR2/2）φ1～5㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロックを10%含む。
5.黒褐色土（10YR2/2）φ1～5㎜の軽石を少量、黄褐色土ブロックを30%含む。

SD14



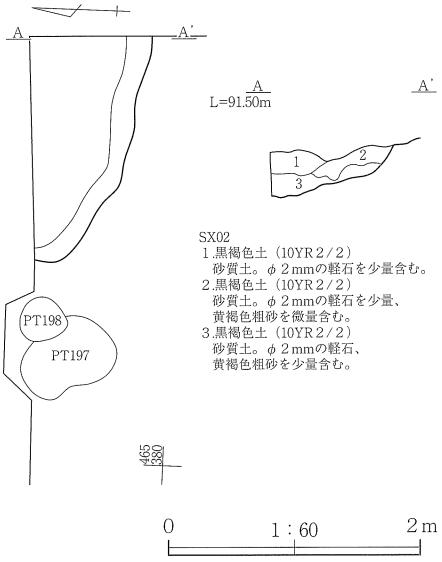
SD14
1.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色粗粒砂を多量に含む。

SX01



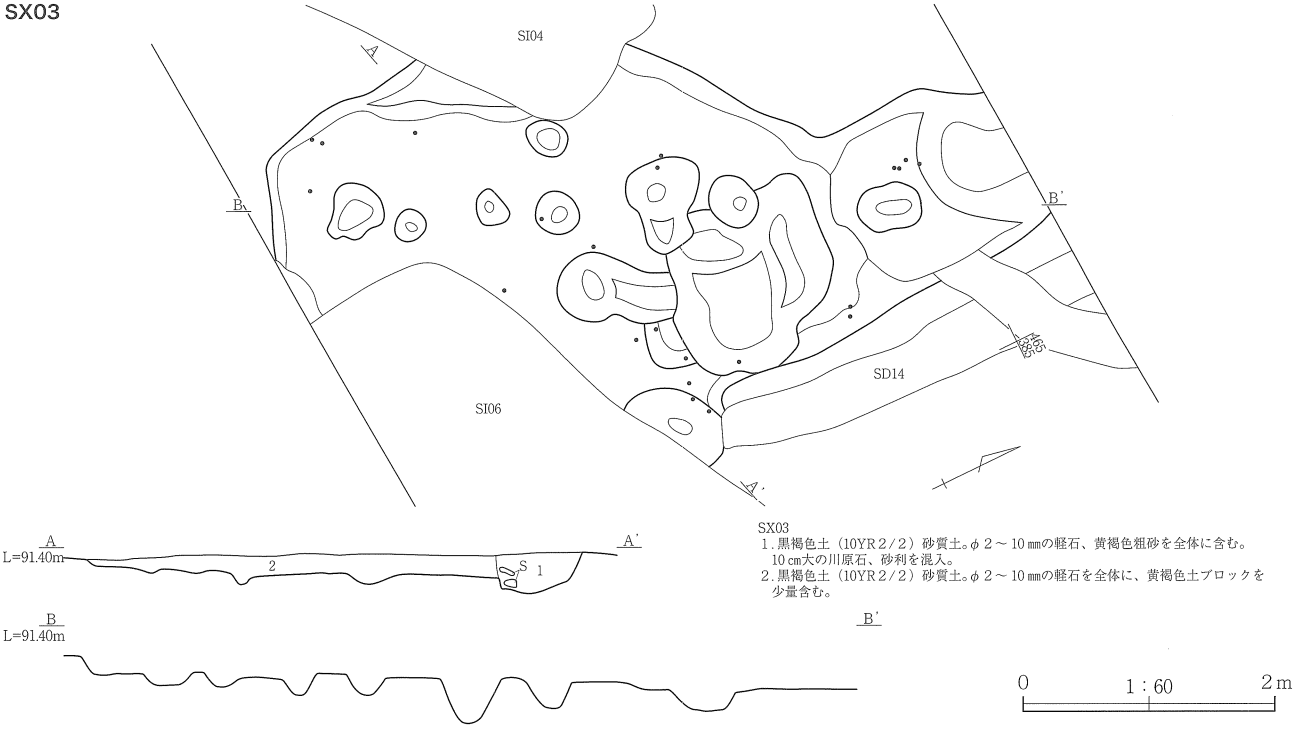
SX01
1.暗褐色土（10YR3/4）2～10cmの川原石を含む。締まりなし。
2.黒褐色土（10YR3/2）締まりなし。
3.黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土ブロックを少量含む。
4.黒褐色土（10YR2/2）φ2～10mmの軽石、黄褐色粗砂を少量含む。

SX02



SX02
1.黒褐色土（10YR2/2）砂質土。φ2mmの軽石を少量含む。
2.黒褐色土（10YR2/2）砂質土。φ2mmの軽石を少量、黄褐色粗砂を微量含む。
3.黒褐色土（10YR2/2）砂質土。φ2mmの軽石、黄褐色粗砂を少量含む。

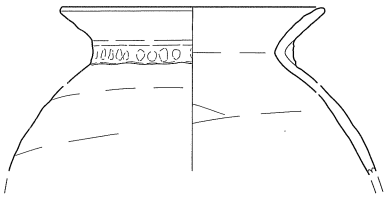
SX03



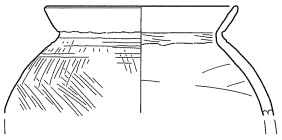
SX03
1.黒褐色土（10YR2/2）砂質土。φ2～10㎜の軽石、黄褐色粗砂を全体に含む。10㎝大の川原石、砂利を混入。
2.黒褐色土（10YR2/2）砂質土。φ2～10㎜の軽石を全体に、黄褐色土ブロックを少量含む。

第28図　SD13・14、SX

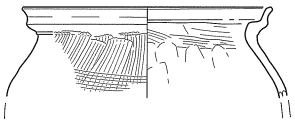
SI01



1(1/4)



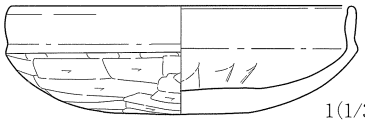
2(1/4)



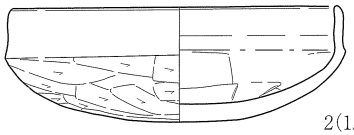
3(1/4)

4(1/4)

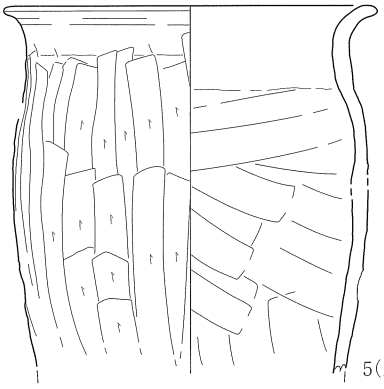
SI03



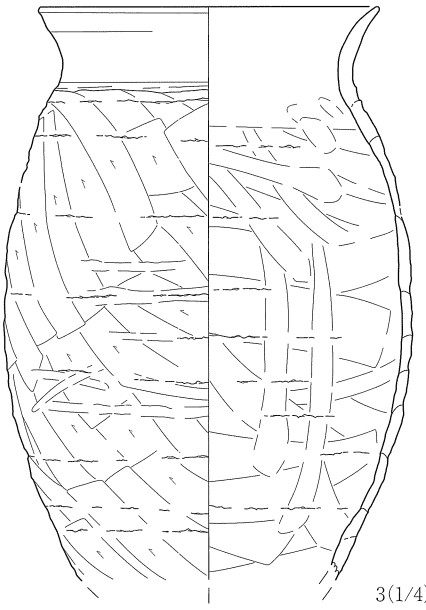
1(1/3)



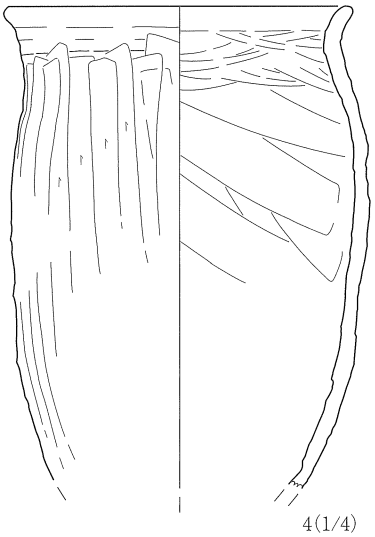
2(1/3)



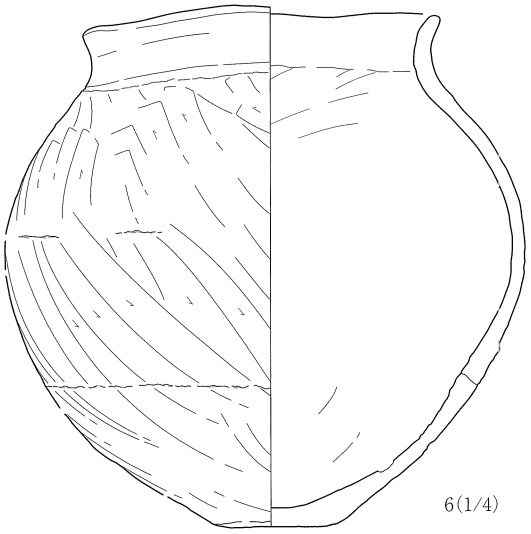
5(1/4)



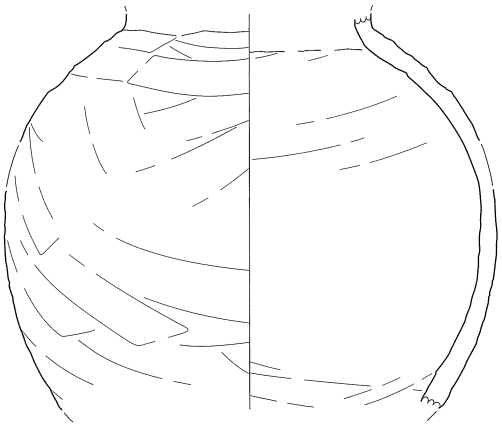
3(1/4)



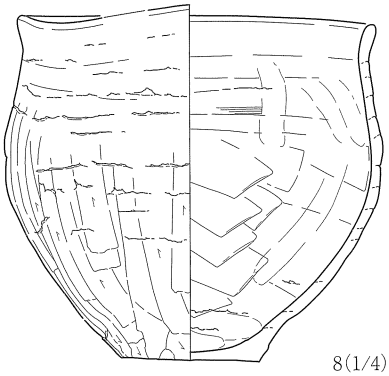
4(1/4)



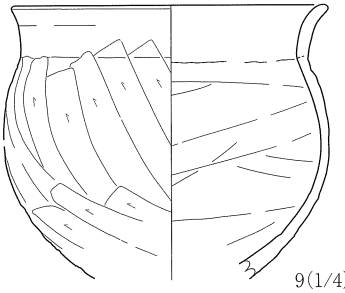
6(1/4)



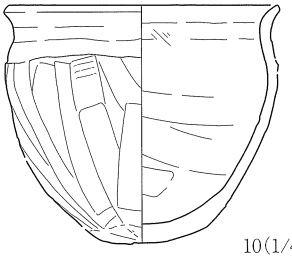
7(1/4)



8(1/4)



9(1/4)

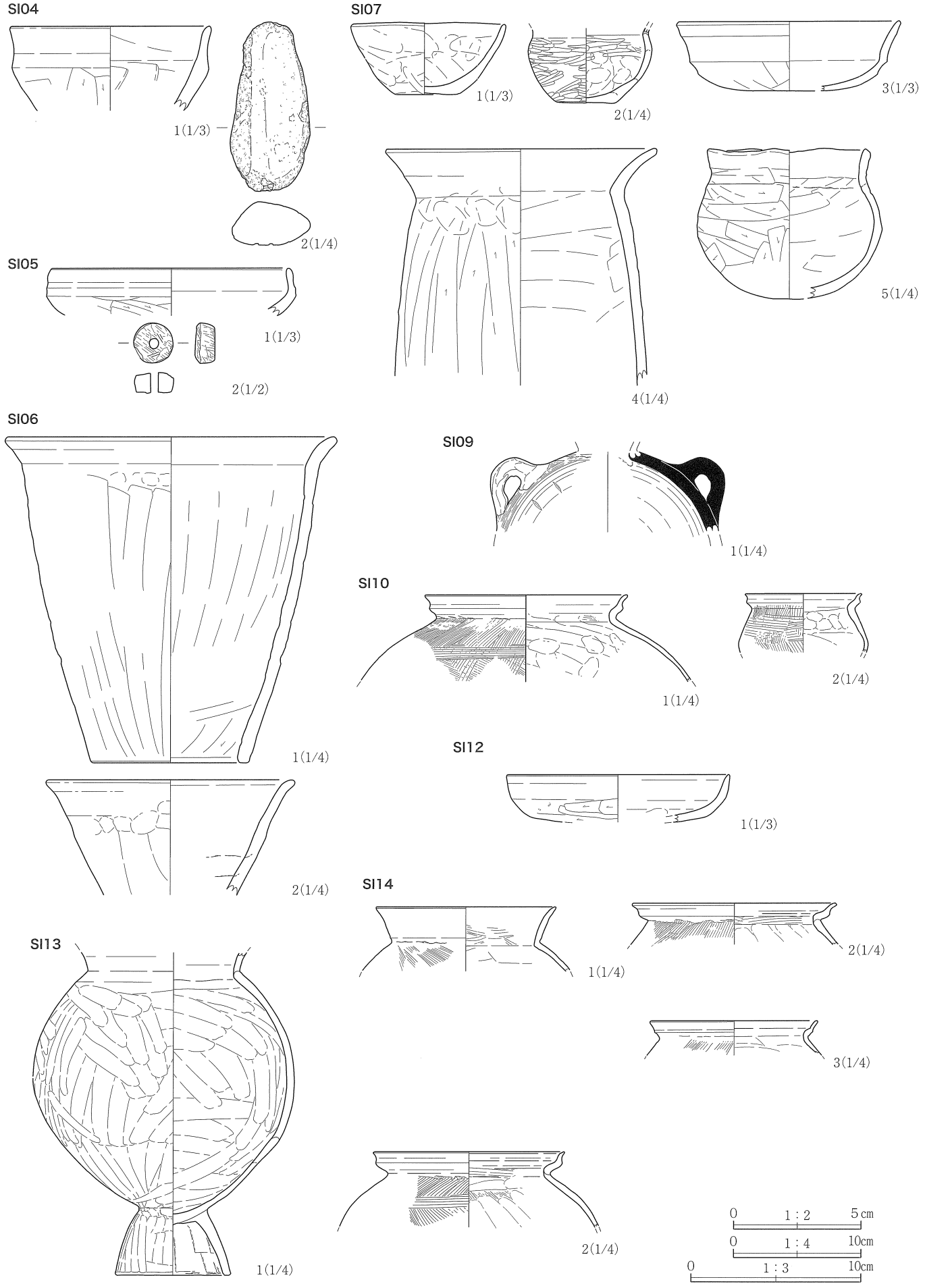


10(1/4)

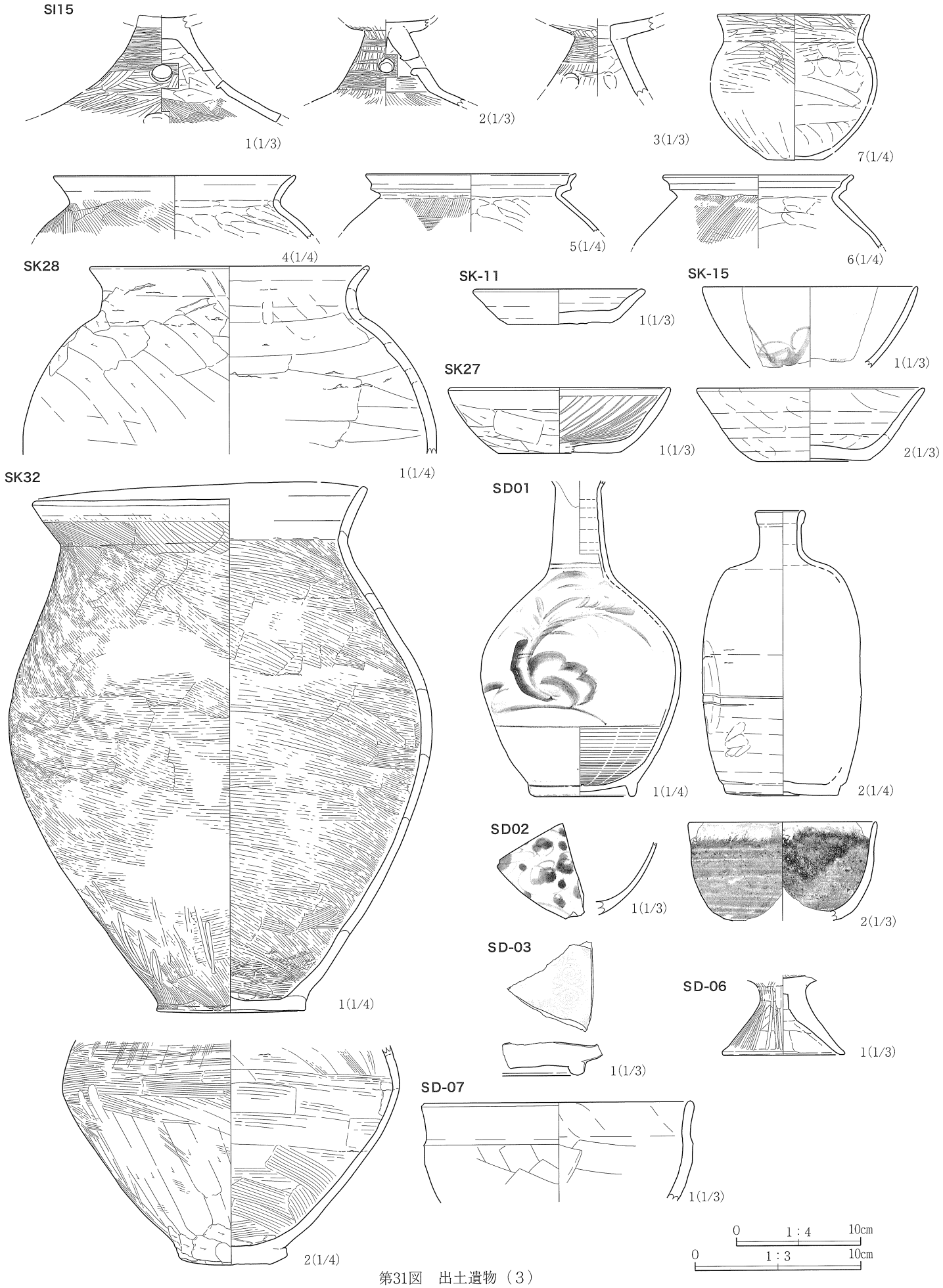
0 1：4 10cm

0 1：3 10cm

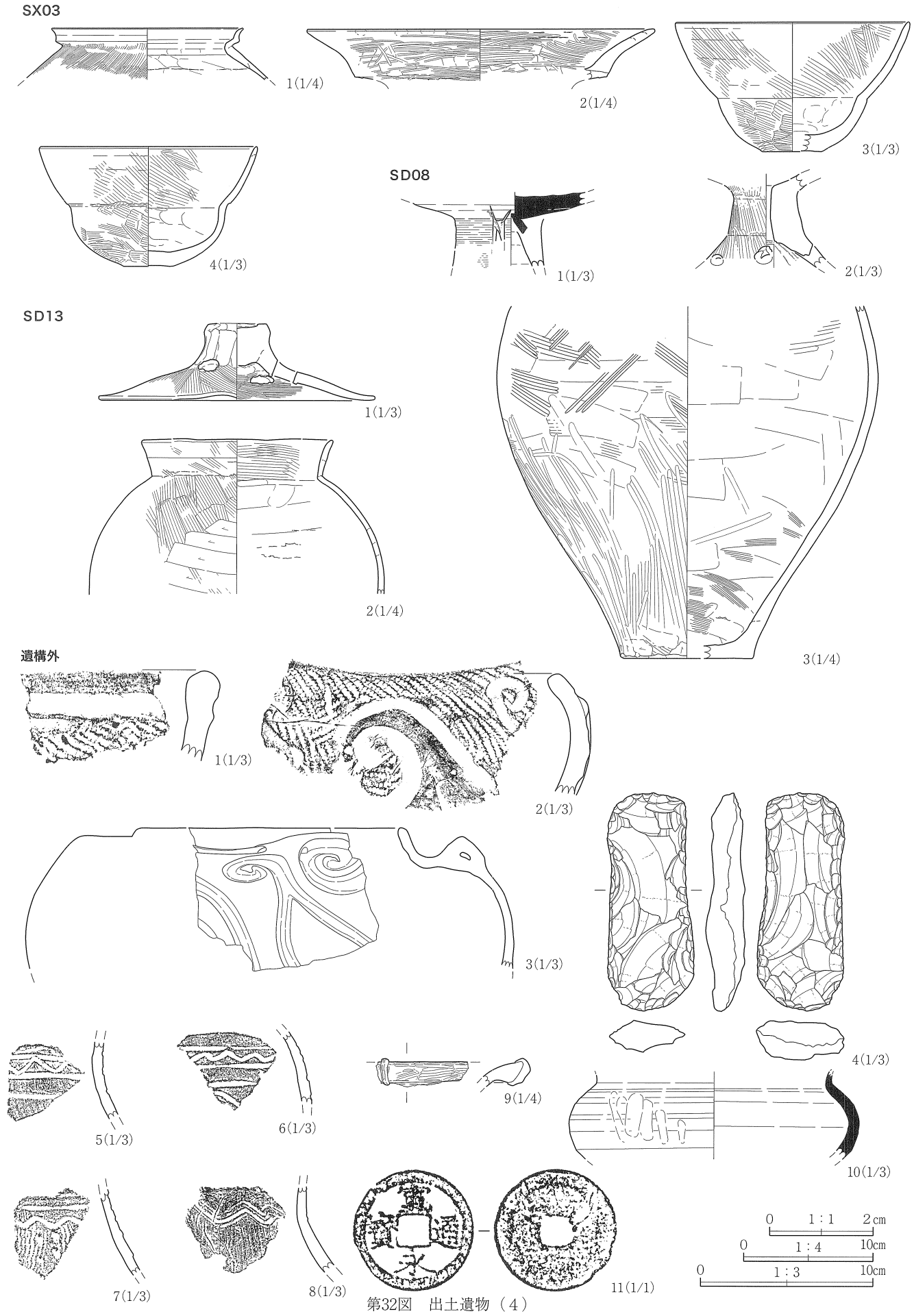
第29図　出土遺物（1）


SI04
1(1/3)
2(1/4)
SI05
1(1/3)
2(1/2)
SI06
1(1/4)
2(1/4)
SI13
1(1/4)
SI07
1(1/3)
2(1/4)
3(1/3)
4(1/4)
5(1/4)
SI09
1(1/4)
SI10
1(1/4)
2(1/4)
SI12
1(1/3)
SI14
1(1/4)
2(1/4)
3(1/4)
2(1/4)
0 1:2 5cm
0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

第30図　出土遺物（2）


SI15
1(1/3)
2(1/3)
3(1/3)
7(1/4)
4(1/4)
5(1/4)
6(1/4)
SK28
1(1/4)
SK-11
1(1/3)
SK-15
1(1/3)
SK27
1(1/3)
2(1/3)
SK32
1(1/4)
SD01
1(1/4)
2(1/4)
SD02
1(1/3)
2(1/3)
SD-03
1(1/3)
SD-06
1(1/3)
SD-07
1(1/3)
2(1/4)
0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

第31図　出土遺物（3）


SX03
1(1/4)
2(1/4)
3(1/3)
4(1/3)
SD08
1(1/3)
2(1/3)
SD13
1(1/3)
2(1/4)
3(1/4)
遺構外
1(1/3)
2(1/3)
3(1/3)
4(1/3)
5(1/3)
6(1/3)
9(1/4)
10(1/3)
7(1/3)
8(1/3)
11(1/1)
0 1:1 2cm
0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

第32図　出土遺物（4）

第３表　出土遺物観察表

SI01

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 甕	(14.1)	－	(8.6)	石英、白色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、頸部粘土紐貼付後押圧文、胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～胴部1/3残存。
2	覆土	土師器 甕	(10.3)	－	(5.6)	石英、黒色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、肩～胴部ハケナデ後肩部圏横線。内面口縁部ヨコナデ、頸部ハケナデ、肩～胴部ナデ。	口縁～胴部1/5残存。
3	床面直上	土師器 S字甕	(13.2)	－	(4.8)	白・黒・褐色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、肩部ハケナデ後圏横線。内面口縁部ヨコナデ、頸部ハケナデ、肩部ユビナデ。	口縁～肩部1/5残存。
4	床面直上	土師器 台付甕	－	(9.7)	(4.9)	白・黒色粒	良好	にぶい黄褐色	外面ナデ。内面脚上部ユビナデ、下部ヘラナデ。	脚部1/4残存。

SI03

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 坏	13.5	－	4.3	黒雲母、白・灰・黒色粒	良好	褐色	外面口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ・ユビナデ。	完存。
2	覆土	土師器 坏	12.8	－	4.5	白・黒・橙色粒	良好	黒褐・明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	3/4残存。
3	床面直上	土師器 甕	18.0	－	(30.2)	石英、長石、白色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴上半ヘラケズリ、下半ヘラケズリ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～胴部2/3残存。
4	床面直上	土師器 甕	18.5	－	(25.5)	チャート、石英、白・黒色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	口縁～胴部2/3残存。
5	床面直上	土師器 甕	19.8	－	14.4	チャート、石英、白・黒色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴下半～底部欠損。
6	床面直上	土師器 甕	18.9	6.0	27.6	石英、雲母、白色粒	良好	にぶい黄褐・にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	1/5欠損。
7	床面直上	土師器 甕	－	－	(15.9)	石英、結晶片岩、褐色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面ナデ。	口縁・底部欠損。
8	床面直上	土師器 甕	(19.0)	7.3	18.7	チャート、石英、黒雲母、白・黒色粒	良好	にぶい黄橙・暗赤灰色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ・ユビナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ・ユビナデ。底部ユビナデ。	2/3残存。
9	床面直上	土師器 甕	16.8	－	(14.4)	石英、長石	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	底部欠損。
10	床面直上	土師器 甕	14.6	2.5	12.6	白・黒色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	1/5欠損。

SI04

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 鉢	(11.9)	－	(4.9)	黒色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ナデ、肩部ヘラナデ。	口縁～肩部1/5残存。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	こも編石	13.20	6.20	3.40	粗粒安山岩	－	343.0		完存。

SI05

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 坏	(14.2)	－	(2.8)	石英、白色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	口縁～底部1/6残存。

番号	出土位置	種別、器種	直径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	竈掘り方	石製品 臼玉	1.60	0.35	0.80	滑石	－	3.0	全面に研磨痕。	ほぼ完存。

SI06

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 甑	(26.1)	(12.5)	25.5	長石、雲母、白色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、頸部ユビナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。	口縁～胴部1/5残存。
2	PT-01覆土	土師器 鉢	(19.2)	－	(9.2)	チャート、白・黒・橙色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。	口縁部片残存。

SI07

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	掘り方	土師器 鉢	(9.1)	3.6	4.2	チャート、角閃石、礫	軟質	橙色	外面ナデ。内面ナデ。	3/4残存。
2	床面直上	土師器 鉢	－	4.1	(5.9)	石英、角閃石、礫	良好	橙色	外面胴部ミガキ、底部ユビナデ。内面肩部ミガキ、胴～底部ユビナデ。	2/3残存。
3	床面直上	土師器 坏	(13.2)	－	(4.0)	石英、褐色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面ナデ。	口縁～底部1/4残存。
4	床面直上	土師器 甕	21.3	－	(12.8)	チャート、石英、白色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、頸部ユビナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～胴部2/3残存。
5	床面直上	土師器 甕	12.8	－	(11.7)	長石、雲母、白色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	底部欠損。

SI09

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 提瓶	－	－	(6.7)	白色粒	良好	浅黄色	外面把手部ユビナデ、胴部カキ目・回転ヘラケズリ後刺突文。内面ロクロナデ。	肩部破片。

SI10

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	P-01覆土	土師器 S字甕	(15.9)	－	(6.8)	角閃石、赤・黒色粒	良好	内外・淡黄色 断面・黒褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ後圏横線。内面口縁部ヨコナデ、頸部ハケナデ後ユビナデ、胴部ユビナデ。	口縁～肩部1/5残存。
2	堀方	土師器 S字甕	(9.2)	－	(5.6)	角閃石、小礫	良好	浅黄色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ後圏横線。内面口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ。	口縁～肩部1/4残存。

SI12

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 坏	(13.1)	－	(2.8)	石英、角閃石	良好	にぶい赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面ヨコナデ、底部ナデ。	1/5残存。

SI13

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 台付甕	－	9.0	(25.3)	赤色粒、小礫	良好	にぶい橙色	外面口縁～肩部ヨコナデ、胴～脚部ユビナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ、脚部ヘラナデ。	1/2残存。
2	覆土	土師器 S字甕	(15.0)	－	(5.9)	角閃石、赤色粒	良好	浅黄色	外面口縁部ヨコナデ、肩部ハケナデ後圏横線、胴部ハケナデ。内面口縁部ヨコナデ、頸部ハケナデ、胴部ハケナデ後ユビナデ。	口縁～肩部破片。

SI14

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 甕	(14.1)	－	(4.9)	長石、黒色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、肩部ハケナデ。内面口縁部ハケナデ後ナデ、肩部ナデ。	口縁～肩部1/4残存。
2	覆土	土師器 S字甕	(16.0)	－	(3.2)	石英、赤色粒	良好	浅黄色	外面口縁部ヨコナデ、肩部ハケナデ。内面口縁部ヨコナデ、頸部ハケナデ、胴部ユビナデ。	口縁～肩部1/5残存。
3	覆土	土師器 S字甕	(13.2)	－	(2.7)	白・黒色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、肩部ハケナデ。内面口部ヨコナデ、肩部ナデ。	口縁～肩部1/5残存。

SI15

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 高坏	－	－	(6.3)	赤色粒、小礫	良好	にぶい橙色	外面ミガキ。内面ハケナデ後上半ヘラケズリ。透し２段６孔。	脚部3/4残存。
2	床面直上	土師器 高坏or器台	－	－	(5.2)	石英、小礫	良好	明赤褐色	外面ミガキ。内面ヘラナデ。透し３孔。	脚部4/5残存。
3	掘り方	土師器 器台	－	－	(4.8)	チャート、石英、角閃石	やや軟質	浅黄橙色	外面ミガキ。内面ユビナデ。透し４孔。	脚部2/3残存。
4	床面直上	土師器 甕	(19.5)	－	(5.1)	白・赤色粒、小礫	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ。	口縁～肩部3/4残存。
5	床面直上	土師器 S字甕	(17.0)	－	(4.7)	白・赤色粒	良好	内外・にぶい黄橙色 断面・黒褐色	外面口縁部ヨコナデ、肩部ハケナデ後圏横線。胴部ハケナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ。	口縁～肩部3/4残存。
6	床面直上	土師器 S字甕	(15.3)	－	(5.9)	白・黒色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ。	口縁～肩部1/5残存。
7	床面直上	土師器 甕	(12.2)	4.4	11.8	赤色粒、小礫	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部～肩部ミガキ、胴部ナデ。内面口縁～肩部ミガキ、胴部ナデ。	4/5残存。

SD01

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	磁器 瓶	－	8.1	(25.5)	粘土質	堅緻	明青灰色	外面ロクロ成形、底部削り出し高台、施釉、染付。内面ロクロ成形、口縁部上半施釉。肥前染付徳利。	口縁部欠損。17世紀後半

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	覆土	陶器 瓶	3.8	8.8	23.0	白色粒	堅緻	暗褐色	外面ロクロ成形、底部回転ヘラケズリ、鉄釉施釉。内面ロクロ成形、鉄釉施釉。美濃錆釉徳利。	完存。18 世紀後葉～19 世紀後葉

SD02

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	磁器 碗	－	－	5.5	粘土質	堅緻	灰白色	外面ロクロ成形、施釉、染付。内面ロクロ成形、施釉。肥前染付碗。	体部片残存。18 世紀前半～中葉
2	覆土	陶器 碗	(11.3)	－	5.9	粘土質	堅緻	オリーブ褐色	外面ロクロ成形、鉄釉施釉。内面ロクロ成形、鉄釉施釉。瀬戸鉄釉丸碗。	口縁～体部片残存。17 世紀後葉～ 18 世紀後葉

SD03

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	青磁 碗	－	(6.0)	(2.0)	粘土質	堅緻	オリーブ灰色	外面ロクロ成形、底部削り出し高台、施釉。内面ロクロ成形、底部花文。	底部片残存。龍泉窯系青磁内底花文碗。

SD06

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 高坏	－	7.2	4.8	石英、白・黒色粒	良好	にぶい黄橙色	外面ヘラケズリ・ナデ後ミガキ。内面底部ナデ後ミガキ。脚部ナデ。	脚部ほぼ完存。

SD07

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 鉢	(16.5)	－	(6.0)	黒色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ユビナデ、胴部ヘラナデ。	口縁～胴部 1/6 残存。

SD08

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 高坏	－	－	(4.3)	石英、チャート、白色粒	堅緻	灰色	外面底部ロクロナデ、脚部カキ目。内面ロクロナデ。透し３孔。長方形透しか。	底～脚部破片残存。
2	覆土	土師器 器台	－	－	(5.3)	小礫	良好	明赤褐色	外面脚部ハケナデ後下半ミガキ。内面ヘラナデ。透し４孔。	脚部 1/2 残存。
3	底面	弥生土器 甕	－	(10.0)	(27.1)	黒雲母、白・黒色粒	良好	にぶい黄色	外面胴部ヘラナデ・ハケナデ後ミガキ、胴部下端ヘラケズリ、肩部羽状文。内面胴部ヘラナデ・ハケナデ。底部ヘラナデ・ユビナデ。	胴～底部 1/3 残存。

SD13

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 甕	－	(16.0)	4.5	白・黒・橙色粒	良好	灰黄褐色	外面つまみ部ユビナデ、天井部ハケナデ。内面天井部ハケナデ後上端ユビナデ。透し３孔。	1/3 残存。
2	覆土	土師器 甕	(14.6)	－	(11.9)	黒雲母、黒・茶色粒	良好	浅黄橙・黒褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケナデ後下半ヘラケズリ。内面口縁部ハケナデ後ユビナデ、胴部ナデ。	口縁～胴部片残存。

SK11

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	かわらけ	(10.0)	(6.3)	(2.1)	雲母、白・黒色粒	良好	橙色	外面ロクロナデ。内面ロクロナデ、底部回転糸切り。	1/3 残存。

SK15

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	陶器 碗	(12.9)	－	(4.8)	粘土質	堅緻	灰白色	外面ロクロ成形。鉄釉施釉。内面ロクロ成形。瀬戸・美濃柳花碗。	口縁～体部片残存。18 世紀後葉～ 19 世紀中葉

SK27

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 坏	(13.2)	(7.5)	(3.9)	雲母、白・黒色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後放射状暗文、底部螺旋状暗文。	2/5 残存。暗文坏。
2	覆土	土師器 坏	(13.6)	(6.7)	4.5	雲母、白・黒色粒	良好	橙色	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面ロクロナデ。	1/3 残存。

SK28

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	底面直上	土師器 甕	(22.3)	－	(15.0)	石英粗粒、結晶片岩、白・黒・茶色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口縁～胴中位片残存。

SK32

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	底面直上	土師器 甕	26.9	12.0	42.3	白・黒色粒	良好	浅黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ後下半ミガキ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ後ミガキ。	3/4 残存。土器棺。
2	底面直上	土師器 壺	－	8.5	(18.0)	石英、白・黒・橙色粒	良好	橙色	外面胴部上半ハケナデ後ハケ状工具による斜位施文か、下半ハケナデ後ヘラケズリ。内面胴部上半ハケナデ・ユビナデ、下半ハケナデ、底部ヘラナデ。	3/4 残存。土器棺蓋部。端部打ち欠き。

SX03

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	底面直上	土師器 S 字甕	(14.8)	－	(3.3)	石英、白・黒色粒	良好	にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、肩部ハケナデ。内面口縁部ヨコナデ、肩部ナデ。	口縁～肩部 2/5 残存。
2	底面直上	土師器 壺	(26.8)	－	(3.8)	石英、白・黒・茶色粒	良好	橙色	外面口縁部ナデ後ミガキ。内面ヘラナデ後ミガキ。	坏部片残存。
3	底面直上	土師器 坩	(13.5)	(3.4)	7.4	石英、白・黒・茶色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ハケナデ、胴部ハケナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	1/3 残存。
4	底面直上	土師器 坩	(12.6)	(2.8)	7.0	黒雲母、白・黒・茶色粒	良好	橙色	外面口縁部ハケナデ、胴部ハケナデ、底部ヘラケズリ。頸部に稜線。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	1/3 残存。

遺構外

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	遺構外	縄文土器 深鉢	－	－	－	角閃石、小礫	良好	暗黄褐色	ＲＬ地、口唇下にヨコ太沈線。	破片。
2	遺構外	縄文土器 深鉢	－	－	－	角閃石、小礫	良好	暗茶色	キャリパー型、ＲＬ地に隆帯と太沈線による渦巻文。	口縁部破片残存。２片接合。
3	遺構外	縄文土器 短頸壺	(15.0)	－	(10.3)	小礫	良好	灰褐色	隆帯・太沈線による渦巻状文、吊手の穿孔あり、外面赤彩か。	上半 1/10 残存。
5	遺構外	弥生土器 壺	－	－	(4.9)	角閃石、白色粒	やや軟質	にぶい橙色	外面ハケナデ後頸部鋸歯文。内面ナデ。	頸部破片。
6	遺構外	弥生土器 壺	－	－	(4.2)	黒色粒	やや軟質	浅黄橙色	外面ミガキ後鋸歯文。内面ハケナデ。	胴部破片。
7	遺構外	弥生土器 壺	－	－	(4.9)	角閃石、黒色粒	やや軟質	浅黄橙色	外面ハケナデ後波状文・櫛描波状文。内面ナデ。	頸部破片。
8	遺構外	弥生土器 壺	－	－	(4.4)	白・赤色粒	やや良好	浅黄色橙色	外面ハケナデ・ミガキ後鋸歯文。内面ミガキ。	頸部破片。
9	遺構外	土師器 壺	－	－	(2.2)	黒色粒、小礫	良好	外面・橙色 内面・浅黄橙色	外面口端部ハケナデ後ミガキ、口縁部ヨコナデ。内面ミガキ。	口縁部破片。 口端に棒状貼付文。
10	遺構外	須恵器 短頸壺	－	－	(5.0)	白・黒色粒	堅緻	灰白色	外面胴部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ。	頸～胴部破片。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	遺構外	打製石斧 短冊形	12.55	5.10	2.25	ホルンフェルス	－	152.5	片面の一部に滑沢面。	完存。

番号	出土位置	銭種名	外径(mm)	穿径(mm)	厚さ(mm)	重量（g）	材質	初鋳年代	残存状況、備考
11	遺構外	寛永通宝	24.0	5.0	1.0	3.0	銅	1636 年	完存。古寛永（1636 ～ 1659 年）。

Ⅵ. 発掘調査の成果と課題

今回の高関・堰村遺跡における調査では、道路幅6.0mという狭い範囲に関わらず、古墳時代～中・近世に亘る遺構を確認し、縄文時代～近世の多種多様な遺物を検出することができた。各個別の詳細については前章に記したので、ここでは本調査で確認した主要な遺構・遺物を時期別に分けて概観・検討し、まとめとしたい（第33・34図）。

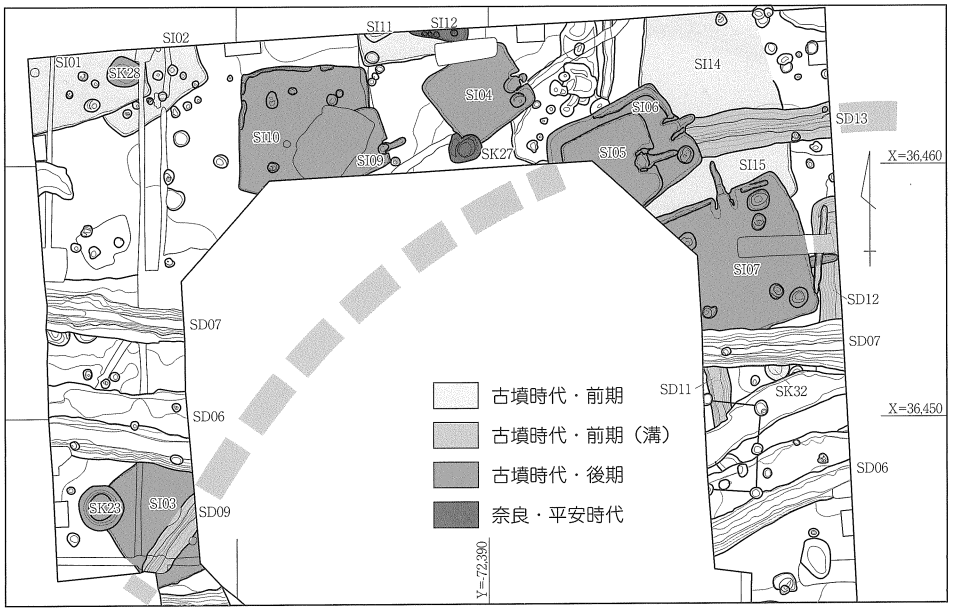
縄文時代　今回の調査では、縄文時代に該当する遺構は確認されていない。しかし、遺物は包含層や後世の遺構覆土から出土しており、近隣の微高地上に集落が存在している可能性は高いといえる。遺物としては土器479点、打製石斧1点、黒曜石剥片1点が出土している。土器は縄文時代中期後半（加曾利Ｅ３式併行期）の深鉢が大半を占め、短頸壷1点、浅鉢1点を含み、その他に後期前半（堀之内式）の深鉢が1点出土している。

弥生時代　弥生時代の遺構も確認されていないが、甕・壷類の破片が91点出土している。多くは頸部に櫛描簾状文、肩部に櫛描波状文を有する弥生時代後期の樽式の特徴が観察され、中期後半の竜見町式と考えられる頸部や肩部の外面にヘラ描沈線文やヘラ描山形文を施す壷の破片等も数点出土している。1991年の高崎環状線における高関・堰村遺跡の調査では弥生時代中期の断面Ｖ字形の溝、高関東沖・村前遺跡では竪穴住居跡が、また、高関村前遺跡では後期の竪穴住居跡が確認されており、本遺跡の北側微高地上に中期の、南側微高地上に後期の集落が存在する可能性が高いといえる。

古墳時代　本遺跡において遺構が確認できるのは古墳時代からである。古墳時代前期の遺構としてはSI01・02・13・14・15、SK32、SD09・11・12・13が挙げられる。竪穴住居跡は調査区北端部からの検出で、部分的な確認にとどまり、全体を把握できたものはなく不明な点が多い。いずれも重複しており、濃密な分布が想定される。SD09・13は未調査箇所を挟むが、規模・形状から同一の遺構の可能性が高く、環濠として機能したものと考えられる。古墳時代後期のSI03・05・06に先行し、SI15より後出であり、また、古墳時代中期以降の遺物を含まないことから、古墳時代前期の段階で集落の構造が大きく変更されたものと考えられる。尚、SK32は単独の土器棺墓と考えているが、近接する南北方向の溝であるSD11・12との関係も考慮すべきかもしれず、棺に用いられた甕と弥生時代中期末～後期初頭にみられる無文の土器との関係についても、今後の検討課題としたい。

集落はその後、古墳時代中期の空白期を挟み、後期に入って再び集落が形成されるようになる。古墳時代後期の遺構としては調査区北部から検出されたSI03・04・05・06・07・08・09・10、SK23・28が挙げられる。竪穴住居跡の規模は一辺5.00m前後のものと、3.00m前後のものとに大別でき、重複関係から前者のほうが先行することが確認されている。竈は基本的には東壁に付設され、SI08の建て替えであるSI07では、唯一、北壁からの検出である。

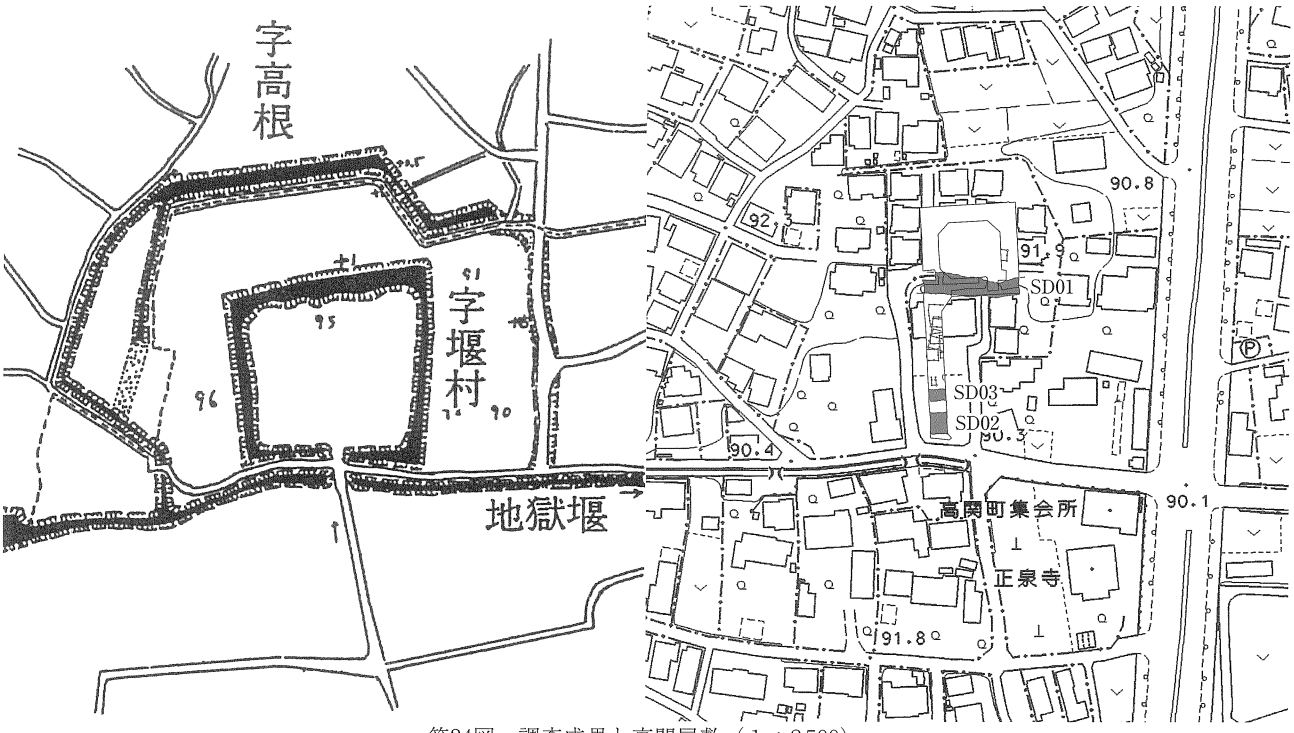
奈良・平安時代　奈良・平安時代になると遺構・遺物数は減少し、調査区北部から検出されたSI12とSK27を挙げるにとどまる。いずれも8世紀代の遺構と考えられるが、集落の中心から外れた区域となるようである。尚、7世紀以降の開鑿としたSD06・07はこの時期の遺構とみるべきかもしれないが、中世まで降



第33図　遺構分布図（1：300）

る可能性も考慮したい。

中世以降　中世以降になると遺構数は増加し、調査区全体から検出されている。遺構としてはSD01・02・03と、ピット200口の大半はこの時期に含まれるものとみられる。SD01を境に調査区南部の遺構確認面は北部に比べ1.0m～1.5m程低く、当該期以前の遺構は確認されず、中世以降に大きく削平を受けた可能性が高いといえる。出土遺物もSD01以外からは中近世遺物の他は、土師器小片を11点確認したのみである。SD01は上幅7.0m、深さ2.3mを測る大規模な溝であり、その痕跡は調査着手の直前まで東西方向の窪みとして観察されていた。本址から調査区南端部検出のSD02・03との間では、濃密に分布した140口のピットが検出され、7棟の掘立柱建物を抽出・復元した。重複関係からSB07→SB02→SB06の順に新しく、配置や主軸方位等からSB01・02・03・04が同時期に存在することが可能と考えられるが、推測の域を超えるものではない。SD01の北側ではピットの分布は薄く、復元したのはSB08一棟のみであるが、狭い調査範囲からの抽出であり不明な点が多い。本調査地点は中世城館である高関屋敷が想定されている。『新編高崎市史資料編3　中世1』によると「南面は地獄堰を利用し、本郭濠との間に濠ほどの空間があり、その中央に戸口が設けられていたようだ」とあり、方形の本郭を外郭が覆う構造である。第34図には高関屋敷の縄張り図と、本調査における中世以降の代表的な遺構の配置図を示した。これらの全てが高関屋敷に関わる遺構であるかは不明であり、また、出土遺物も非常に少なく、遺構の年代観についても明確にし得ないが、溝の開鑿は15世紀まで遡る可能性が高いと考えている。本調査地点における谷筋の存在をⅣ．基本層序で想定したが、SD01・02・03は地形や傾斜に沿った走向を示す溝であり、古い段階の地獄堰の流路とも考えられ、その後、屋敷地に取り込まれたものと推測される。



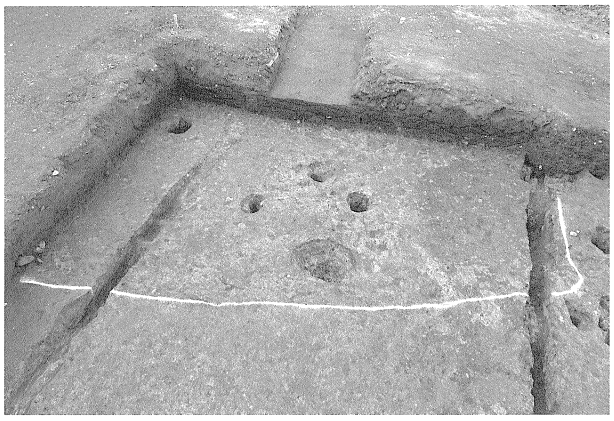
第34図　調査成果と高関屋敷（1：2,500）

引用・参考文献

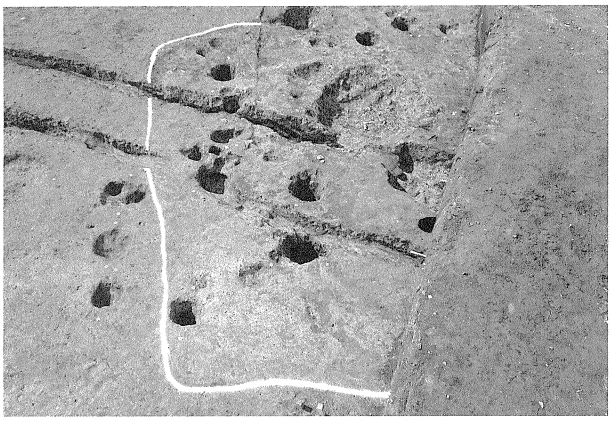
群馬県教育委員会　『群馬県の中世城館跡』　1989
高崎市市史編さん委員会　『新編　高崎市史　資料編1　原始古代Ⅰ』　1999
高崎市市史編さん委員会　『新編　高崎市史　資料編2　原始古代Ⅱ』　2000
高崎市市史編さん委員会　『新編　高崎市史　資料編3　中世Ⅰ』　1996
高崎市市史編さん委員会　『新編　高崎市史　資料編4　中世Ⅱ』　1994
高崎市市史編さん委員会　『新編　高崎市史　資料編14　社寺』　2003
高崎市市史編さん委員会　『新編　高崎市史　通史編1』　2003
高崎市市史編さん委員会　『新編　高崎市史　通史編2』　2000
坂口　一　「古墳時代後期の土器編年－三ツ寺Ⅲ遺跡を中心とした土師器と須恵器の平行関係－」『群馬文化第208号』　群馬県地域文化研究協議会　1986
田口一郎　「XⅠ　遺物の検討」『高崎市文化財調査報告書第22集　元島名将軍塚古墳』　高崎市教育委員会　1981
若狭　徹　「群馬県地域」『YAY！弥生土器を語る会20回到達記念論文集』弥生土器を語る会　1996
深沢敦仁　「太田地域における古墳時代前期の土器編年試案」『成塚向山古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団　2008
高崎市文化財調査報告書　第101集『上中居辻薬師遺跡』高崎市教育委員会　1989
高崎市文化財調査報告書　第116集『高関堰村遺跡』高崎市教育委員会　1992
高崎市文化財調査報告書　第122集『上中居辻薬師Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会　1992
高崎市文化財調査報告書　第128集『高関村前遺跡』高崎市教育委員会　1993
高崎市文化財調査報告書　第135集『高関村前Ⅱ遺跡　高関東沖・村前遺跡』高崎市教育委員会　1995
高崎市文化財調査報告書　第232集『上中居遺跡群』高崎市教育委員会　2009
高崎市文化財調査報告書　第237集『新後閑遺跡』高崎市教育委員会　2009
高崎市文化財調査報告書　第244集『高関高根遺跡』高崎市教育委員会　2009
高崎市文化財調査報告書　第249集『上中居辻薬師遺跡3』高崎市教育委員会　2009
高崎市文化財調査報告書　第265集『上中居・平塚遺跡3』高崎市教育委員会　2010
高崎市文化財調査報告書　第271集『大八木・伊勢廻遺跡2』高崎市教育委員会　2010

写　真　図　版

PL 1



SI01全景（南から）



SI02全景（東から）

SI03全景（南西から）

SI03掘り方全景（南西から）

SI04全景（西から）

SI04竈全景（西から）

SI05全景（西から）

SI05竈全景（西から）

SI06全景（西から）

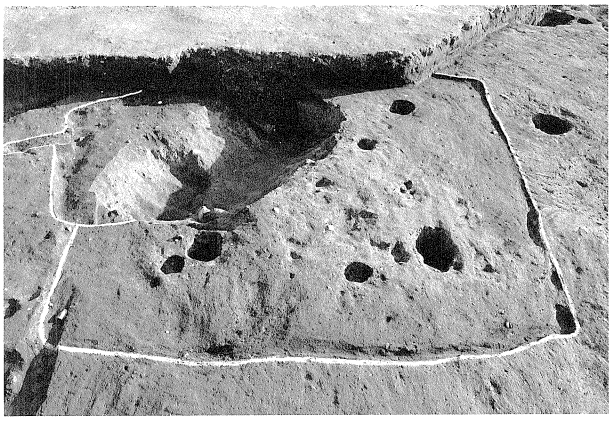
SI06竈全景（西から）

SI07全景（南から）

SI07竈全景（南から）

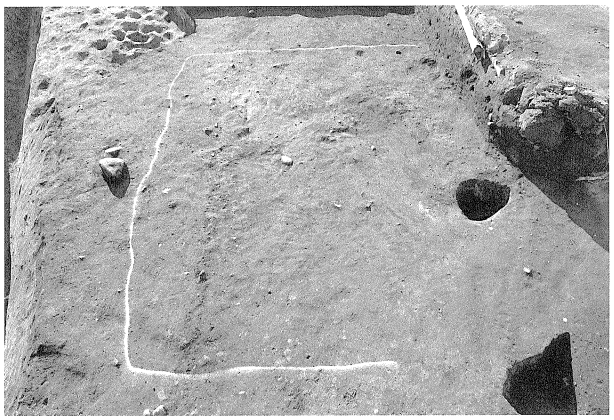
SI08竈全景（西から）

SI09全景（西から）



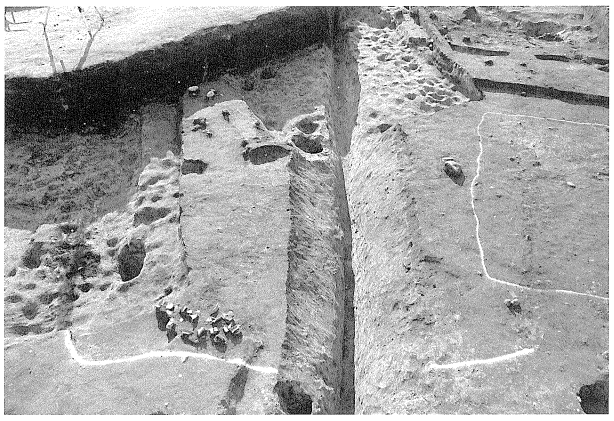
SI10全景（北から）

SI11～13全景（東から）

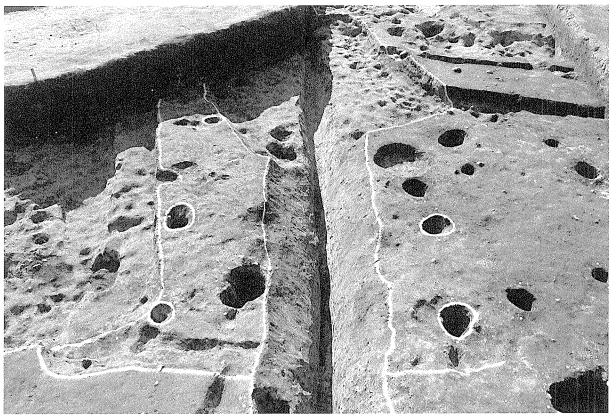


SI14全景（東から）

SI14掘り方全景（東から）



SI15全景（東から）



SI15掘り方全景（東から）

SD01全景（東から）

SK32全景（西から）

SD09全景（北東から）

SD13全景（西から）

SD02全景（西から）

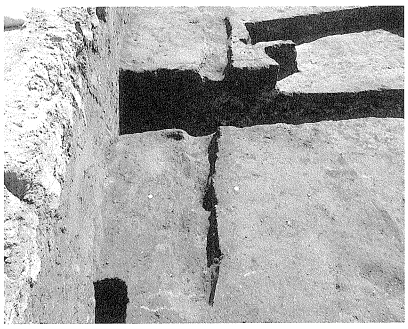
SD03全景（西から）

SD04・05全景（西から）

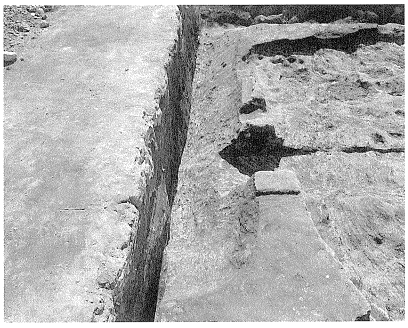
SD06全景（西から）

SD07全景（西から）

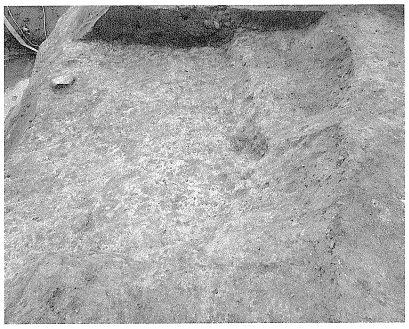
SD08全景（南西から）


SD10全景（北から）

SD11全景（南から）


SD12全景（北から）

SD14全景（北から）


SX01全景（東から）

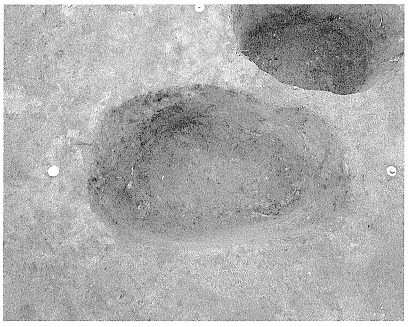
SX02全景（北から）

SX03全景（北から）

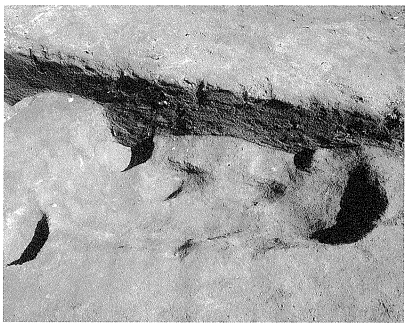
SK23全景（西から）

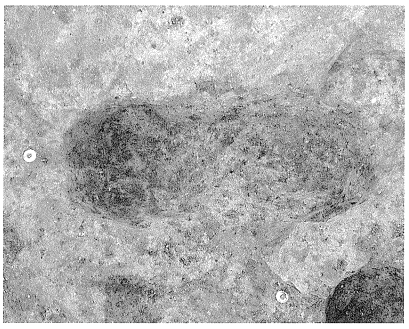
SK27全景（東から）

SK04全景（南から）


SK05全景（南から）

SK10全景（南から）

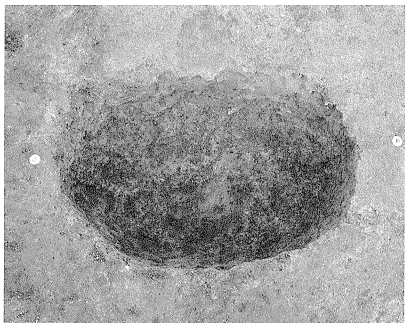

SK11全景（西から）

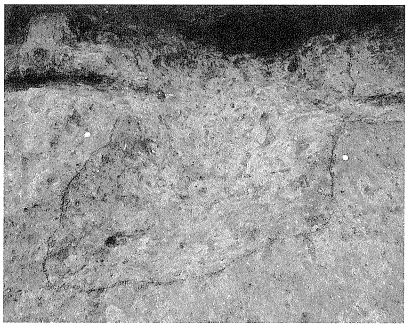

SK12全景（南から）

SK13全景（南から）

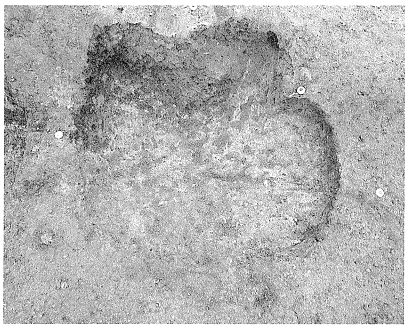
SK15全景（南から）

SK17全景（西から）


SK19全景（南から）

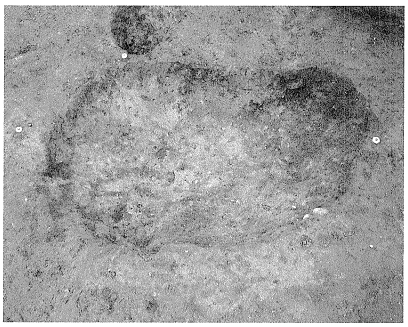

SK24全景（東から）

SK28全景（北から）


SK29全景（北から）

SK30全景（西から）

SK31全景（北から）

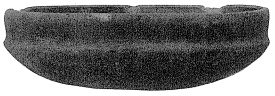

SK33全景（北東から）

SI01-1 (1/6)

SI01-2 (1/6)

SI01-3 (1/6)

SI01-4 (1/6)


SI03-1

SI03-2

SI03-3 (1/6)

SI03-5 (1/6)

SI03-6 (1/6)

SI03-7 (1/6)

SI04-1

SI03-8 (1/6)

SI03-9 (1/6)

SI03-10 (1/6)

SI04-02 (1/6)

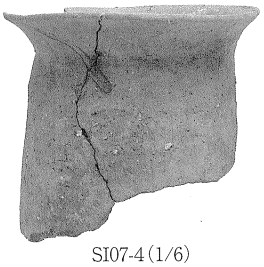
SI03-4 (1/6)

SI06-1 (1/6)

SI06-2 (1/6)

SI07-2

SI07-3


SI07-4 (1/6)

SI07-1

SI05-1

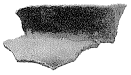
SI05-2 (1/2)

SI09-1

SI13-2 (1/6)

SI13-1 (1/6)

SI07-5

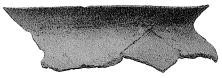

SI14-1 (1/6)

SI14-2 (1/6)

SI10-1 (1/6)

SI10-2 (1/6)

SI12-1


SI15-4 (1/6)

SI15-5 (1/6)

SI14-3 (1/6)

SI15-1

SI15-2

SI15-3

SI15-6 (1/6)

SI15-7 (1/6)

PL8

SK11-1
SK15-1
SK27-1
SK27-2
SK28-1(1/6)
SK32-1(1/6)
SK32-2(1/6)
SD01-1(1/6)
SD01-2(1/6)
SD06-1
SD07-1(1/6)
SD02-1
SD02-2
SD03-1
SD08-1
SD08-2
SD08-3(1/6)
SD13-1
SD13-2(1/6)
SX03-1(1/6)
SX03-2(1/6)
SX03-3
SX03-4
遺構外-1(1/6)
遺構外-2(1/6)
遺構外-3(1/6)
遺構外-4
遺構外-5
遺構外-6
遺構外-7
遺構外-8
遺構外-9
遺構外-10
遺構外-11(1/2)

報告書抄録

ふりがな	たかぜき・せきむらいせき2
書名	高関・堰村遺跡2
副書名	宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	－
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第287集
編著者名	瀬田哲夫
編集機関	技研測量設計株式会社
発行機関	高崎市教育委員会
発行機関所在地	〒370-8501　群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2011年6月30日

ふりがな	ふりがな	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
高関・堰村遺跡（たかぜき・せきむらいせき）	高崎市高関町（たかさきしたかぜきまち）字堰村（あざせきむら）94-1、他	102020	498	36° 19'20 "	139° 1'48 "	20110207 20110314	938.39㎡	宅地分譲

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高関・堰村遺跡 第2次調査	集落	縄文	なし	縄文土器 石器	
		弥生	なし	弥生土器	
		古墳	住居跡　14軒 溝　4条 土坑　3基	土師器 須恵器	
		奈良・平安	住居跡　1軒 土坑　1基	石製品	
		中・近世	掘立柱建物8棟 溝　6条 土坑　2基	陶磁器 在地土器 金属製品	

高崎市文化財調査報告書第287集

高　関・堰　村　遺　跡　2

2011年6月22日　印刷
2011年6月30日　発行

発行　高崎市教育委員会
〒370-8501　群馬県高崎市高松町35-1
TEL　027-321-1292

編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社